市立鶴居小学校グラウンド拡張・体育館改築、鶴居コミュニティセンター改築・駐車場造成に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

市　場　遺　跡
１～４次調査

中津市文化財調査報告　第71集

2015
中津市教育委員会

市場遺跡　1～4次調査
中津市文化財調査報告　第71集
2015　中津市教育委員会

市立鶴居小学校グラウンド拡張・体育館改築、鶴居コミュニティセンター改築・駐車場造成に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

市　場　遺　跡
１～４次調査

中津市文化財調査報告　第71集

2015
中津市教育委員会

序　　文

大分県の最北部に位置する中津市は、国指定名勝耶馬溪など緑豊かな自然や城下町の香りを色濃く残す、自然と文化の町として知られています。近年は、自動車関連会社などの進出を受け、工業の町としての新たな側面を見せはじめています。

一方、経済活動の発展・促進は、埋蔵文化財へ影響を与えていることも事実です。2014年度は圃場整備事業、市道建設工事などに伴う本発掘調査を行いました。また、各種開発事業に伴う試掘・確認調査件数はここ数年減少することなく高止まりしたまま推移しています。今後、東九州道などへのアクセス道路、インター周辺の開発等が予想されるため、埋蔵文化財を取り巻く状況の厳しさは続くことが予想されます。しかし、文化財は現代に生きる我々が責任をもって未来へ伝えていかなくてはなりません。

本書はこうした開発の中で、中津市大字相原における鶴居小学校グラウンド拡張・体育館改築、鶴居コミュニティセンター建設に先立ち、中津市教育委員会が実施した市場遺跡１～４次調査の発掘調査報告書です。調査により古墳時代の住居跡や中世の溝などが発見され、中津市の歴史を考える上で貴重な資料となりました。

本書が学術研究資料としてはもとより、埋蔵文化財の保護やその理解への一助となりましたら幸いです。

最後に、発掘調査から報告書刊行に至るまでご協力賜りました関係各位、及び、調査に従事して下さった方々に対し、深甚から感謝申し上げます。

平成27年３月31日

中津市教育委員会
教育長　廣　畑　　功

例　　言

1．　本書は中津市教育委員会が、1992年度に行った市立鶴居小学校グラウンド拡張工事、2008年度に行った鶴居小学校体育館改築工事、2008年度、2009年度、2010年度に行った鶴居コミュニティセンター改築工事等に伴う市場遺跡発掘調査事業の報告書である。
調査年度・開発内容により下記のように順次を付けて報告する。
　１次調査＝平成４（1992）年度　鶴居小学校グラウンド拡張工事
　２次調査＝平成20（2008）年度・21（2009）年度　鶴居コミュニティセンター改築工事
　３次調査＝平成20（2008）年度　鶴居小学校体育館改築工事
　４次調査＝平成22（2010）年度　鶴居コミュニティセンター駐車場造成工事

2．　1992年度の調査は栗焼憲児（現 豊前市役所）、それ以外は浦井直幸（中津市教育委員会）が担当した。

3．　遺物実測・遺構図浄書・原稿作成は平成26年度に行った。

4．　遺構の実測・撮影は上記担当者が行った。遺物実測・撮影・遺構図浄書は、臨時職員の浅田くるみ、安倍方恵、岩男純子、衛藤京子、金丸孝子、塩谷絹子、長倉朱見、古市智子、松村たか子の協力を得た。

5．　現場で用いた座標は世界測地系による。

6．　遺構の表記は下記のとおりである。
SH＝竪穴住居　SK＝土坑　SD＝溝状遺構　SX＝性格不明遺構

7．　図面等記録類は中津市歴史民俗資料館に、出土遺物は旧槻木中学校体育館に保管している。

8．　本書で使用した出土遺物の時期認定は以下の文献による。
須恵器
中村浩「和泉陶邑窯出土遺物の時期編年」『陶邑Ⅲ』大阪府教育委員会1978
田辺昭三『須恵器大成』角川書店1981
都城系土師器
林潤也・中西武尚・今田しのぶ「豊後における都城系土師器について」『大分・大友土器研究会論集』2001
土師器・黒色土器・鍋
後藤一重『八坂の遺跡Ⅲ考察・付論篇」大分県教育委員会2003
瓦器
小倉正五「宇佐地方の瓦器椀について-形式・編年に関する試案-」『古文化談叢第14集』1984
青磁
上田秀夫「14～16世紀の青磁碗の分類」『貿易陶磁研究2』1982

8．　報告書作成にあたっては下記の方々にご指導・ご協力いただいた。記して感謝申し上げます。
村上　久和（吉富町教育委員会）　吉田　寛（大分県教育庁埋蔵文化財センター）（敬称略）

9．　本書の執筆・編集は浦井が行った。

目　　次

序文
例言

第１章　調査の経緯と体制 …… 1
　第１節　調査に至る経緯 …… 1
　第２節　調査体制 …… 1
第２章　遺跡の位置と環境 …… 3
　第１節　地理的環境 …… 3
　第２節　歴史的環境 …… 3
　第３節　周辺の調査 …… 5
第３章　調査の方法と成果 …… 6
　第１節　調査の方法 …… 6
　第２節　調査の成果 …… 6
第４章　総括 …… 34
　第１節　遺構について …… 34
　第２節　遺物について …… 35
写真図版 …… 41
報告書名抄録 …… 49

挿　図　目　次

第１図　中津市内主要遺跡分布図 …… 4
第２図　調査区配置図 …… 5
第３図　１次調査区遺構配置図 …… 6
第４図　SH-１平・断面図・出土遺物 …… 7
第５図　SD-３平・断面図・出土遺物 …… 8
第６図　SD-４平・断面図・出土遺物 …… 9
第７図　SD-５平・断面図・出土遺物 …… 10
第８図　SD-６平・断面図・出土遺物 …… 11
第９図　SX-１平・断面・土層断面図 …… 12
第10図　SX-１内焼土遺構　平・断面図・SX-１出土遺物 …… 13
第11図　SX-１出土遺物 …… 14
第12図　SX-１出土遺物 …… 15
第13図　SX-１出土遺物 …… 16
第14図　SF-１平・断面図 …… 17
第15図　調査区内出土遺物 …… 17
第16図　２次調査区遺構配置図 …… 18
第17図　２次調査区基本層序 …… 18
第18図　１トレンチSD-１平・土層断面図・出土遺物 …… 19
第19図　１トレンチSD-１出土遺物 …… 20
第20図　１トレンチSX-１平・土層断面図・出土遺物 …… 21

第21図　１トレンチSK-２・３・４・SE-1平・断面・土層断面図・出土遺物 …… 22
第22図　２トレンチSD-１平・断面図・出土遺物 …… 23
第23図　２トレンチSD-２平・断面図・出土遺物 …… 23
第24図　３次調査区遺構配置図 …… 24
第25図　１トレンチSD-２平・断面図・出土遺物 …… 24
第26図　１トレンチSD-３・４平・土層断面図 …… 25
第27図　１トレンチSK-１平・断面図　SD-３・４・SK-１出土遺物 …… 26
第28図　１トレンチSH-１平・断面・南壁土層図・出土遺物・カマド平・土層断面図
…… 27
第29図　３トレンチSK-１・２平・土層断面図・出土遺物 …… 28
第30図　３トレンチSK-３平・断面図・出土遺物 …… 29
第31図　３トレンチSD-１平・断面図・出土遺物 …… 29
第32図　４トレンチSD-１平・断面図・出土遺物 …… 30
第33図　４次調査区遺構配置図 …… 31
第34図　１・２トレンチSD-１平・断面図・出土遺物 …… 32
第35図　１トレンチSD-３平面・土層断面図・出土遺物 …… 33
第36図　１トレンチSX-１平・断面図・出土遺物 …… 33
第37図　１トレンチSX-２平・断面図・出土遺物 …… 34
第38図　２トレンチSD-２平・断面図・出土遺物 …… 34
第39図　１次調査区SX-１出土椀型滓 …… 35

表　目　次

第１表　遺物観察表１ …… 36
第２表　遺物観察表２ …… 37
第３表　遺物観察表３ …… 38
第４表　遺物観察表４ …… 39

写真図版目次

写真図版１　調査区遠景　SH-１全景　SD-３・４・５全景　SX-1内焼土遺構
SX-1内遺物出土状況 …… 43
写真図版２　調査区南全景　SD-１木製品（柄振り）出土状況　SD-１内遺物（95）出土状況
１トレンチSX-１全景　２トレンチSD-１全景 …… 44
写真図版３　調査区遠景　１トレンチSD-４全景　１トレンチSD-４馬歯出土状況
１トレンチSH-1カマド検出状況　亀田先生視察状況 …… 45
写真図版４　調査区遠景　１トレンチSX-１全景　１トレンチSD-３全景
２トレンチSD-１全景 …… 46
写真図版５　出土遺物 …… 47
写真図版６　出土遺物 …… 48

第１章　調査の経緯と体制

第１節　調査に至る経緯

１次調査は平成４年度に行われた。中津市教育委員会による中津市大字湯屋225番地字市場の市立鶴居小学校のグラウンド拡張工事に伴うものである。グラウンドを南西側に拡張する工事であり、試掘調査が行われた結果、遺構・遺物が確認されている。本調査は平成４年４月15日～６月３日まで行われた。

２次調査は、平成20・21年度に鶴居コミュニティセンター改築に伴い行った。20年度調査は、工事による掘削が遺構面まで達しないとされていたため、遺構の配置状況、性格などを把握するため必要最小限の調査を行い終了した。周知遺跡外であったため、市場遺跡の範囲を拡大し、２月10日に県文化課へ報告した。その後に行われた地質ボーリング調査により、工事は遺構面にまで達することになったため、翌年度に前年度未調査区域の調査を実施した。調査は平成21年１月19日～２月９日、本調査は平成21年５月18日～６月３日に行った。

３次調査は、平成20年度に鶴居小学校体育館改築に伴い実施した。既存の体育館を地元産の木材などを原材料に用いて建設するものであった。建物４辺の下部に基礎が深く入る工事であったため、その箇所の調査を実施した。地下に影響を与えない体育館床部分の調査は行っていない。本調査は、平成21年３月５日～３月24日まで行った。３月18日に岡山理科大学・亀田修一先生の視察を受けた。

４次調査は、平成22年度、鶴居コミュニティセンター駐車場造成に伴い調査した。施設利用者の利便性を高めるために計画されたものである。地盤改良などを伴わない工事であり、地下遺構の分布状況、性格を把握するための調査を実施した。確認調査は、平成22年５月14日～28日まで行った。

第２節　調査体制

平成４年度

調査主体	中津市教育委員会	
調査責任者	武信　　元	（中津市教育委員会教育長）
調査事務	土井　　勝	（　　同　　市民文化センター館長）
	田中布由彦	（　　同　　文化財係員）
	富田　修司	（　　同　　文化財係員）
調査担当	栗焼　憲児	（　　同　　文化財係員）

平成20年度

調査主体	中津市教育委員会	
調査責任者	北山　一彦	（中津市教育委員会教育長）
調査事務	荒川　節幸	（　　同　　文化財振興課長）
	保科　　眞	（　　同　　文化財係長）
	平田　由美	（　　同　　文化財係員）
担　　当	浦井　直幸	（　　同　　文化財係員）

平成21年度

調査主体　　中津市教育委員会
調査責任者　北山　一彦（中津市教育委員会教育長）
調査事務　　江口　浩治（　　同　　教育次長）
　　荒川　節幸（　　同　　文化振興課長）
　　酒井　英司（　　同　　文化財係長）
　　平田　由美（　　同　　文化財係員）
担　　当　　浦井　直幸（　　同　　文化財係員）

平成22年度

調査主体　　中津市教育委員会
調査責任者　北山　一彦（中津市教育委員会教育長）
調査事務　　井口　慎二（　　同　　教育次長）
　　尾家　勝彦（　　同　　文化振興課長）
　　田中布由彦（　　同　　文化財係長）
　　平田　由美（　　同　　文化財係員）
担　　当　　浦井　直幸（　　同　　文化財係員）

平成26年度

調査主体　　中津市教育委員会
調査責任者　廣畑　　功（中津市教育委員会教育長）
調査事務　　後藤　義治（　　同　　教育次長）
　　今津　時昭（　　同　　文化財課長）
　　高崎　章子（　　同　　文化財係長）
　　宇野　真理（　　同　　管理係長）
　　河野さくら（　　同　　管理係員）
担　　当　　浦井　直幸（　　同　　文化財係員）

第２章　遺跡の位置と環境

第１節　地理的環境

中津市は大分県の最北部に位置する。人口約８万６千人、面積491㎢を誇り、北は周防灘に面し、西は福岡県、東は宇佐市、南は玖珠町・日田市と境を接する。英彦山に源を発する一級河川山国川が市内を南から北へ貫流し流域一帯を潤す。上中流域は山々に囲まれた地形で、山国川やその支流により開析された河岸段丘上に集落は営まれる。頼山陽により絶景と称された奇岩・奇勝の多くは名勝耶馬溪として国の指定を受ける。下流域は沖積作用による県北最大の平野「沖代平野」と洪積台地「下毛原台地」が広がる。

市場遺跡は、山国川右岸の沖積平野南端部に位置する。標高約14mに所在し北側の沖代地区条里跡に比べ微高地を形成している。

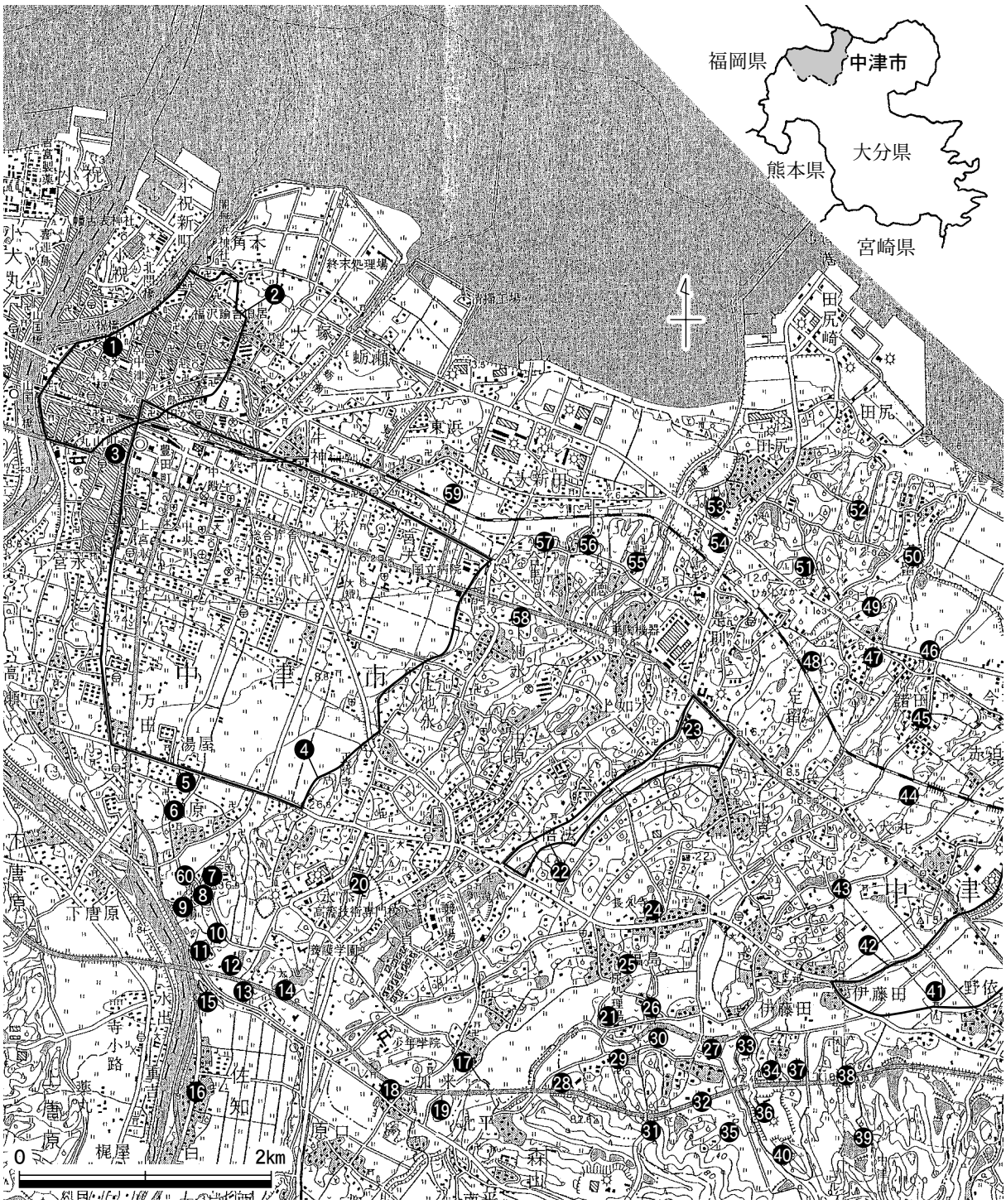
第２節　歴史的環境

市内の遺跡を概観すると旧石器時代の石器は才木遺跡（35）や法垣遺跡で発見されている。縄文時代は上畑成遺跡（43）で早期の無文土器が検出された。早期末から前期は黒水遺跡（18）で陥し穴が発見されている。遺跡数は縄文後期から増大する。植野貝塚やボウガキ遺跡（21）、女体像と見られる土偶が出土した高畑遺跡が挙げられる。法垣遺跡では複数の掘立柱建物が検出され注目されている。弥生時代では前期後葉から中期初頭の上ノ原平原遺跡（13）で貯蔵穴群が確認される。続く中期では二列埋葬の土壙墓・住居跡・溝が福島遺跡（25）で確認され、前期末から後期初頭の集落全域が森山遺跡（28）で検出された。古墳時代の遺跡としては亀山（亀塚）古墳（58）が挙げられるが、明治時代に調査せず破壊されたため詳細は不明である。その他の墳墓の多くは下毛原台地の西南に造営される。５世紀中ごろには山国川に面する勘助野地遺跡（12）で方形周溝墓が造営され、５世紀後半から７世紀前半にかけては上ノ原横穴墓（11）が展開する。古墳時代後期には三保地域に岩井崎横穴墓群（29）、城山古墳群（34）、城山横穴墓群（33）などが見られる。また、７世紀から９世紀にかけて相原山首遺跡（7）で方墳が造られる。古墳時代後期の集落は諸田遺跡（45）や定留遺跡（47）でまとまって発見されている。

古代には７世紀末に白鳳系の相原廃寺（6）が建立される。また、遅くとも８世紀初頭には沖代平野に条里制（4）が施行されたと考えられ、条里の南限は「勅使街道」と呼ばれる古代官道が走る。８世紀後半には官道南側に下毛郡衙正倉に推定される長者屋敷官衙遺跡（20）が確認された。須恵器や瓦を製作した生産遺跡は、踊ヶ迫窯跡（38）、草場窯跡（37）、洞ノ上窯跡などがある。集落遺跡としては古墳時代から10世紀まで続き緑釉陶器や墨書土器が出土した三口遺跡（60）がある。

中世は、長久寺の田丸城跡（24）など中世城館が市内各地に築かれる。16世紀末は黒田氏の入封によって中津城（1）が築城される。近年の調査によって、中津城は石垣に高度な構築技法が採用された現存する九州最古の近世城郭であることが判明した。

近世は関ヶ原の合戦後、黒田氏に替わって細川氏が入部し、城・城下町は整備・拡張される。城下の造営は小笠原氏が入部する1632（寛永９）年に完成を見る（2）。1717（享保２）年に奥平氏が入部し、1871（明治４）年の廃藩置県まで城下は奥平氏が統治した。



1. 中津城
2. 中津城下町遺跡
3. 豊田小学校校庭遺跡
4. 沖代地区条里跡
5. 市場遺跡
6. 相原廃寺
7. 相原山首遺跡
8. 鶴市神社裏山古墳
9. 坂手隈城跡
10. 幣旗邸古墳群
11. 上ノ原横穴墓群
12. 勘助野地遺跡
13. 上ノ原平原遺跡
14. 大池南遺跡
15. 佐知久保畑遺跡
16. 佐知遺跡
17. 加来居屋敷遺跡
18. 黒水遺跡
19. 法垣遺跡
20. 長者屋敷官衙遺跡
21. ボウガキ遺跡
22. 大悟法地区条里跡
23. 原遺跡
24. 田丸城跡
25. 福島遺跡
26. 福島地下式横穴
27. 前田遺跡
28. 森山遺跡
29. 岩井崎横穴墓群
30. 犬丸川流域遺跡
31. 洞ノ上窯跡
32. 安平遺跡
33. 城山横穴墓群
34. 城山古墳群
35. 才木遺跡
36. 城山窯跡群
37. 草場窯跡
38. 踊ヶ迫窯跡
39. ホヤ池窯跡
40. 大谷窯跡
41. 野依遺跡
42. 野依地区条里跡
43. 上畑成遺跡
44. 諸田南遺跡
45. 諸田遺跡
46. 天貝川遺跡
47. 定留遺跡
48. 定留貝塚
49. 和間貝塚
50. 定留鬼塚遺跡
51. 是能遺跡
52. 田尻大迫遺跡
53. 舞手橋東段上遺跡
54. 是則遺跡
55. 全徳遺跡
56. ガラヌノ遺跡
57. 合馬遺跡
58. 亀山古墳
59. 東浜遺跡
60. 三口遺跡

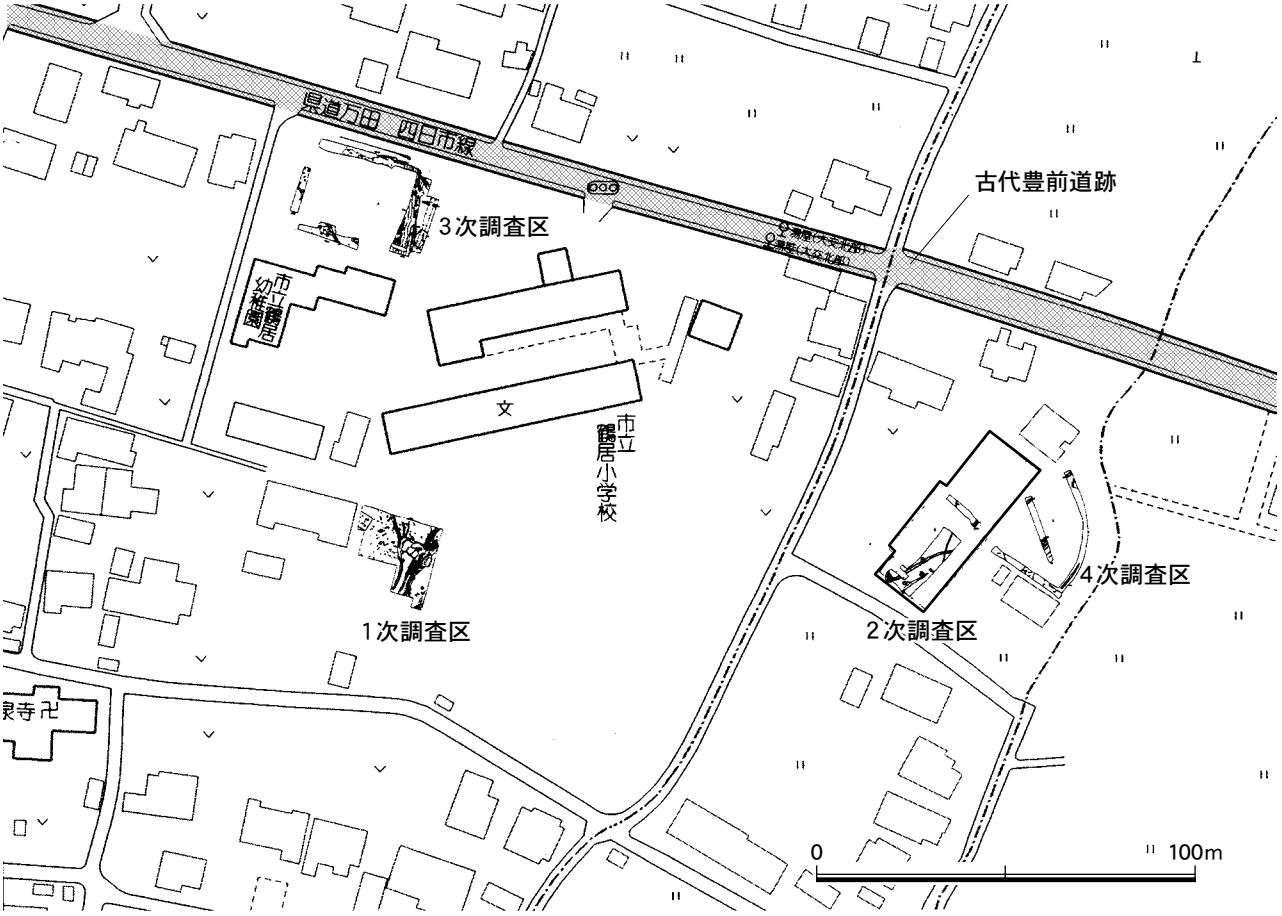
第１図　中津市内主要遺跡分布図（S＝1/50,000）

第3節　周辺の調査

市場遺跡周辺は遺跡の多い地域として周知されている。遺跡から南に350ｍの地点に県指定史跡相原廃寺が所在しており、遺跡の北側に古代豊前道跡が走る。相原廃寺は、７世紀末の創建とされる百済系瓦を出土する古代寺院跡であり、現位置を保つとされる礎石が２つ残る。その他の痕跡を探すべく５次にわたる確認調査が行われているが、往時の明確な遺構は確認されず、相原廃寺の中心部分が近世の土取り作業により著しく改変された可能性が指摘されている。(1) 古代豊前道跡は、勅使街道ともよばれた古代の官道である。市場遺跡周辺で波板状連続土坑など道路遺構を示す痕跡は未確認であるが、それを踏襲していると考えられる現在の県道万田四日市線は直線で東西に伸びており、往時の景観を想像することができる。官道より北側に広がる沖代地区条里跡は、古代条里制の姿を見ることのできるエリアとされている。しかし、宅地造成を主とする現在の開発により、急速にその景観は失われつつある。条里が官道に接する付近の発掘調査では６世紀末頃の竪穴住居跡などが検出されており、条里制施行以前からこの地域に人々が居住し集落を営んでいた姿を我々に想起させる。

市場遺跡内の調査は、今回報告する１次調査を皮切りに４次調査まで現在行われている。上記のように中津市の古代史を考える上で重要な位置にあたるため、周辺の開発にあっては注意を要する地域である。

註(1)　中津市教育委員会『中津城跡（二の丸）　相原廃寺Ⅴ』中津市文化財調査報告第12集　Ｐ７



第２図　調査区配置図（Ｓ=1/2,000）

第３章　調査の方法と成果

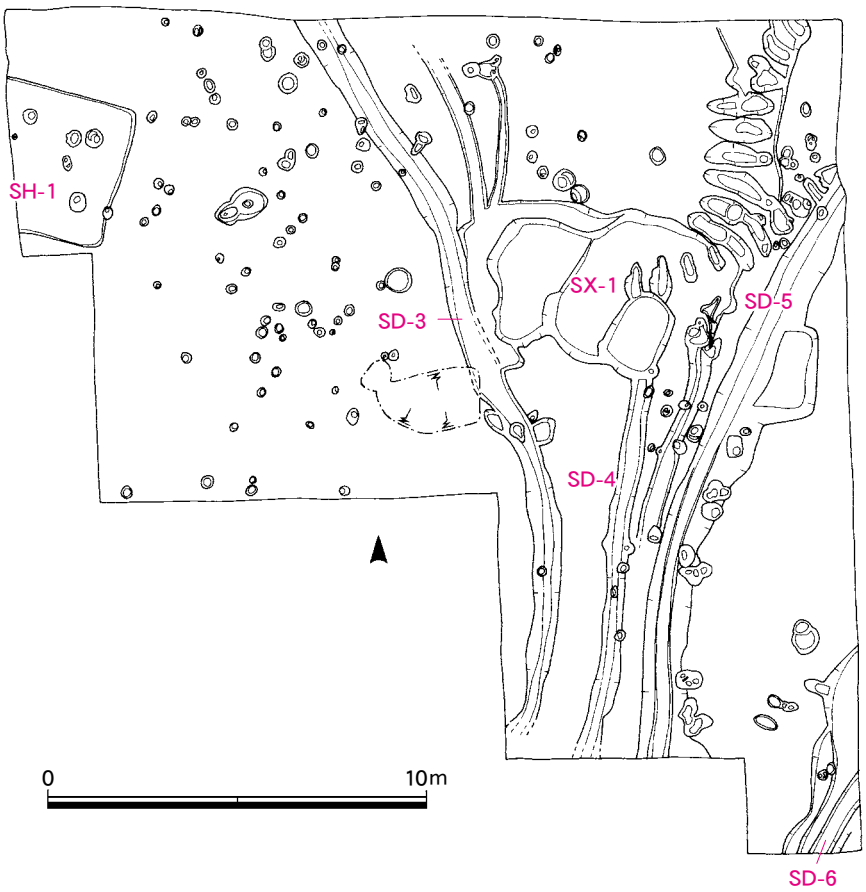
第１節　調査の方法

１～４次の各調査では重機を使用し、遺構の有無を確認した。本調査の表土剥ぎも重機を使用し、遺構の掘削は基本的に半截法を採用した。

第２節　調査の成果

（１）１次調査（第３図）

面積約370㎡の調査区を設定した。グラウンド地表面から１ｍ強にて遺構検出面に至る。後世の攪乱も一部に認められるが、調査区のほぼ全面から遺構を検出している。検出された遺構は、竪穴住居１棟、溝状遺構８条、土坑１基、複数の柱穴状遺構である。遺物は魚函（35㎝×34㎝×深さ13㎝）10箱分が出土した。遺物の時期は、６世紀末～７世紀初頭のものが多く、７世紀中葉～８世紀中頃の遺物も出土する。



第３図　１次調査区遺構配置図（S＝1/200）

以下、図化可能な遺物の出土を見た遺構を中心に説明する。

SH-１（第４図）

調査区北西端に位置する。方形プランで住居東壁は長さ3.8ｍ、北壁は3.8ｍ＋αを測る。床面までの深さは18㎝である。主柱穴3基を検出し、カマドは検出されていない。

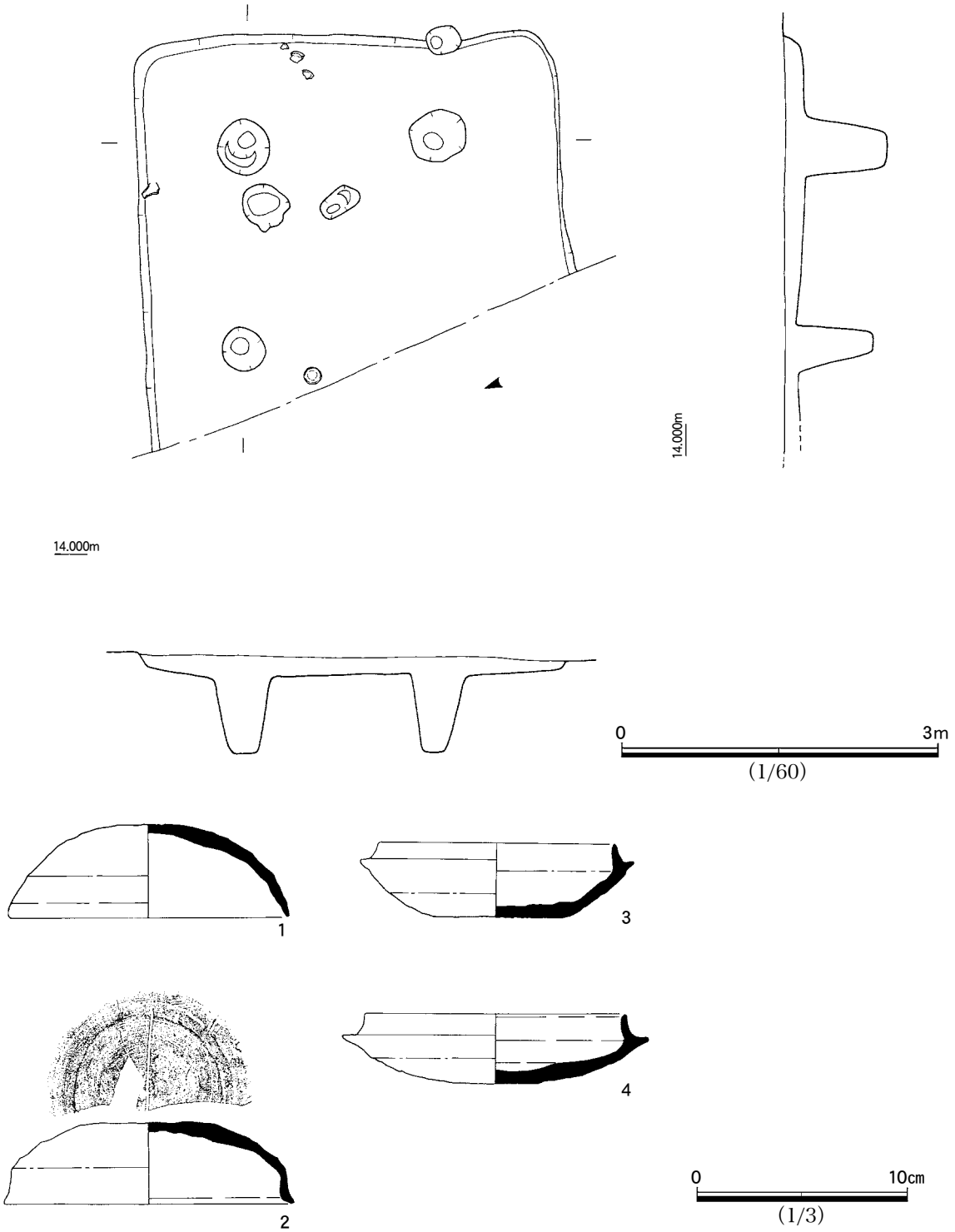
１～４は須恵器で、１・２は坏蓋。２は天井部にヘラ記号が残る。３・４は坏身で、復元口径12.2～13㎝を測る。田辺編年TK43並行、６世紀末の資料。図化していないが椀型滓状遺物が１点出土した。出土遺物から遺構の時期は６世紀末と考える。

SD-３（第５図）

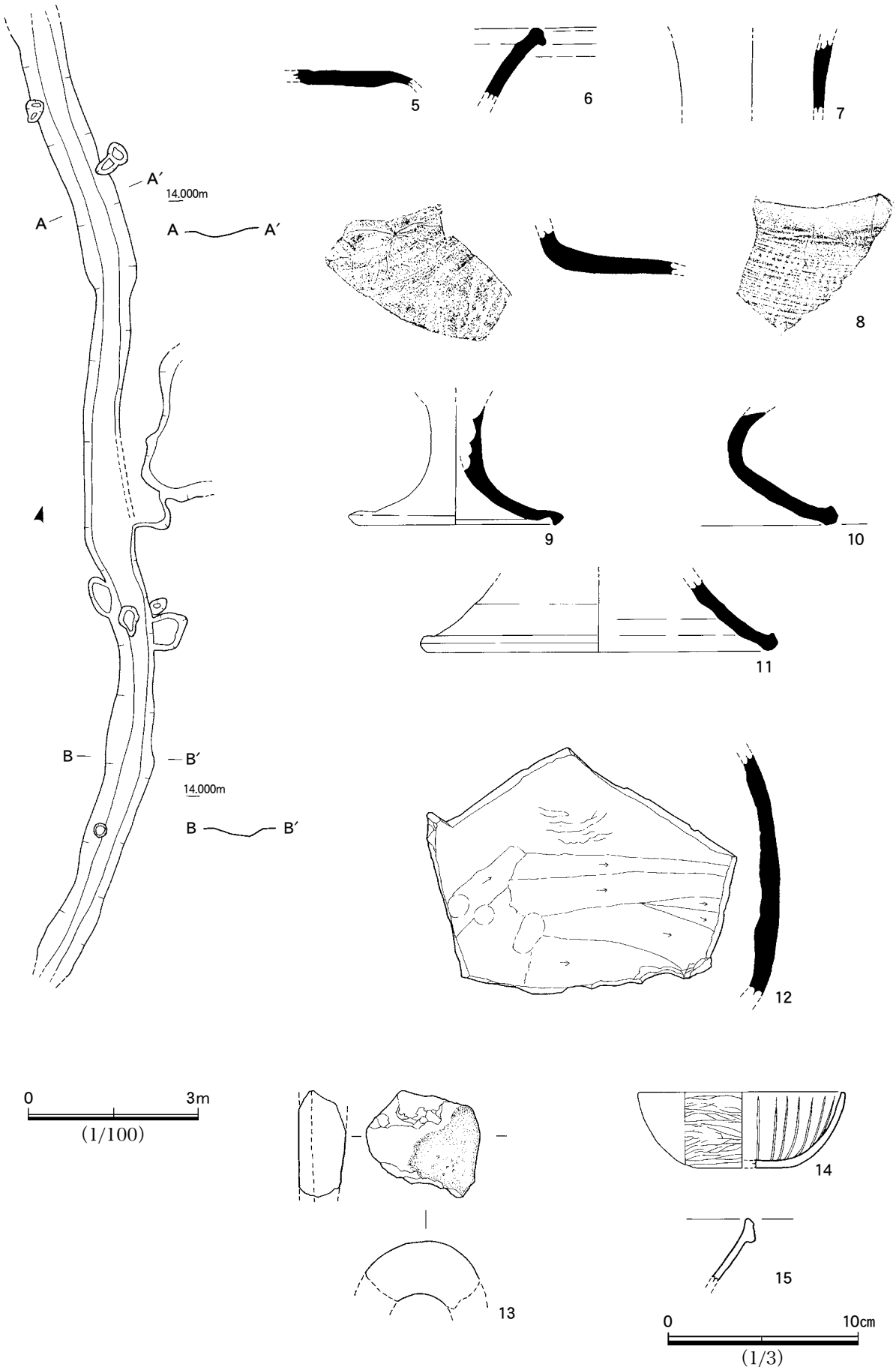
調査区中央に位置し、南北方向に蛇行する遺構である。長さ19.2ｍ、深さ15㎝を測る。

５～12は須恵器で、５は坏蓋。６は甕の口縁部であろうか。７は長頸壺の破片。８は甕の胴部上位。９～11は高坏の脚部。９の端部は鍵形に屈曲する。10・11の端部は丸く肥厚する。12は壺の胴部であろうか。内面は同心円叩き痕を丁寧にナデ消す。13は鞴の羽口。先端部に鉄滓付着。14は

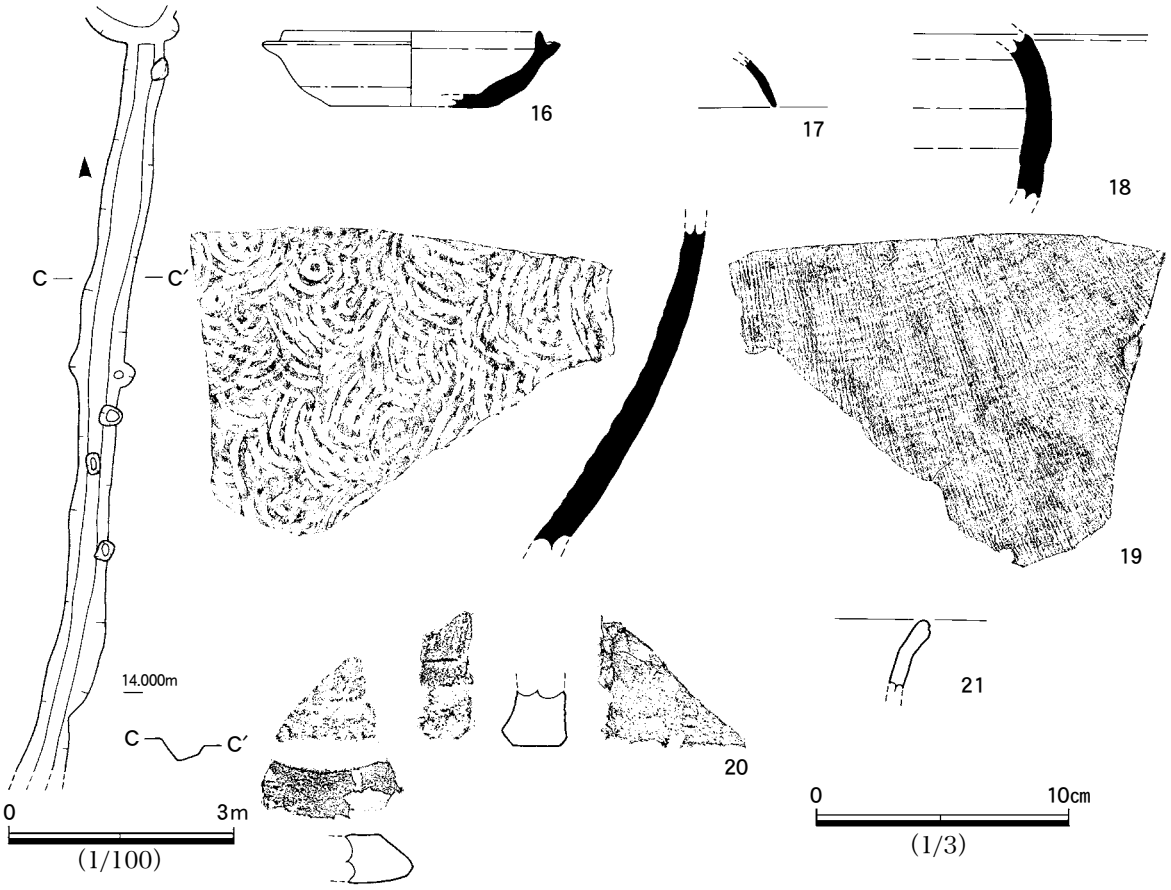
土師器の坏で、外面はヨコ方向のミガキ、内面は放射状に暗文を施す。豊後の編年を援用すれば７世紀中葉～８世紀前葉の資料といえる。15は白磁碗の玉縁口縁部片。その他、鉄滓が少量出土している。遺構の時期は14の資料から７世紀中葉～８世紀前葉頃と推測する。15の資料は後世の混ざり込みであろう。



第４図　SH-1 平・断面図（S＝1/60）**・出土遺物**（S＝1/3）



第５図　SD-3 平・断面図（S＝1/100）・出土遺物（S＝1/3）



第６図　SD-4 平・断面図（S＝1/100）**・出土遺物**（S＝1/3）

SD- 4（第６図）

調査区中央やや東よりに位置し、南北方向を指向する遺構である。長さ19.6ｍ、深さ約25㎝を測る。

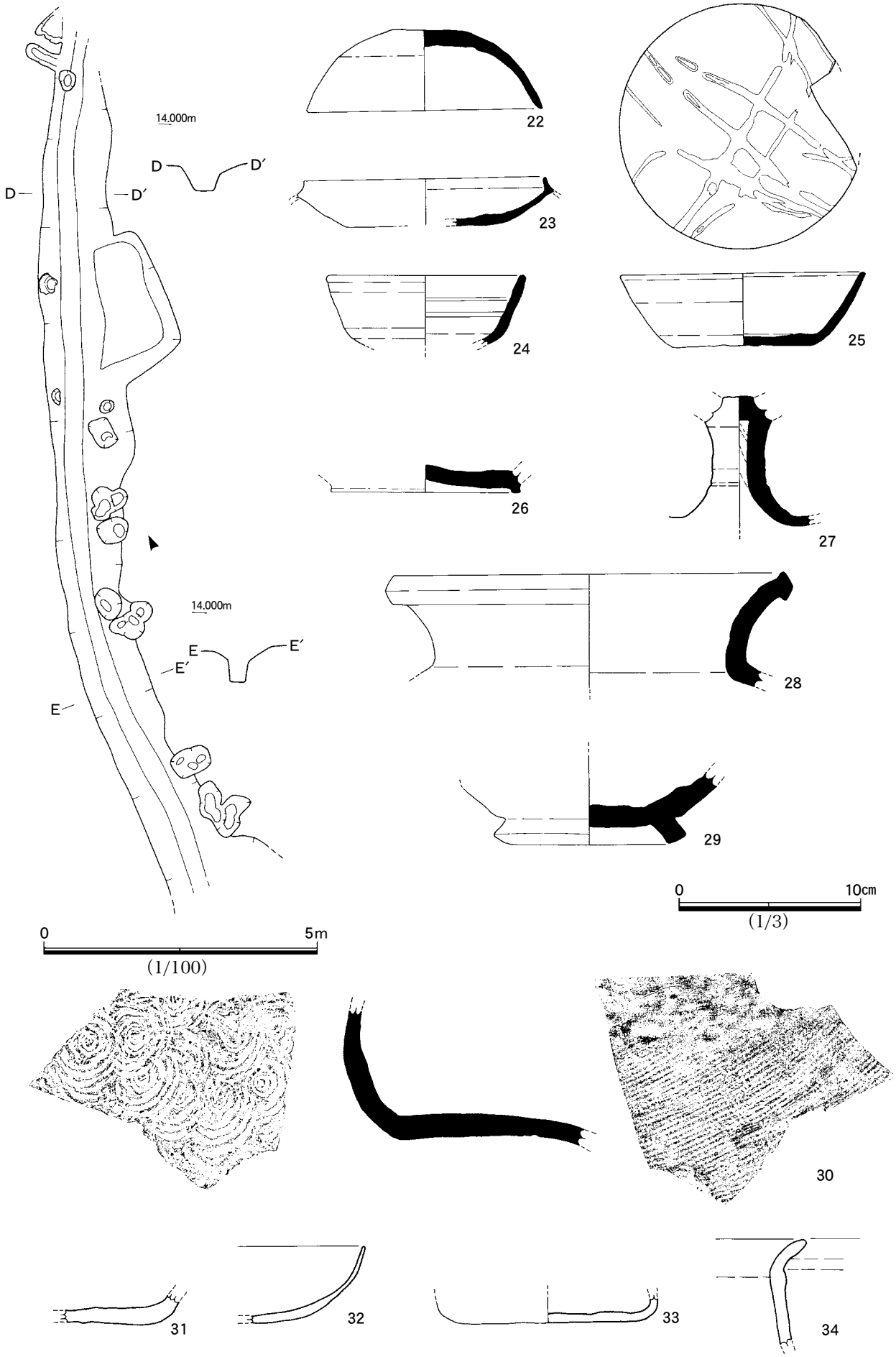
16 ～ 19は須恵器。16は坏身で、短い立ち上がりが直立的に伸びる。中村編年Ⅱ型式第６段階の資料、７世紀初頭～前半。17は坏蓋の口縁部片。18・19は甕の胴部か。20は平瓦片。破面は凸面側にあり丁寧にナデ消している。21は土師器の鍋。口縁部片。遺構の時期は16の資料から７世紀初頭と考えられるが、遺物量が少ないため判断が困難である。

SD- 5（第７図）

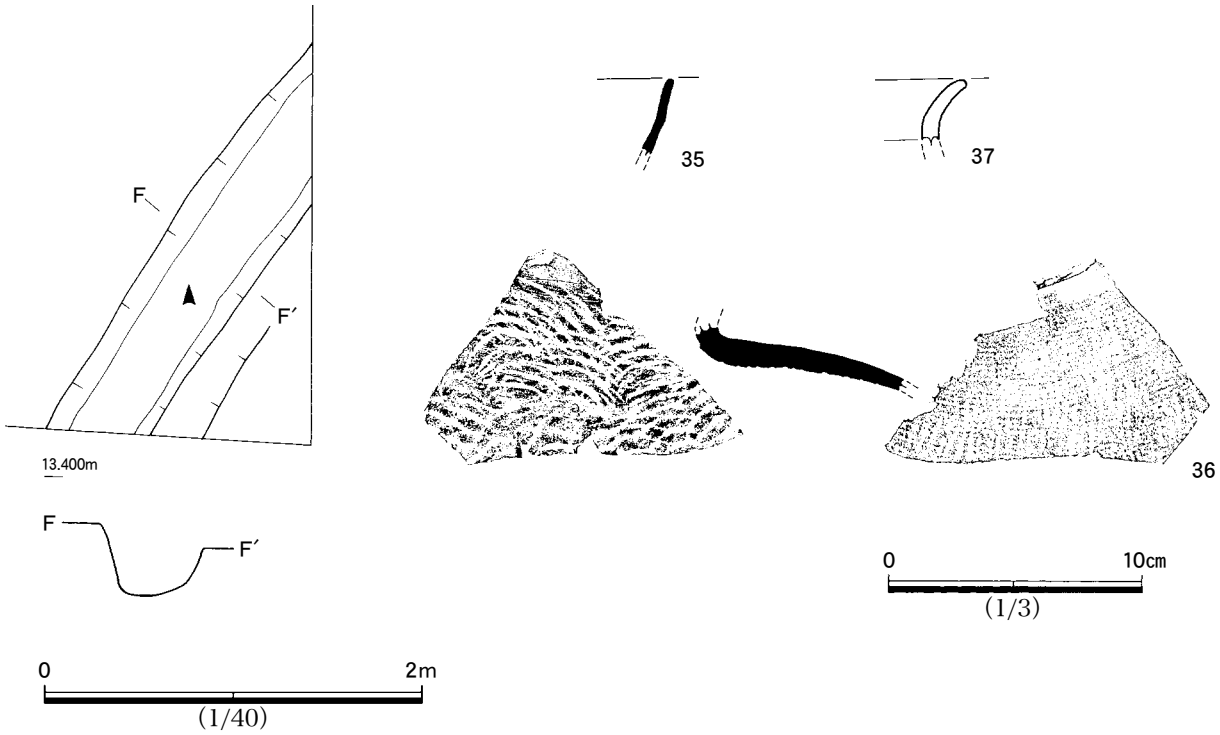
調査区東に位置し、南から北東向きを指向する遺構である。長さ15.6ｍ、深さ約45㎝を測る。

22 ～ 30は須恵器で、22は坏蓋。23は坏身。立ちあがりは短く、やや内傾しながら伸びる。田辺編年TK209段階、７世紀初頭の資料。24・25は埦。25はやや内湾気味に口縁部は立ち上がる。内面には格子目状に火襷の痕跡が残る。８世紀後半の資料か。26は埦の底部。高台は底部と体部の屈曲部に見られる。８世紀後半の資料。28は甕か壺の口縁部。29は脚付き壺の底部。30は甕の口縁部から肩部片。31 ～ 34は土師器で、31は皿の底部。32は埦。口縁部は内湾しながら立ち上がる。33は底部。壺か。34は甕の口縁部。その他、鉄滓がビニール４袋分出土している。

遺構の時期は、22・23から７世紀初頭、もしくは25から８世紀後半が考えられるが、時期比定が困難な遺構である。



第７図　SD-5 平・断面図（S＝1/100）**・出土遺物**（S＝1/3）



第８図　SD-6 平･断面図（S＝1/40）**･出土遺物**（S＝1/3）

SD- 6 （第８図）

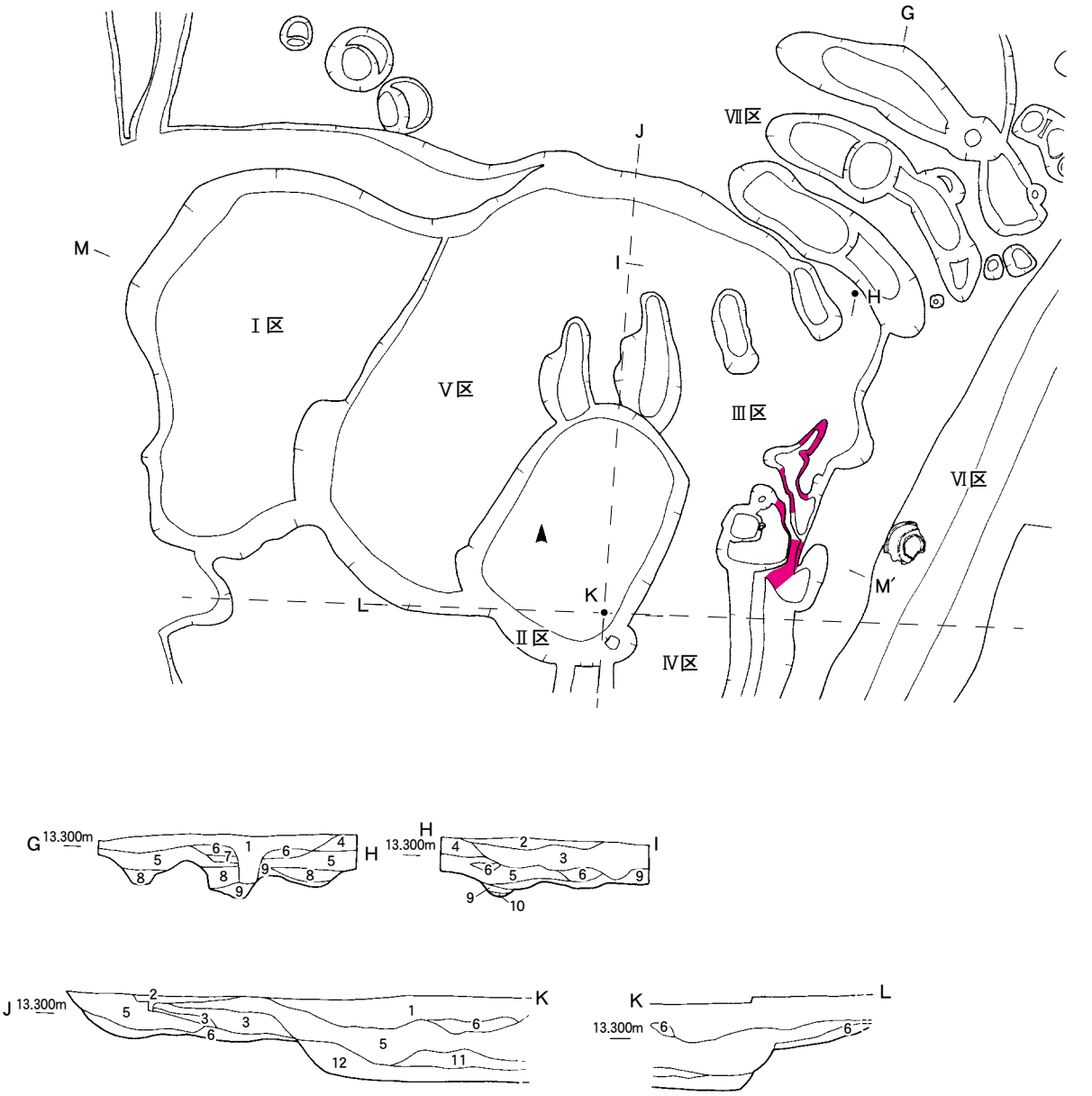
調査区南東端に位置する。直線的に伸びる遺構で、両端は調査区外に消える。

35・36は須恵器で、35は高坏の坏部か。36は肩部。甕か。37は土師器で甕の口縁部。鉄滓がビニール１袋分出土している。遺物量が少なく遺構の時期は不明である。

SX- 1 （第９～13図）

調査区中央やや東寄りに位置する。最も深い掘方をもつ隅丸方形土坑（中央土坑）は長軸2.31m、短軸1.56ｍを測る。その中央土坑から西側にかけてテラス面が２段構築されている。また、中央土坑から約１ｍ離れた位置に壁面が赤くやけた複数個の土坑からなる焼土遺構が検出されている。この土坑は炉穴で、焼土塊や炭化物小片・羽口片・鉄滓が出土したとされ、中央土坑や西側テラス面は廃棄土坑と考えられている[(2)]。この中央土坑やテラス面、焼土のある土坑などをSX-1とし、周辺も含めⅠ区～Ⅶ区に区分して調査された。

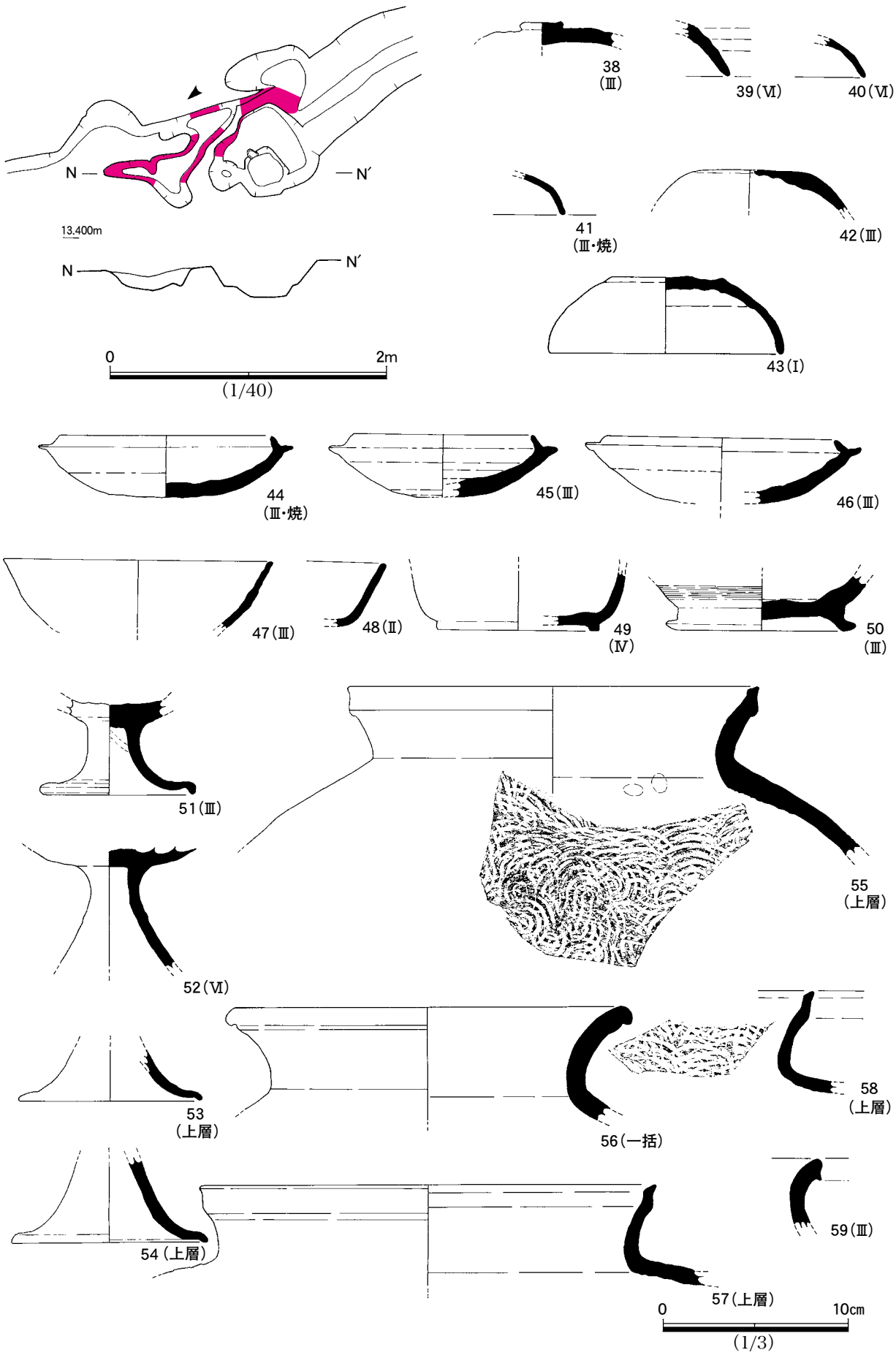
遺物は１次調査で検出した遺構の中で最も多く出土している。38～68は須恵器で、38はボタン状摘みが付された蓋。39～43は坏身。39～41は口縁部片。天井部からやや開き気味に降下する。42は天井部片。43は回転ヘラケズリ後雑なナデを施す。44～46は坏身。口径12.4～14.8㎝で、短い立ち上がりが内傾しながら伸びる。田辺編年TK209段階、７世紀初頭前後の資料。47～50は埦。49の断面方形の高台が底部と体部の屈曲部よりやや内側に付けられている。８世紀中頃の資料か。一方、50は屈曲部付近に付せられ、端部が外方に張り出す。51～54は高坏の脚部。51の端部は接地面に向け鍵形に曲がる。53・54は体部が端部付近で如意状に曲がる。いずれもスカシは見られない。55～60は甕の口縁部。55・57・58の端部は方形を呈し、56・59の端部は丸くなる。61～63は甕か壺の胴部片。64は瓶類の口縁部。65は鉢類。66は壺の体部から底部片。高台貼り付け



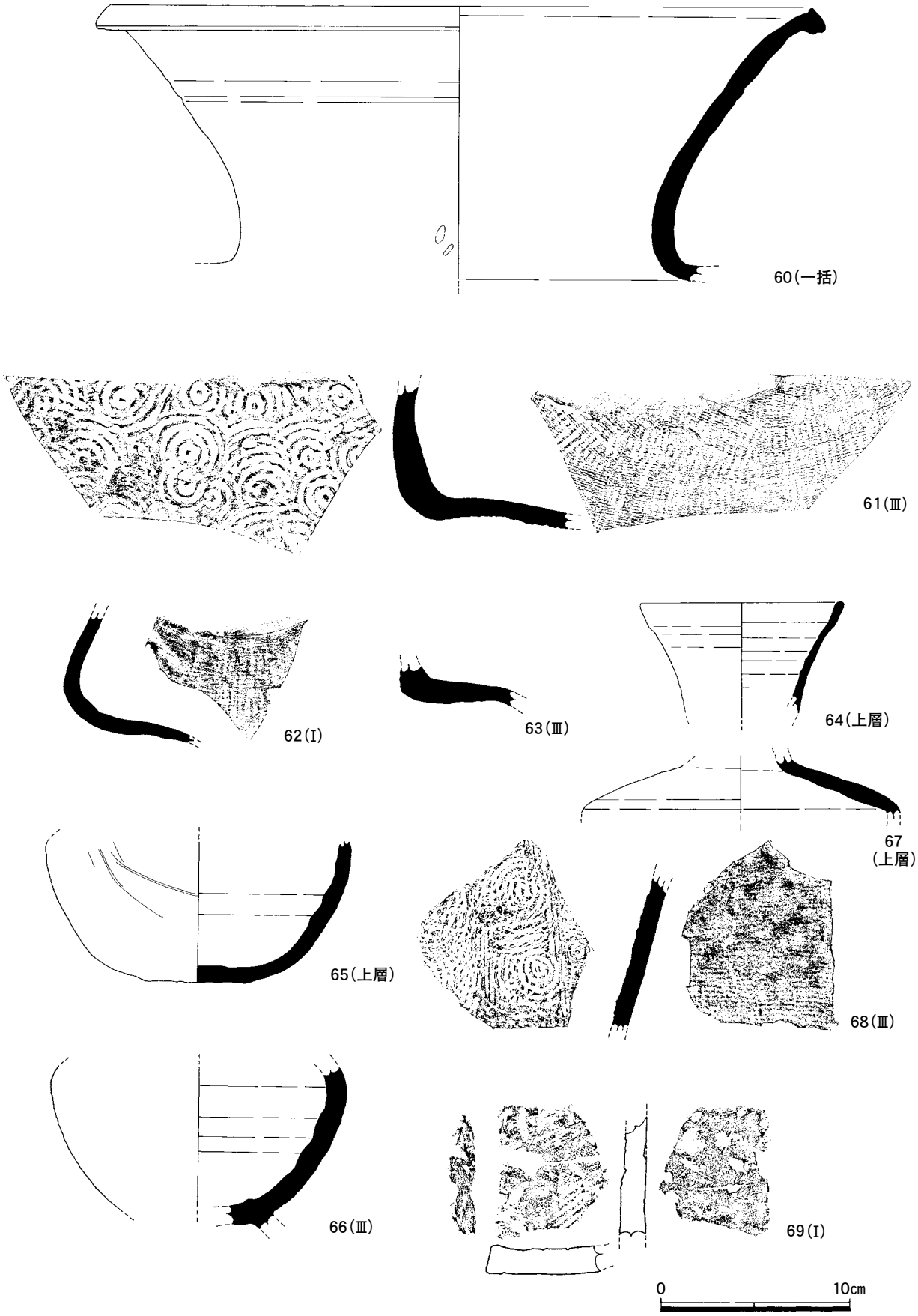
1．黒色土（フカフカしたクロボク層、ピット状の掘込みがみられる）
2．褐色土（褐色ブロックを含む。当初、SX-1の平面で見られたドーナツ状の褐色ベルトである）
3．黒色土（２層近いか。褐色のブロックを含む）
4．茶色土（ややフカフカする土層で粒状の褐色ブロックを若干含む）
5．茶色土（４層とほぼ同じだがやや暗くしまっている）
6．茶褐色土（褐色ブロックを多く含む、フカフカの土層で部分的にブロック状に含まれる）
7．暗茶色土（ハードローム状の土がブロック状に堆積する。極めて部分的にみられる）
8．暗茶色土（ややフカフカした土層）
9．暗茶色土（８より暗く、さらに固まっている。竪穴の底面に連続してみられ、意図的に貼られたものと考えられる）
10．青黒色土（ザラザラし、砂鉄が固まったような土層。製錬に関りのある土層か）
11．茶褐色土（フカフカした土層、褐色ブロックを含む）
12．暗茶褐色土（ややしまった土層で褐色、黒色ブロックを含む）
} 中央土坑覆土

0　2m

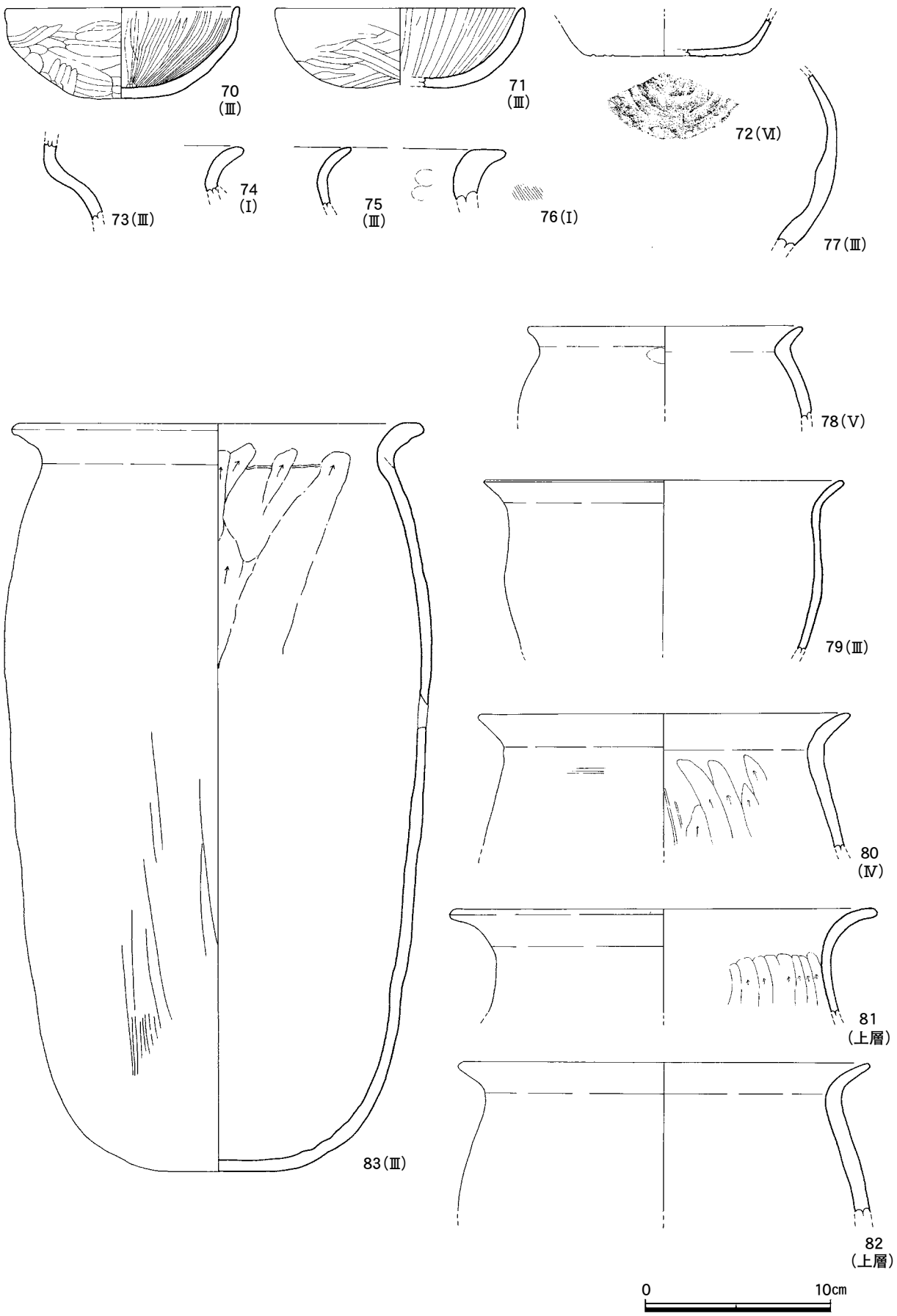
第９図　SX-1 平・断面・土層断面図（S＝1/60）



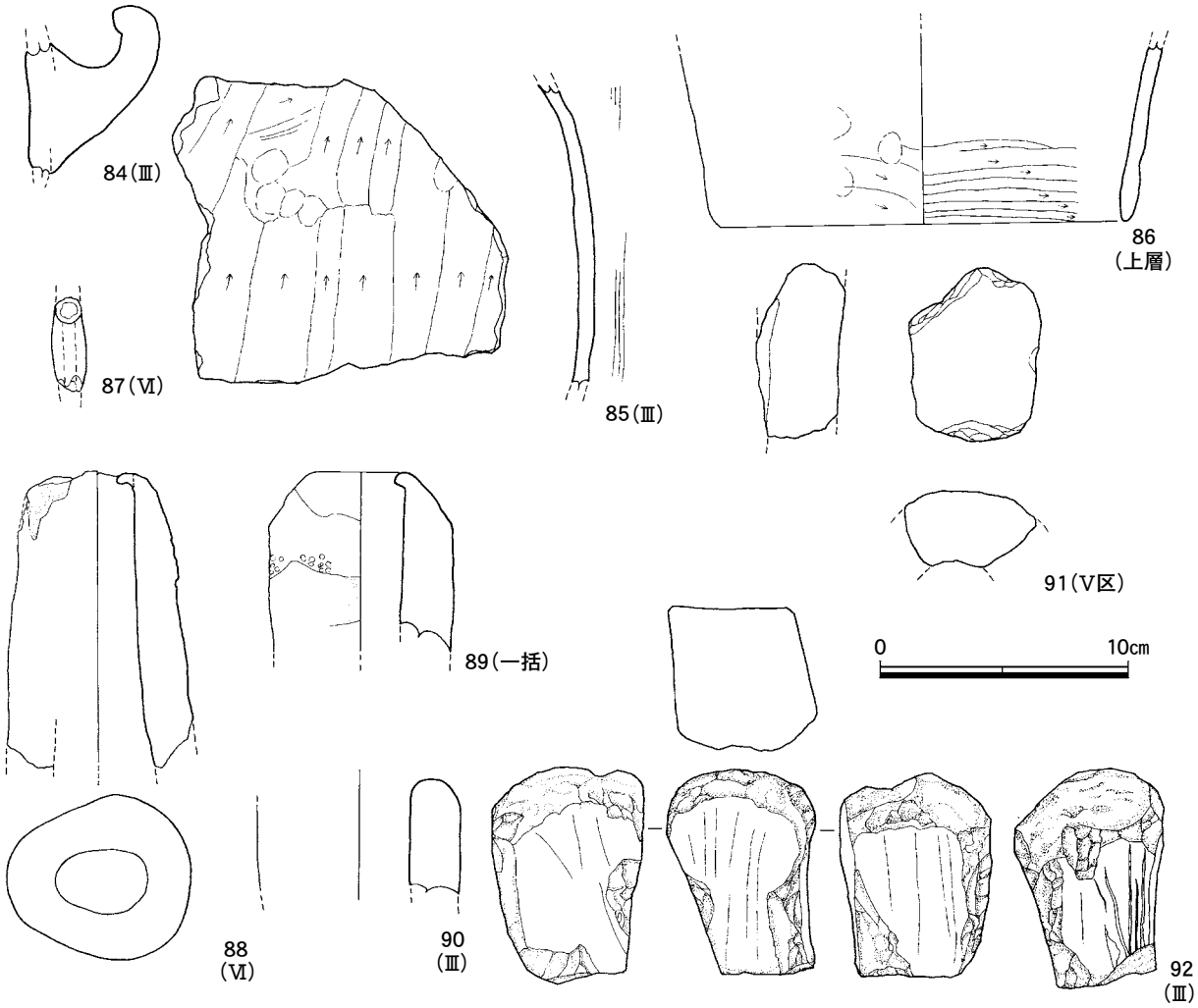
第10図　SX-1 内焼土遺構　平・断面図（S＝1/40）・SX-1 出土遺物（S＝1/3）



第11図　SX-1 出土遺物（S＝1/3）



第12図　SX-1 出土遺物（S＝1/3）



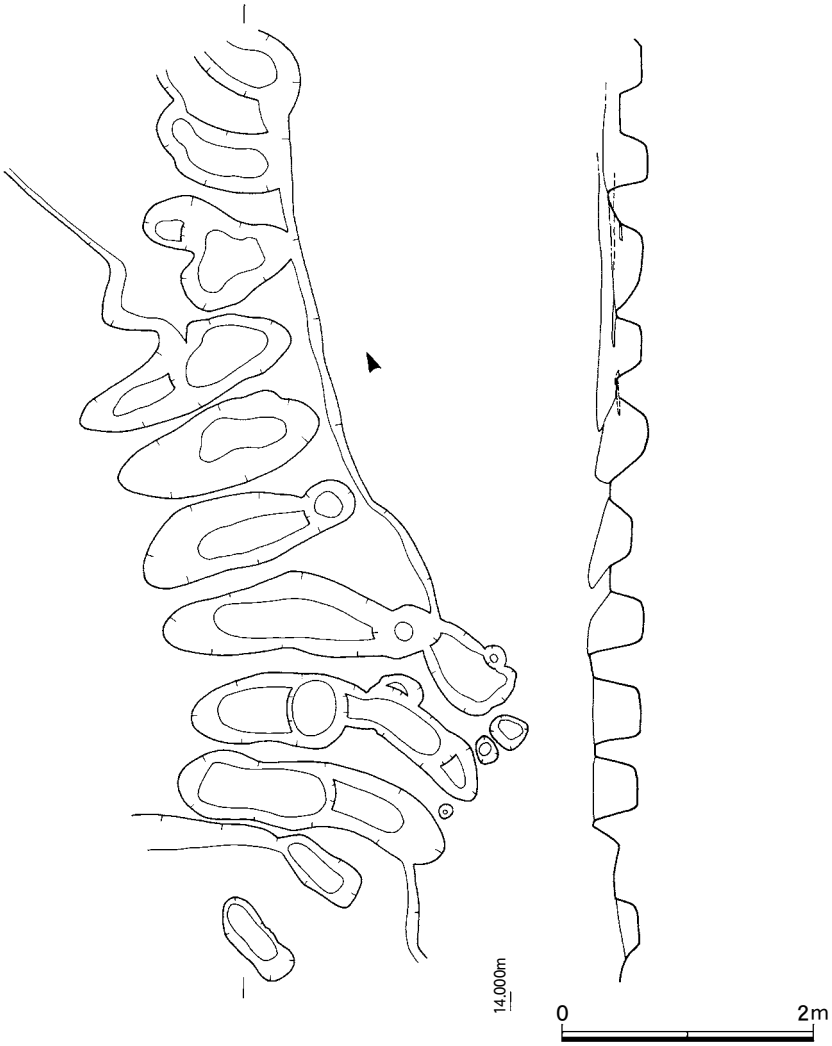
第13図　SX-1 出土遺物（S＝1/3）

の痕跡あり。67は長頸壺の肩部。68は甕類の胴部片か。69は平瓦。凸面に＊状の叩き痕跡あり。凹面に布目痕が残る。70～91は土師器。70・71は外面にミガキ、内面に丁寧な暗文を施す。色調は赤褐色で、胎土は精製された粘土を用いる。いわゆる都城系土師器といわれる遺物。７世紀中葉～８世紀前葉の資料か。72は埦で、底部はヘラ切り後雑なナデで仕上げる。73は壺の肩部。74～76は甕の口縁部。77は壺の胴部片。78～83は残存状況の良好な甕。78は口縁部に煤が付着している。80・81・83は胴部内面に縦方向ヘラケズリを施す。83は胴部中央に穿孔あり。84は甑の取手。85は甕の胴部片。86は甑の底部付近。内傾しながら降下する。87は土錘。88～91は鞴の羽口。89は先端部に鉄が融着する。92は天草石の砥石。各面に擦痕あり。鉄滓など製鉄関連遺物は魚函２箱分出土し、炉壁はビニール３袋出土した。

焼土遺構からは７世紀初頭の44が出土しているが、廃棄土坑とされるⅢ区から７世紀初頭の45以外に７世紀中葉～８世紀前葉の70・71などの遺物が出土している。また、Ⅳ区から８世紀中頃を示す49なども出土している。このため、積極的に焼土遺構（炉跡）を７世紀初頭前後に比定することに躊躇を覚える。現時点ではその可能性があるということに留めおく。

SF- 1（第14図）

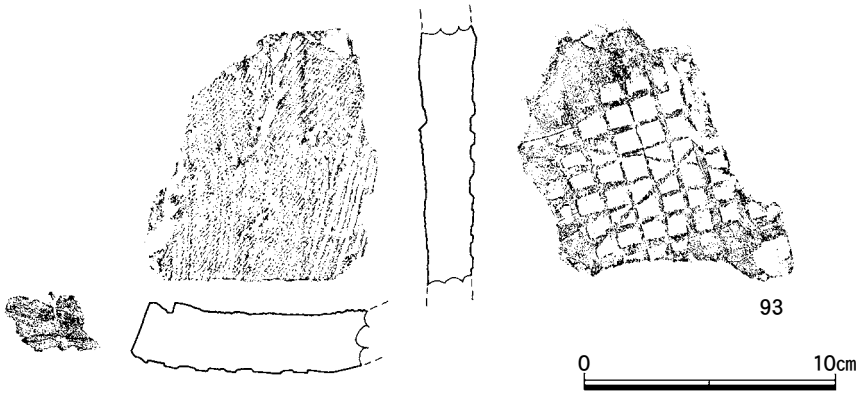
調査区北東に位置する。長さ8.4ｍの範囲に楕円形土坑が13個連続して敷設されている。南端は西側に曲がる。南端部を除く土坑の長さは直径1.1 ～ 2.1ｍ、最大深約40㎝を測る。南端の土坑は他より小さいことから、恐らくSX- 1により上部が破壊され遺構の下部が残存したものと考える。時間軸上では、SF- 1がSX- 1に先行する。遺物は出土していないため時期など詳細は不明である。道路状遺構と考えられる。



第14図　SF-1 平・断面図（S =1/60）

その他（第15図）

調査区内より93の瓦が出土している。平瓦で外面は格子に対角線が入る。ホヤ池窯跡[3]、相原廃寺[4]で同様の資料が検出されている。内面は布綴じ痕跡があり、取り外し後布目を消すナデ調整が行われている。



第15図　調査区内出土遺物（S =1/3）

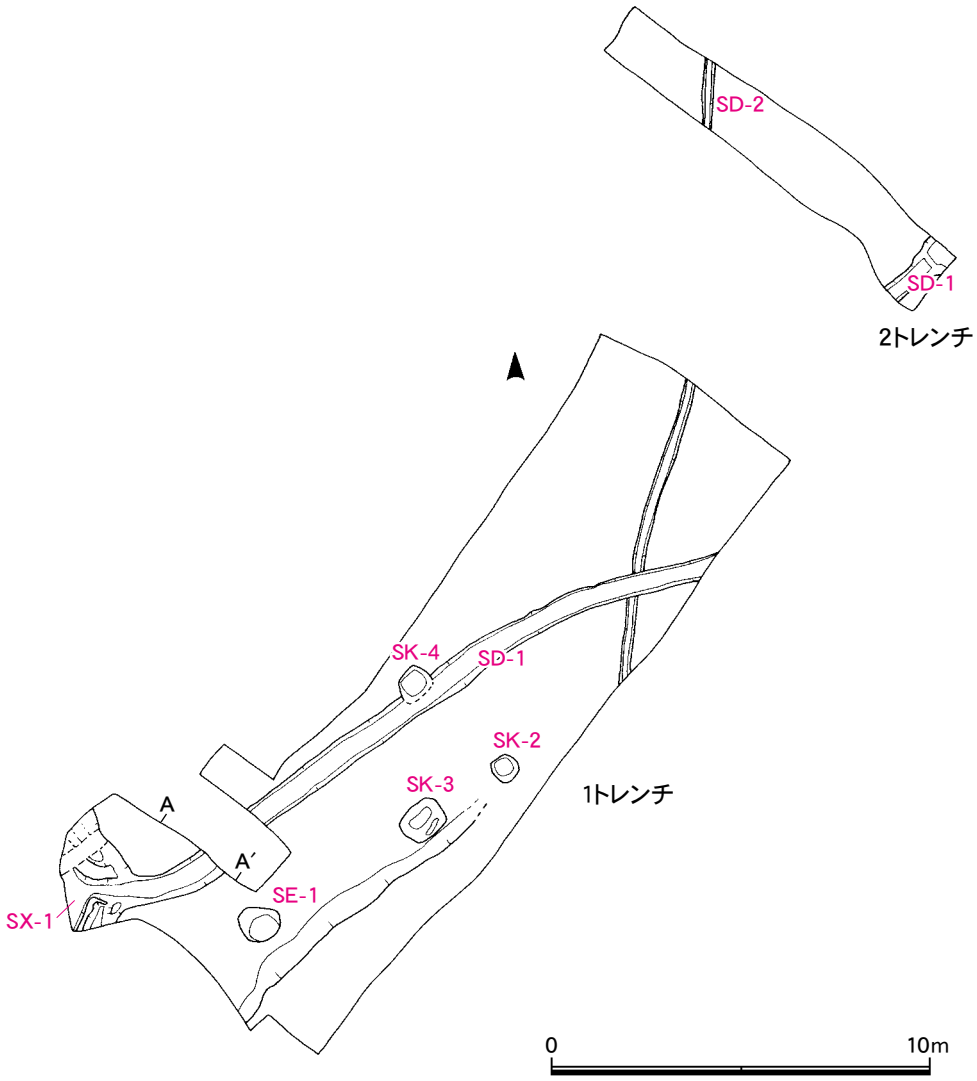
註(2)　村上久和「豊前地方の鉄生産の成立と展開」『地域の考古学　佐田茂先生佐賀大学退任記念論文集』2009
註(3)　中津市教育委員会『棒垣遺跡　ホヤ池窯跡』中津市文化財調査報告第15集　1995
註(4)　中津市教育委員会『相原廃寺』中津市文化財調査報告第7集　1989

（2） 2次調査

（第16・17図）

大字相原字取井地に所在する。試掘調査で遺構を確認した約140㎡を発掘調査した。基本層序は17図のとおりで、地表面から1m下位で遺構を検出している。稲株跡と思われる直径5㎝前後の円孔が6層の地山に多数残されていた。遺構は、溝状遺構3条、土坑4基、井戸1基、性格不明遺構1基である。遺物は6世紀末頃の資料が多く出土しており、木製品の出土が特筆される。

以下、図化可能な遺物の出土を見た遺構を中心に説明する。



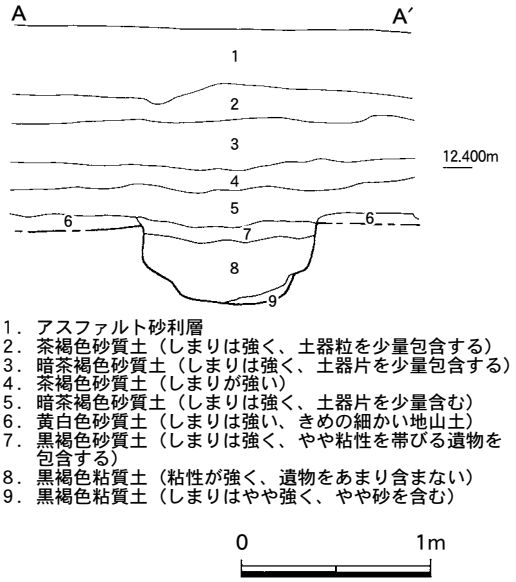
第16図　2次調査区遺構配置図（S＝1/200）

1トレンチ

SD-1（第18・19図）

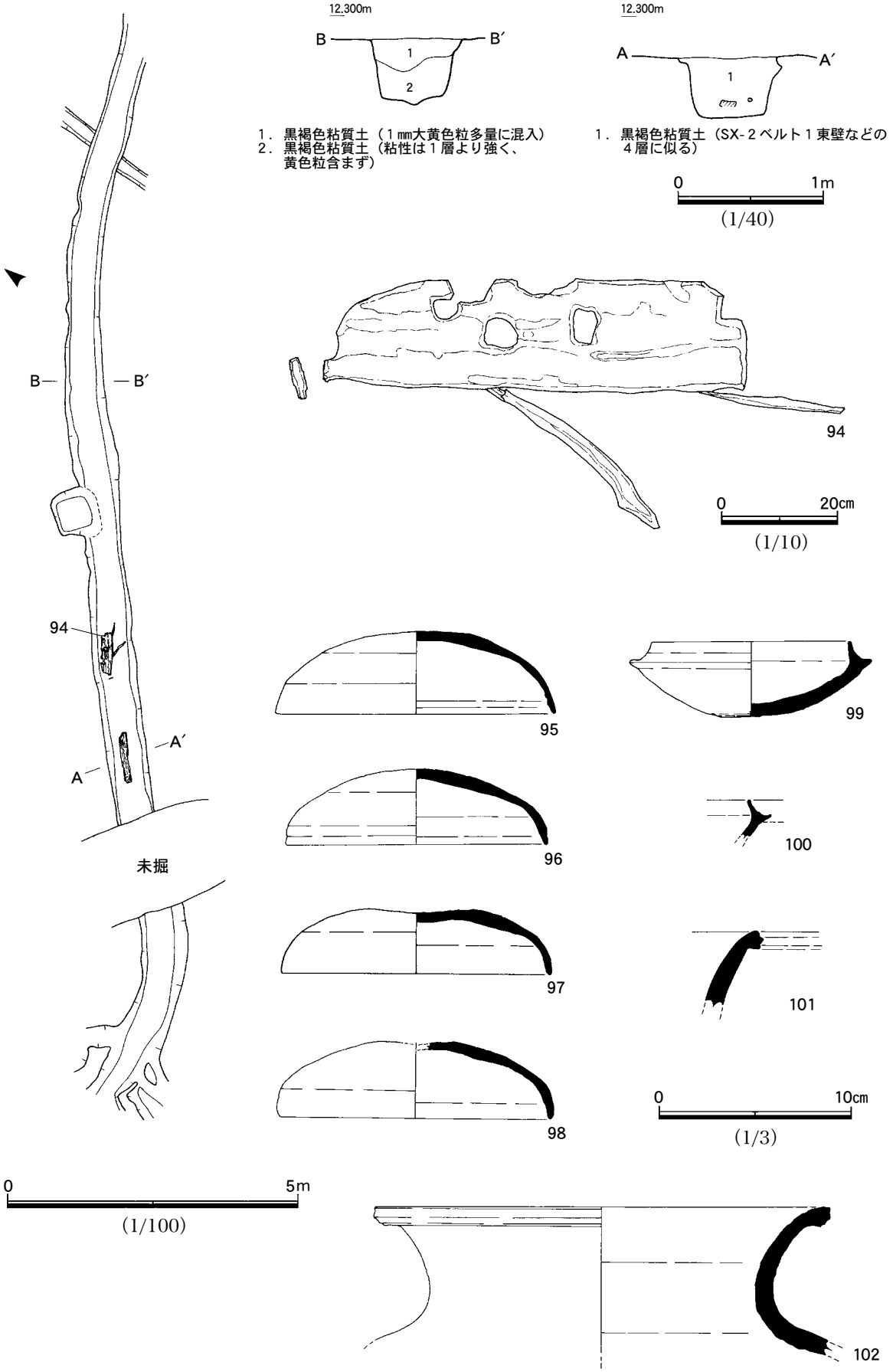
調査区中央を東西に横切る遺構である。長さ17.6m、幅80㎝、深さ約44㎝を測る。最下層に細砂が残存していたため、流水していた様子である。南端部に性格不明遺構SX-1が存在する。溝から桃の種のような種実が少量出土している。

94は木製品で柄振りと考えられる。直径73㎝、幅19㎝を測る。中央に5㎝前後の楕円形と長方形の穴が一つずつ穿孔されている。柄振

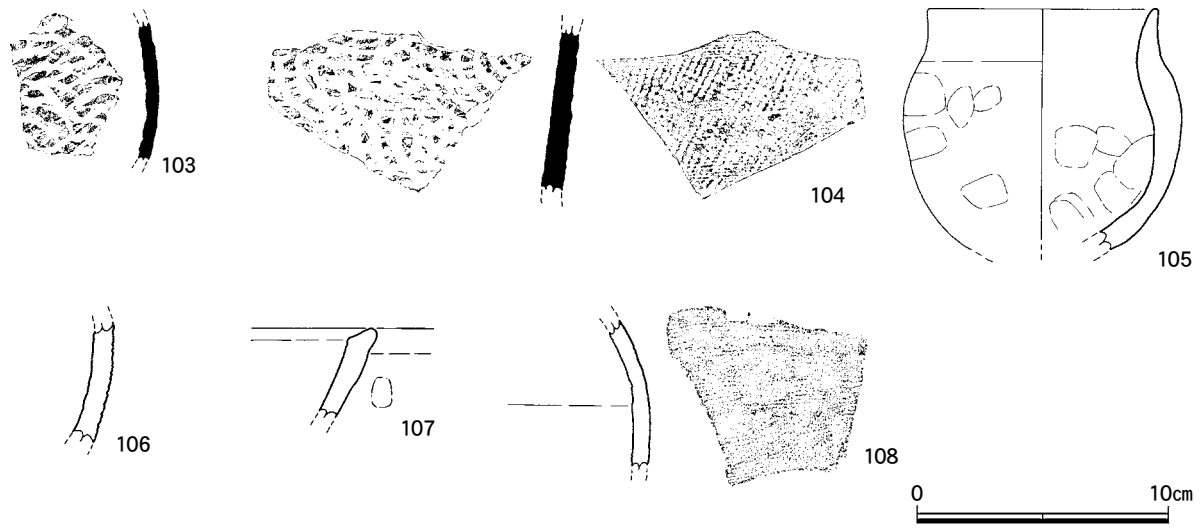


1．アスファルト砂利層
2．茶褐色砂質土（しまりは強く、土器粒を少量包含する）
3．暗茶褐色砂質土（しまりは強く、土器片を少量包含する）
4．茶褐色砂質土（しまりが強い）
5．暗茶褐色砂質土（しまりは強く、土器片を少量含む）
6．黄白色砂質土（しまりは強い、きめの細かい地山土）
7．黒褐色砂質土（しまりは強く、やや粘性を帯びる遺物を包含する）
8．黒褐色粘質土（粘性が強く、遺物をあまり含まない）
9．黒褐色粘質土（しまりはやや強く、やや砂を含む）

第17図　2次調査区基本層序（S＝1/40）



第18図　1トレンチ　SD-1 平（S＝1/100）**・土層断面図**（S＝1/40）**・出土遺物**（S＝1/10、S＝1/3）



第19図　1トレンチ　SD-1 出土遺物（S＝1/3）

りは田をならす道具であるため、恐らくここに木の柄を差し込み使用されていたものであろう。溝から出土する須恵器から６世紀末～７世紀初頭の時期のものと考える。遺憾ながら取り上げに失敗し、保存措置を講じることができなかった。95 ～ 104は須恵器。95 ～ 98は復元口径13.5 ～ 14㎝に収まる蓋。97・98は扁平気味。95の上には別の坏蓋が天井部を下にして意図的に置かれており、間に95に接合する破片が挟まれていた（写真図版２参照）。田辺編年TK43 ～ 209併行、６世紀末～７世紀初頭の資料。99 ～ 100は坏身。蓋と同じ時期であろう。101・102は甕の口縁部。103・104は胴部片。105・106は土師器。105は甕。107・108は瓦質土器。107は鉢。遺構の時期は、６世紀末～７世紀初頭と考える。

SX- 1（第20図）

SD- 1南端部に位置する。SD- 1と同一の遺構であろうが、形状が溝と異なることから、SX- 1として報告する。最大長3.1ｍ、深さ48㎝を測る。土層図を見ると機能停止後、西側から人為的に埋められた様子である。

109・110は須恵器。109は蓋。110は短頸壺。111は土師器の甕。内面に横方向ハケ目調整痕がある。112は青磁の口縁部。13世紀末～ 14世紀初めの資料。遺構の時期を明確に示す遺物は出土していないものの、112の混ざり込みと思われる青磁を除き、他の資料はSD- 1と同時期を示すと考え、６世紀末～７世紀初頭と判断する。

SK- 2（第21図）

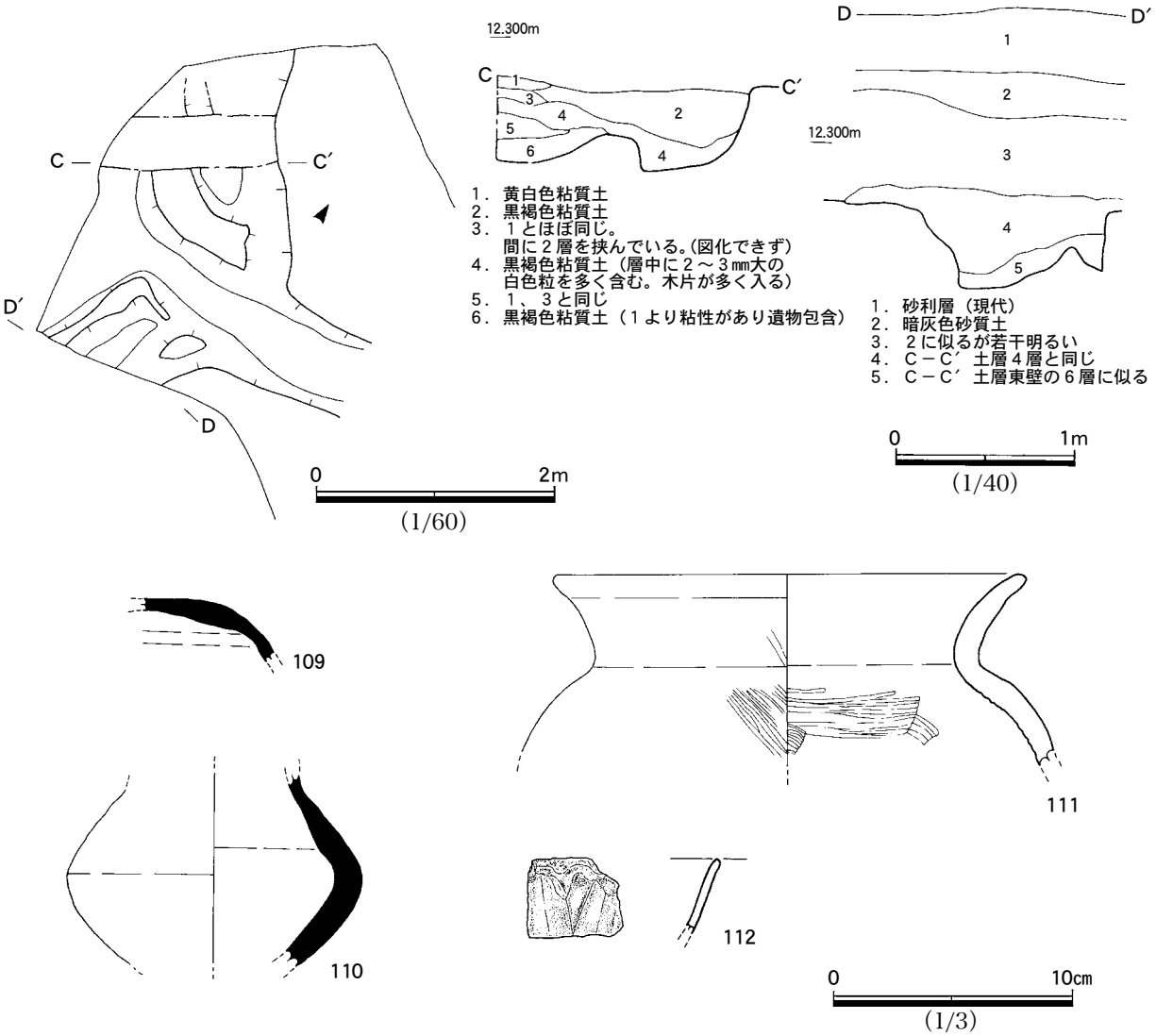
調査区中央やや南よりに位置する。最大長76㎝、最大幅70㎝、深さ16㎝を測る。

遺物は少量出土している。113は須恵器で甕の体部から頸部付近である。遺物が少量のため遺構の時期は明確にしえない。

SK- 3（第21図）

調査区中央やや南よりに位置する。最大長120㎝、最大幅96㎝、深さ56㎝を測る。

遺物は少量出土している。114は瓦質土器。甕か。遺物が少量のため遺構の時期は明確にしえない。



第20図　1トレンチ　SX-1 平（S＝1/60）**・土層断面図**（S＝1/40）**・出土遺物**（S＝1/3）

SK- 4 （第21図）

調査区中央やや西よりに位置する。最大長81㎝、最大幅60＋αcm、深さ52㎝を測る。南端部がSD- 1により切られている。

遺物は少量出土している。115・116は須恵器。115は蓋で、端部は屈曲する。中村編年Ⅳ型式併行、８世紀前葉の資料。116は甕。体部と肩部の屈曲部にヘラ状工具による線刻あり。遺構の時期は８世紀前葉であろう。

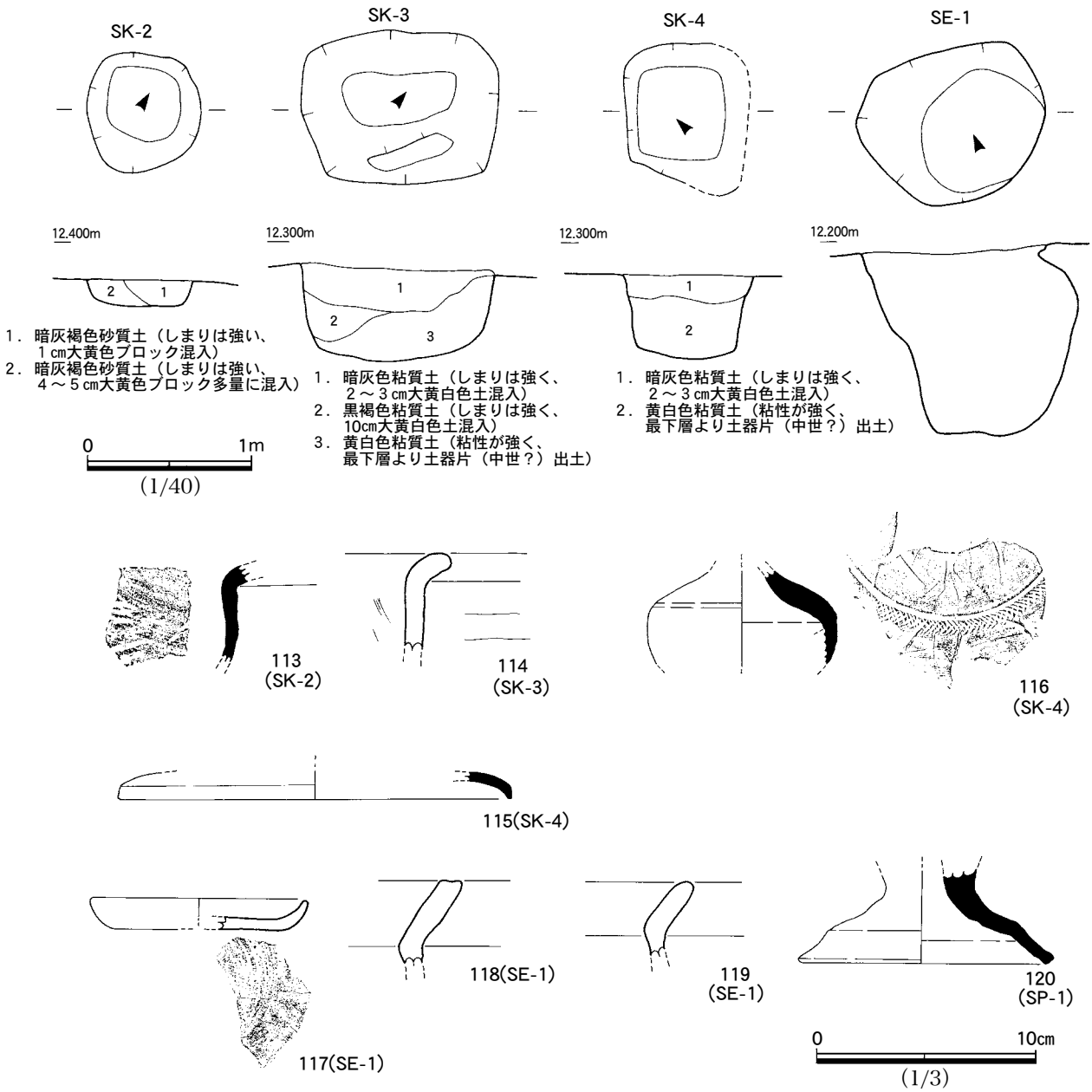
SE- 1 （第21図）

調査区南に位置する。最大長116㎝、最大幅112㎝、深さ112㎝を測る。東側がオーバーハングし、底から湧水していた。

117は土師器の皿。底部は糸切り離しとする。11世紀代の資料か。118・119は瓦質土器の甕。

その他

120は柱穴出土資料。須恵器で高坏。遺物が少量のため遺構の時期は明確にしえない。



第21図　1トレンチ　SK-2・3・4・SE-1 平・断面・土層断面図（S＝1/40）**・出土遺物**（S＝1/3）

2トレンチ

SD-1（第22図）

トレンチ東端に位置する。最大長184㎝、最大幅88＋α㎝、深さ40㎝を測る。東端部は末広がり気味となり調査区外へ消える。

121は須恵器の蓋。摘みが付き、体部から口縁部に至る部位は段を有している。田辺編年TK10段階、6世紀中葉の遺物。遺物が少量のため遺構の時期は明確にしえない。

SD-2（第23図）

トレンチ中央西寄りに位置する。1トレンチ中央東よりで検出された溝と同じ遺構と考える。最大長16.5m、幅30㎝、深さ15㎝を測る。

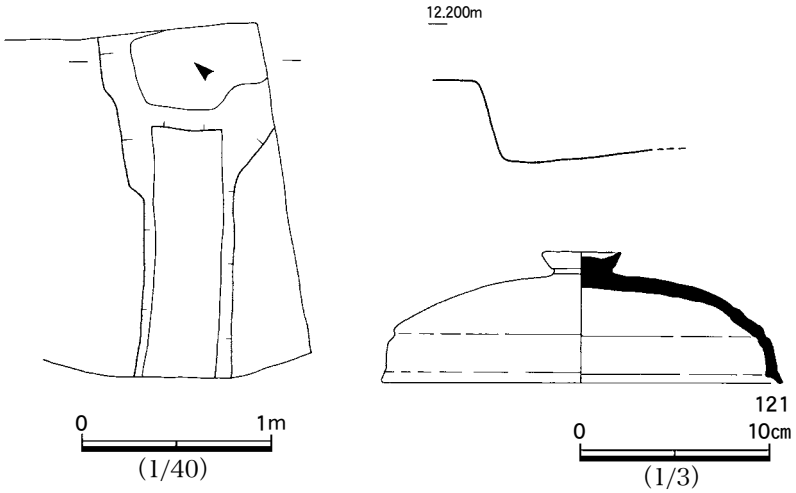
122は瓦質土器の鉢。遺物が少量のため遺構の時期は明確にしえない。

（３）３次調査（第24図）

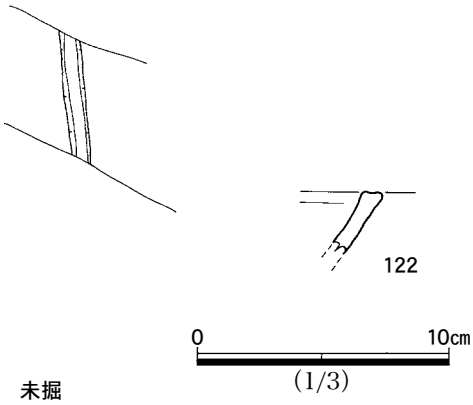
鶴居小学校体育館改築工事に伴い面積約360㎡の調査区を設定した。建物基礎が地中深く入る建物4辺付近を中心に調査を行った。地表面から１m強にて遺構検出面に至る。東側に設定した１トレンチ、北側の２トレンチにおいて後世の攪乱が認められた。調査区北側は古代豊前道跡（勅使街道）のため、道路状遺構や側溝などの発見も想定し調査にあたった。

検出した遺構は、竪穴住居１棟、溝状遺構７条、土坑３基、複数の柱穴状遺構である。特に１トレンチのSD-４は大規模で目を引いた。

以下、図化可能な遺物の出土を見た遺構を中心に説明する。



第22図　2トレンチ　SD-1 平･断面図（S=1/40）･出土遺物（S=1/3）



１トレンチ

SD- １（第25図）

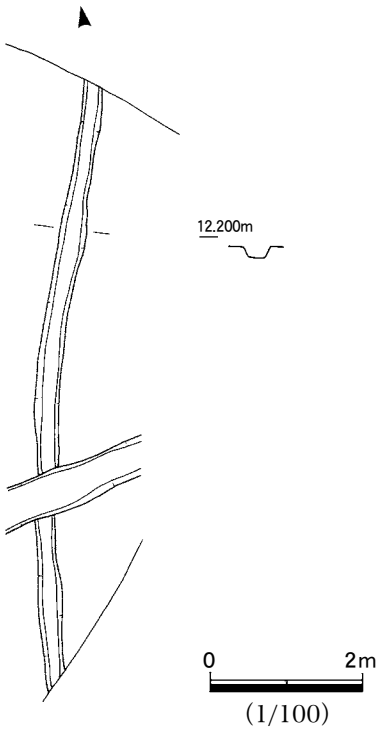
調査区中央北よりに位置する。一部後世の攪乱により破壊されている。長さ3.6ｍの範囲で検出されており、幅84㎝、深さ1.2ｍを測る。

123は青磁碗で高台部。低い高台を張り付ける。14世紀以降の所産か。遺物量が少なく遺構の時期は明確にできない。

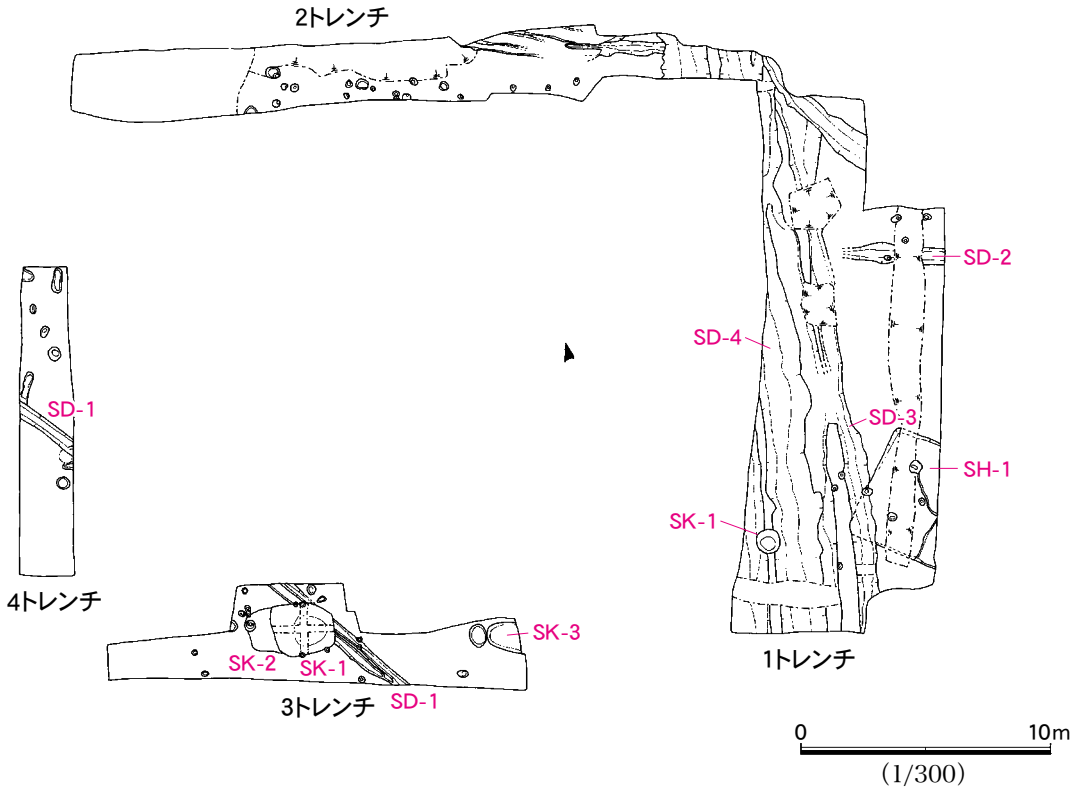
SD- ３（第26・27図）

調査区中央に位置する。北側～中央部は後世の攪乱により破壊され、後述するSD- ４に並行する。長さ21.8ｍ、最大幅1.2ｍ、深さ18㎝を測る。断面形状は箱型で、埋土は2層。人為的に埋められた形跡を示す。

遺物は少量出土している。124・125は土師器。埦の口縁部。126・127は中世の瓦質土器。126は鍋の口縁部。127は鉢。128は陶器碗の口縁部。肥前唐津系。17世紀初頭～前葉。遺物が少ないため遺構の構築時期は明確に



第23図　2トレンチ　SD-2 平･断面図（S=1/100）･出土遺物（S=1/3）

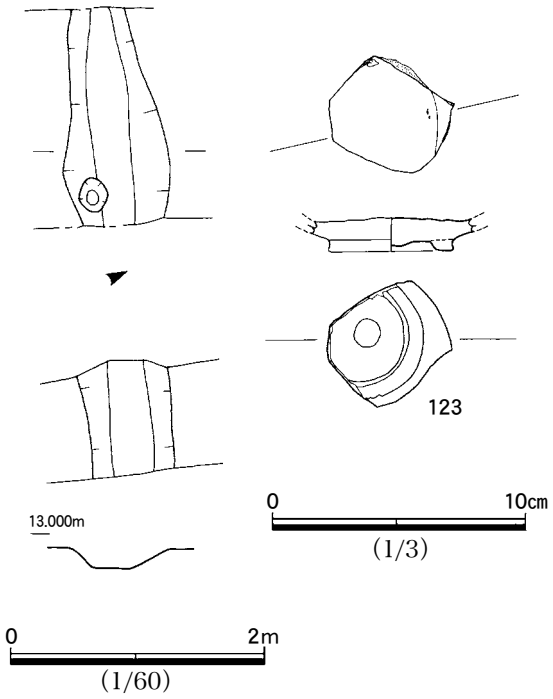


第24図　3次調査区遺構配置図（S＝1/300）

しえないが、17世紀前葉までに埋没したものと考える。

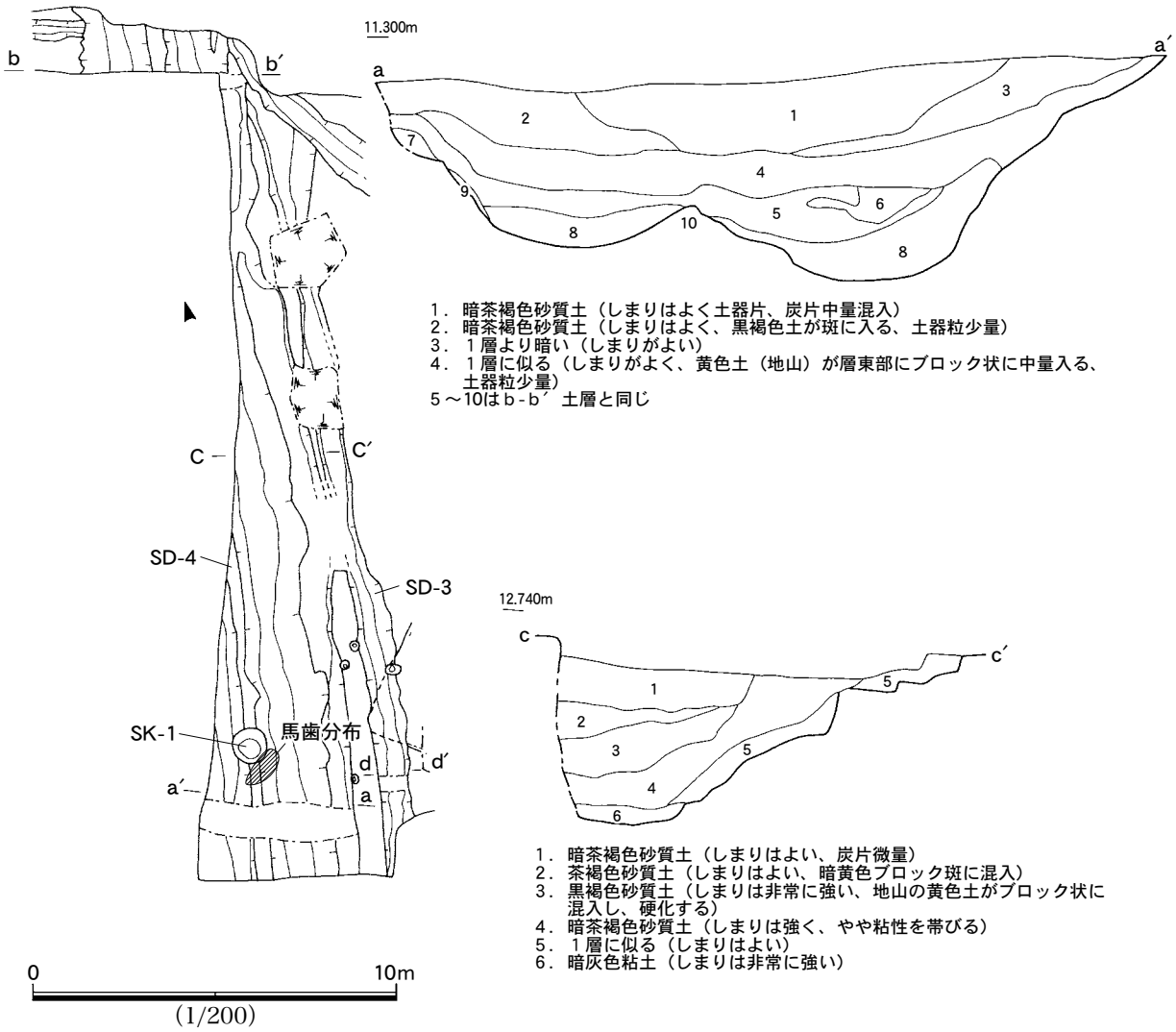
SD- 4（第26・27図）

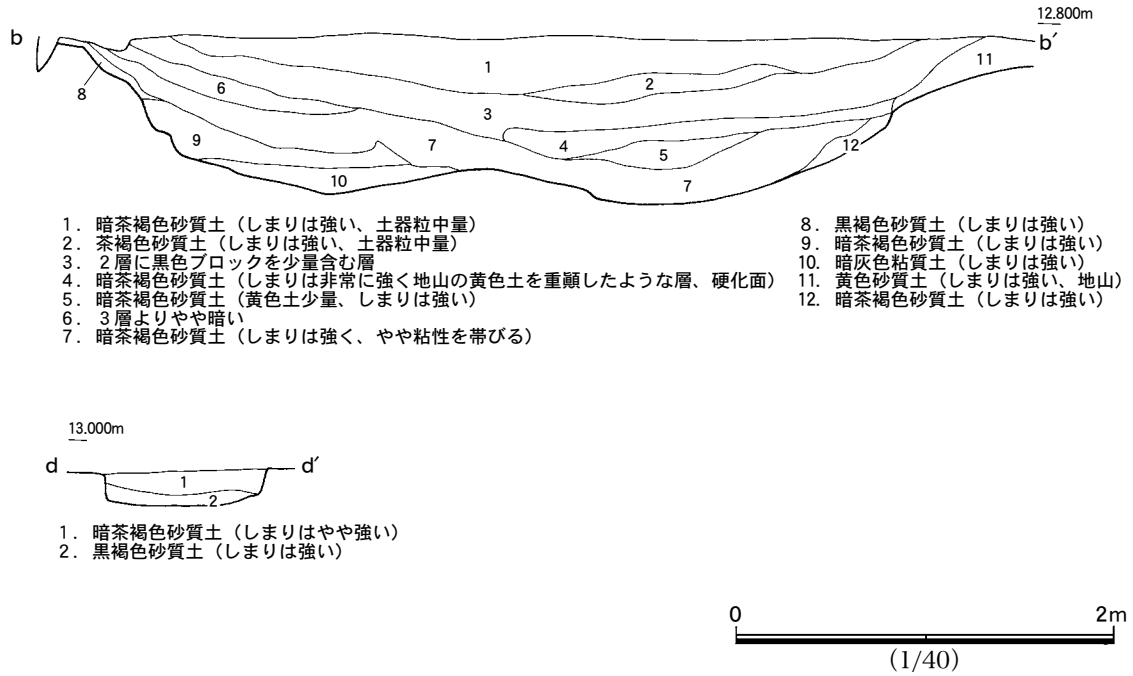
調査区中央に位置する。一部後世の攪乱により破壊されているが遺存状況は良好である。2トレンチでも延長部分を検出しており、長さ24.6m、幅4.3m、深さ約1.2mを測る。底は中央部で少し高まりがあり、両側は丸みを帯びている。立ち上がりはやや急で所々段を有す。埋土は10層程度確認でき、互層に堆積している。b-b′土層の4層上面は硬化しており、一定期間溝の埋没がこの層付近で中断していた可能性がある。a-a′土層の4層上面付近でも同様の状況を看取できる。c-c′土層1～3層は、溝が完全に埋没した後に構築された溝状遺構の存在を示している。平面で確認できなかった溝が存在した可能性があり、溝が埋没遺構少なくとも1回以上掘り返されている状況である。



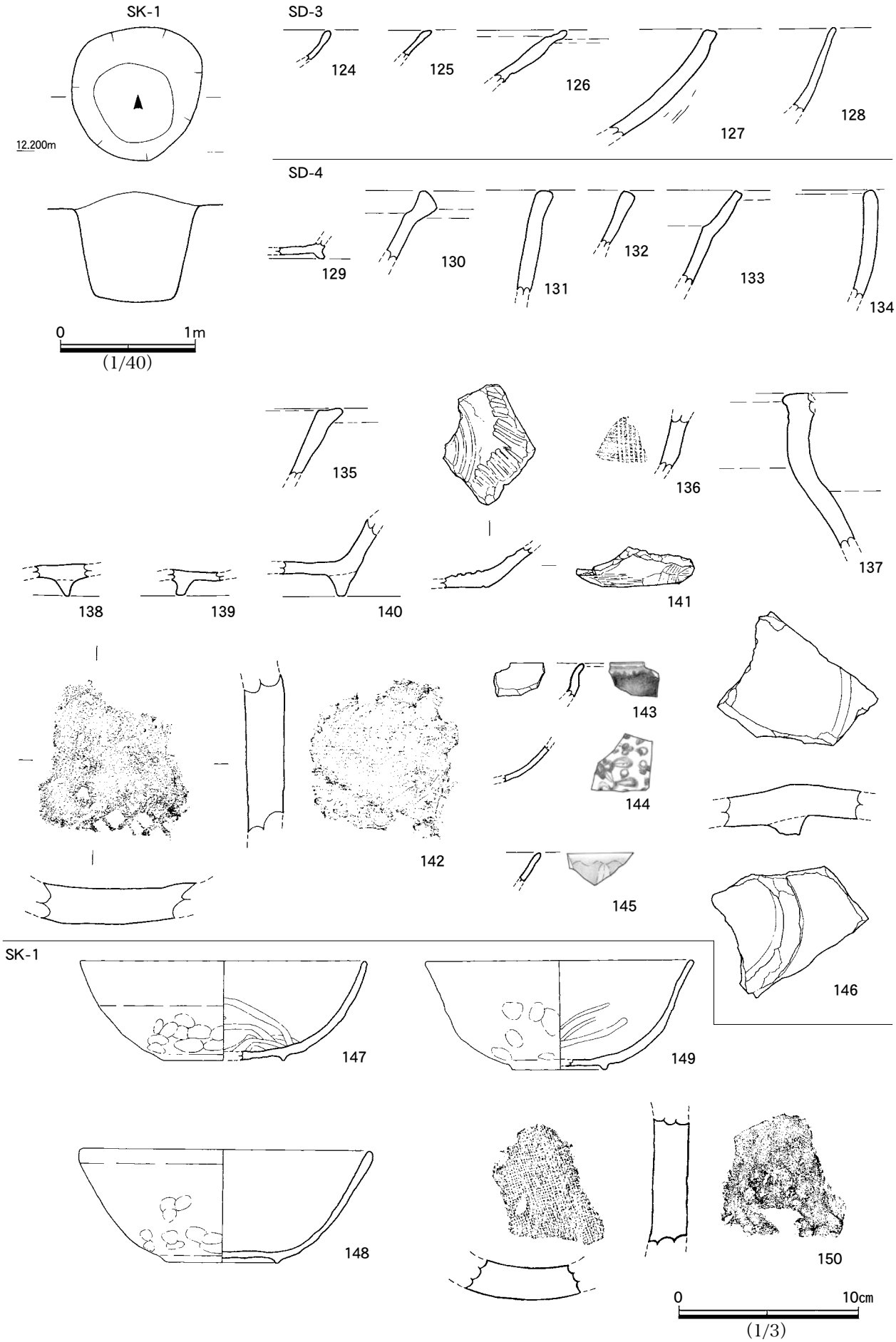
第25図　1トレンチ　SD-2 平・断面図（S＝1/60）**・出土遺物**（S＝1/3）

遺物は多く出土している。今回図化していないが、SK-1付近、2トレンチ検出部分で歯が明瞭に残る馬の頭骨を検出している。埋没時に馬が埋められたことがわかる。129・130は土師器。129は埦

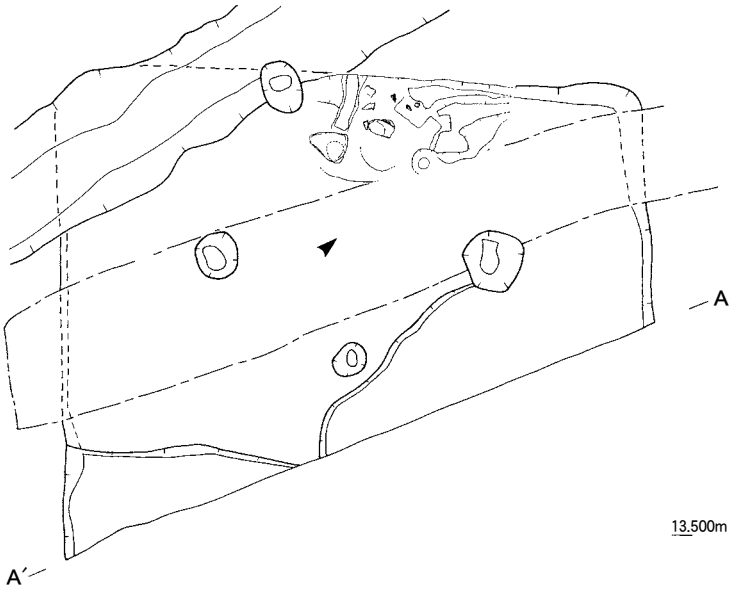


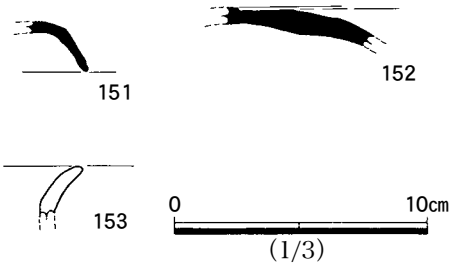


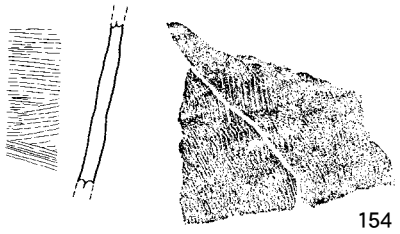
第26図　1トレンチ　SD-3・4 平（S=1/200）**・土層断面図**（S=1/40）

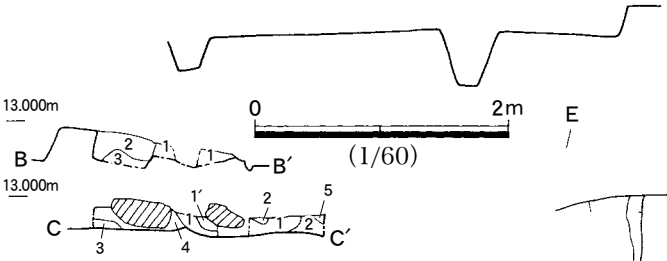


第27図　1トレンチ　SK-1 平・断面図（S＝1/40）　SD-3・4・SK-1 出土遺物（S＝1/3）

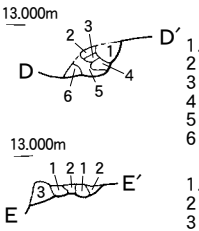






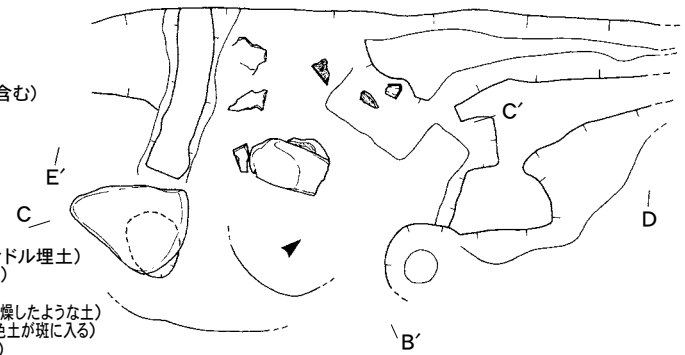


1．暗茶褐色砂質土（しまりは弱く、0.5cm大の焼土片、炭を中量含む）
1′．1層に焼土粒が多量に入る
2．黒褐色砂質土（しまりは弱く、フカフカした土、土器を含む）
3．暗黄褐色砂質土（しまりは弱く、黄色土が斑に入る）
4．暗灰褐色砂質土（しまりが弱い）
5．灰白色砂質土（よくしまる、袖?）



1．黒褐色砂質土（よくしまる、オンドル埋土）
2．灰白色砂質土（よくしまる、袖？）
3．暗灰色砂質土（しまりは弱い）
4．黄白色砂質土（よくしまる、粘土が乾燥したような土）
5．暗黄褐色砂質土（しまりは弱く、黄色土が斑に入る）
6．黒褐色砂質土（5層中の黒色土）

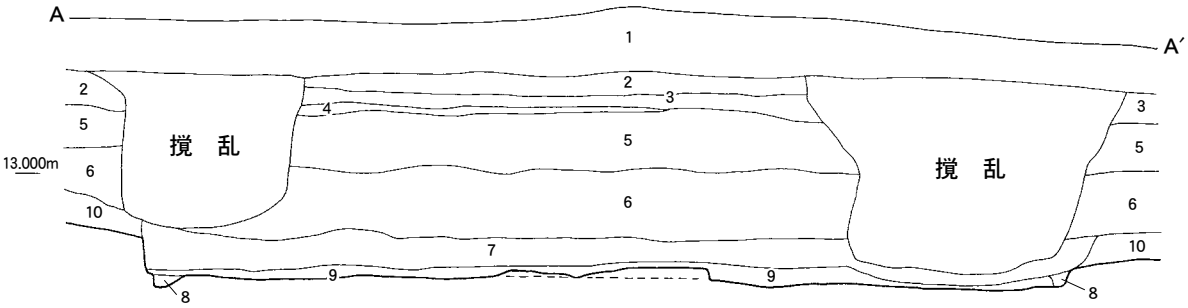
1．黒褐色砂質土（しまりは弱い、壁溝埋土か？）
2．灰褐色砂質土（しまりは非常に強い、袖の一部か）
3．茶褐色砂質土（しまりは強い、地山）



SH-1 カマド

0　1m(2m)
(1/20、1/40)

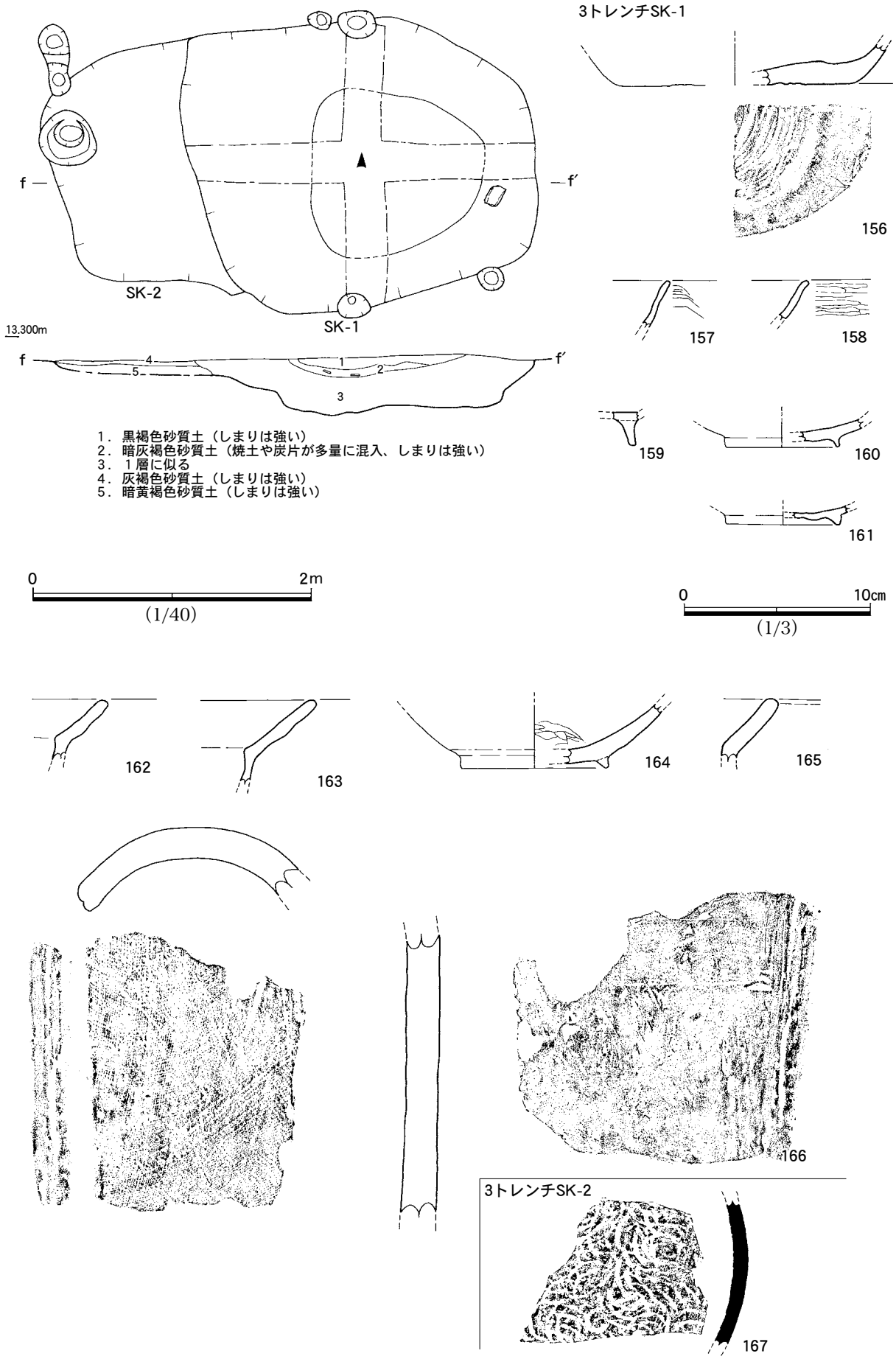
SH-1南壁土層



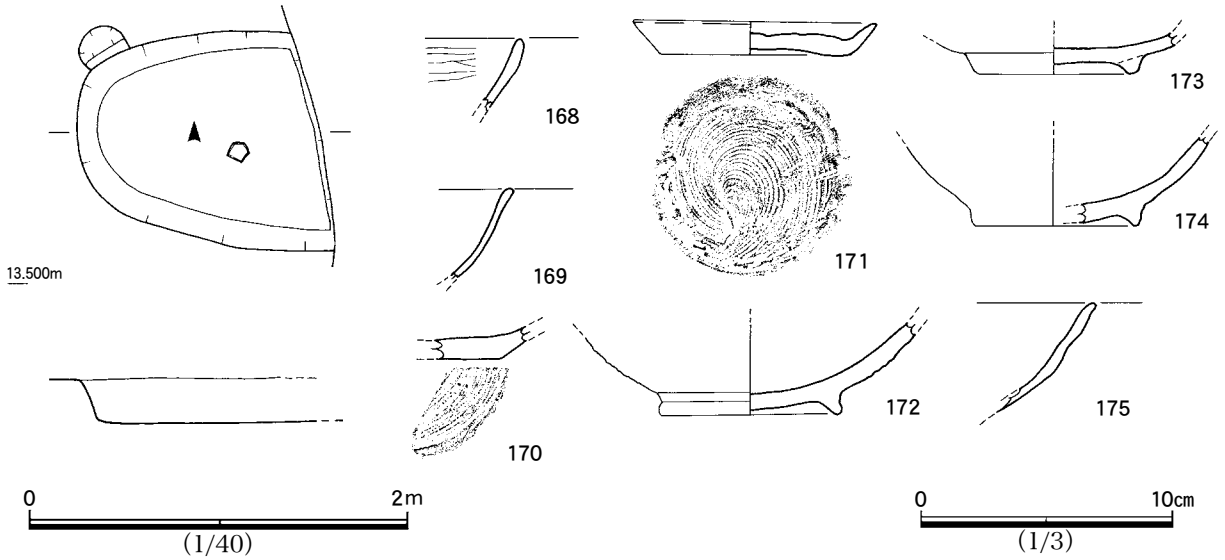
1．現代の舗装面、コンクリートやバラス片
2．明茶色砂質土（しまりの強い整地層）
3．黒褐色砂質土（しまりの強い整地層）
4．明灰色砂質土（しまりの強い整地層）
5．暗茶褐色砂質土（しまりは強い、土器片多量に混入、中世か？）
6．黒褐色砂質土（しまりは強い、きめの細かい土、土器粒少量混入）
7．黒色砂質土（しまりは強い、きめの細かい土、炭や焼土を含まず）
8．灰褐色砂質土（しまりは強く、やや粘性を帯びる）
9．暗黄褐色砂質土（しまりはやや強く、黒色ブロック少量混入、貼床層、地山に似るが単一色にならず、地山に比べ軟らかい）
10．茶褐色砂質土（しまりは強い、住居はこの面から検出可能）

0　2m
(1/40)

第28図　1トレンチ　SH-1 平・断面（S＝1/60）**・南壁土層図**（S＝1/40）**・出土遺物**（S＝1/3）**・カマド平・土層断面図**（S＝1/20、1/40）



第29図　3トレンチ　SK-1・2 平･土層断面図（S＝1/40）・出土遺物（S＝1/3）



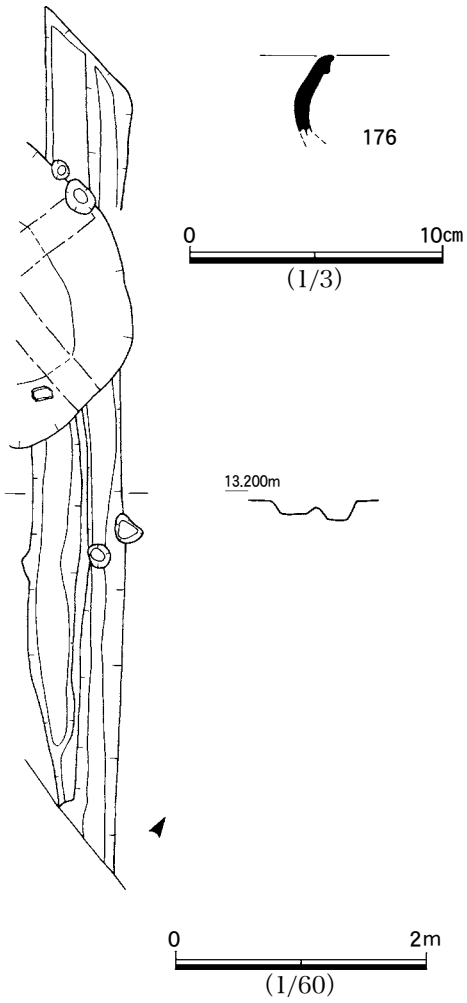
第30図　3トレンチ SK-3 平・断面図（S＝1/40）**・出土遺物**（S＝1/3）

の高台部。130は鍋の口縁部。端部は方形を呈する。131～141は瓦質土器。131～135は鉢。133の口縁部は口縁部付近で稜を持ち外傾する。135は口唇部が面をなす。136・141は擂鉢。137は甕。なで肩を呈す。16世紀末～17世紀前半の所産であろう。138～140は底部。142は平瓦。凸面に格子叩きが残る。143は陶器で天目茶碗の口縁部。144・145は磁器。144は景徳鎮青花碗の胴部。145は青磁碗。15世紀代か。146は福岡産陶器皿。上野・高取系。内面に藁灰釉が掛る。遺構は土層に掘り返しの痕跡や、中層に硬化面が認められることから複数時期にわたって埋まったものと考える。後述するSK-1は13世紀代の遺構であることから、遺構の構築上限は13世紀以降であり、中層付近まで埋没したのが16世紀後半頃。その後16世紀末～17世紀前半までに完全に埋没し、その後最低1回掘り返されたものと推測する。

SK-1（第27図）

SD-4底面に構築されている。長さ1m、幅96㎝、深さ84㎝を測る。

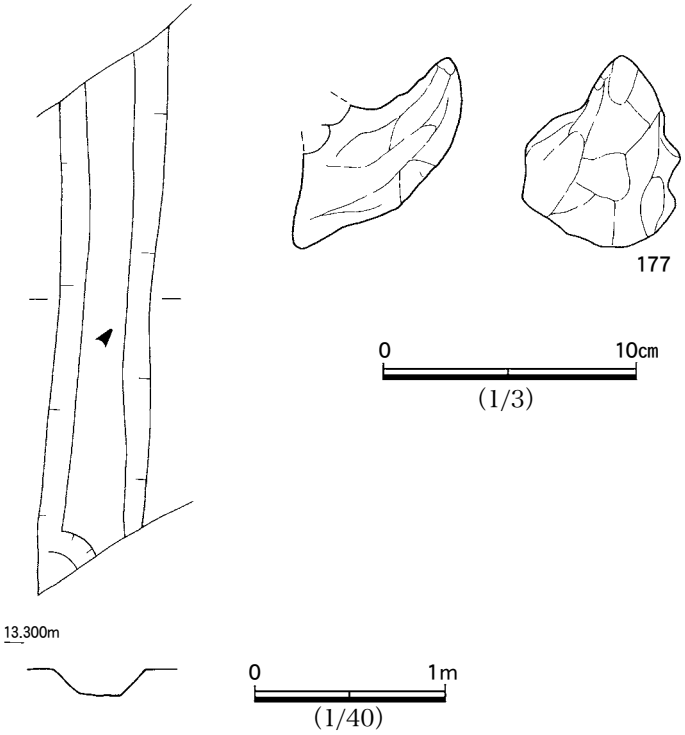
残存状況の良い瓦器椀（147～149）が出土している。椀の内面は雑なミガキで仕上げる。外面には胴部下半に複数の指圧痕が残る。13世紀代の資料。150は瓦。平瓦で内面に布目痕が残る。13世紀代に埋没し、その後SD-4が構築されたと考える。



第31図　3トレンチ SD-1 平・断面図
（S＝1/60）**・出土遺物**（S＝1/3）

SH- 1 （第28図）

調査区南東端に位置する。攪乱・SD- 3などにより遺構の一部が損壊している。復元西辺長さ4.6ｍ、南西辺3.9ｍ、深さ24㎝を測る。土層図をみると暗黄褐色砂質土の９層を床面として構築している。主柱穴は２基検出した。西側にカマドを構築している。袖先端部に川原石を使用し、燃焼部付近にも川原石を１個据え置いている。支脚石であろう。特筆すべきはこのカマドから壁に沿って北向きに黒褐色砂質土で埋まった幅15㎝程度の溝が走ることである。これはいわゆるオンドル住居と呼ばれる形態のものに似ており注目される。燃焼部周辺には土器が散乱しておりカマド祭祀が行われた可能性がある。



第32図　4トレンチ　SD-1 平・断面図（S＝1/40）
・出土遺物（S＝1/3）

151・152は須恵器で坏蓋。151は田辺編年TK209併行、７世紀初頭の資料。153・154は土師器。153は甕の口縁部。155は鉄器で刀子。刃部長さ7.7㎝を測る。遺構の時期は７世紀初頭頃と考える。

３トレンチ

SK- 1 （第29図）

調査区中央に位置する。長さ2.5ｍ、幅2.1ｍ、深さ40㎝を測る楕円形遺構である。西側で後述するSK- 2を切る。

156 ～ 159は土師器。156は底部に板状圧痕が残る。157 ～ 159は土師器。159の高台は高い。160・161は黒色土器。内黒タイプで、方形の底部を貼り付ける。162 ～ 165は瓦質土器。162・163鍋で体部から外傾する口縁部が伸びる。11世紀代の資料。165も鍋の口縁部。12世紀初頭か。166は丸瓦。外面に縄目タタキ痕が残る。遺構の時期は11世紀代と推測する。

SK- 2 （第29図）

調査区中央に位置する。東側はSK-1により切られている。長さ168㎝、幅60㎝、深さ12㎝を測る。

167は須恵器。壺の胴部であろうか。遺物が少量のため遺構の時期は判断できないが、SK-1に切られることから、11世紀以前の遺構である。

SK- 3 （第30図）

調査区東端に位置する。最大長124㎝、幅116㎝、深さ24㎝を測る。

168・169・171 ～ 174は土師器である。168は埦で内面にヘラミガキを施す。171は小皿。底部は糸切りとする。173の底部はヘラ切りとする。175は瓦器埦。丁寧なナデ調整で仕上げる。小皿の形態などから遺構の時期は11世紀後半代と考える。

SD-1（第31図）

調査区中央に位置する。SK- 2により検出した中央部分が破壊されている。長さ6.8ｍ、幅72㎝、深さ12～15㎝を測る。

176は須恵器で甕の口縁部。遺物が少量のため遺構の時期は不明確ながら、11世紀代のSK-1に切られるため、それ以前の遺構である。

４トレンチ

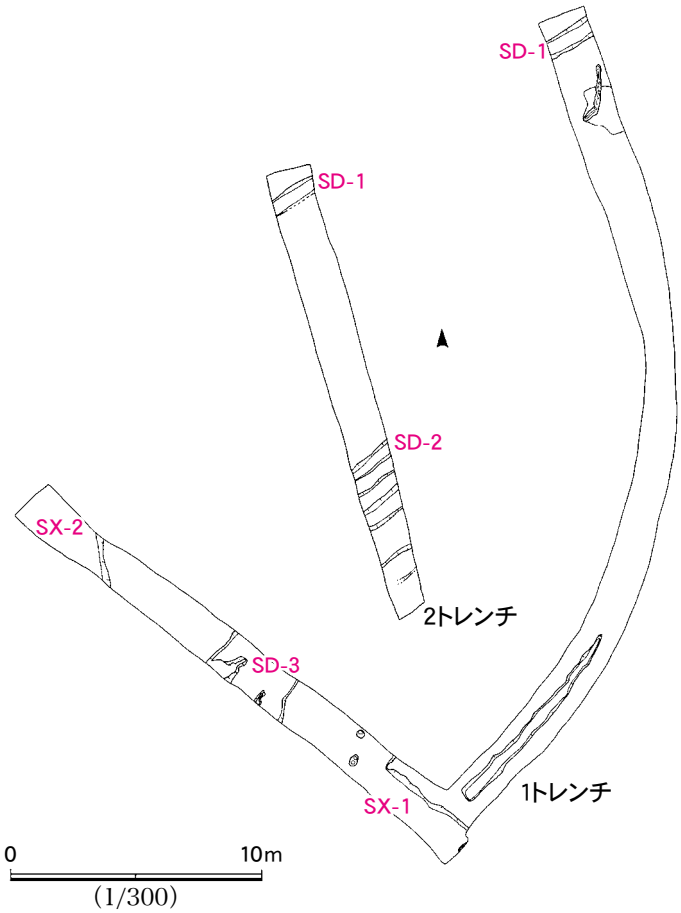
SD- 1 （第32図）

調査区中央に位置する。長さ３ｍ、幅56㎝、深さ14㎝を測る。東側延長線上に存在する３トレンチSD- 1と同じ遺構と考える。

177は土師器。甑の取手である。遺物が少量のため遺構の時期は不明確ながら、３トレンチSD- 1と同じ遺構であれば11世紀代以前の遺構の可能性がある。

（４）４次調査（第33図）

２次調査区東側にコミュニティセンター駐車場が計画されたため調査を実施した。試掘調査で遺構を確認したが、遺構面まで達しない工事内容であったため、必要最小限の調査を実施するにとどめた。約110㎡を発掘調査し、溝状遺構５条、性格不明遺構２基、複数の柱穴状遺構を検出した。パンケース４箱分の遺物が出土した。



第33図　４次調査区遺構配置図（S＝1/300）

以下、図化可能な遺物の出土を見た遺構を中心に説明する。

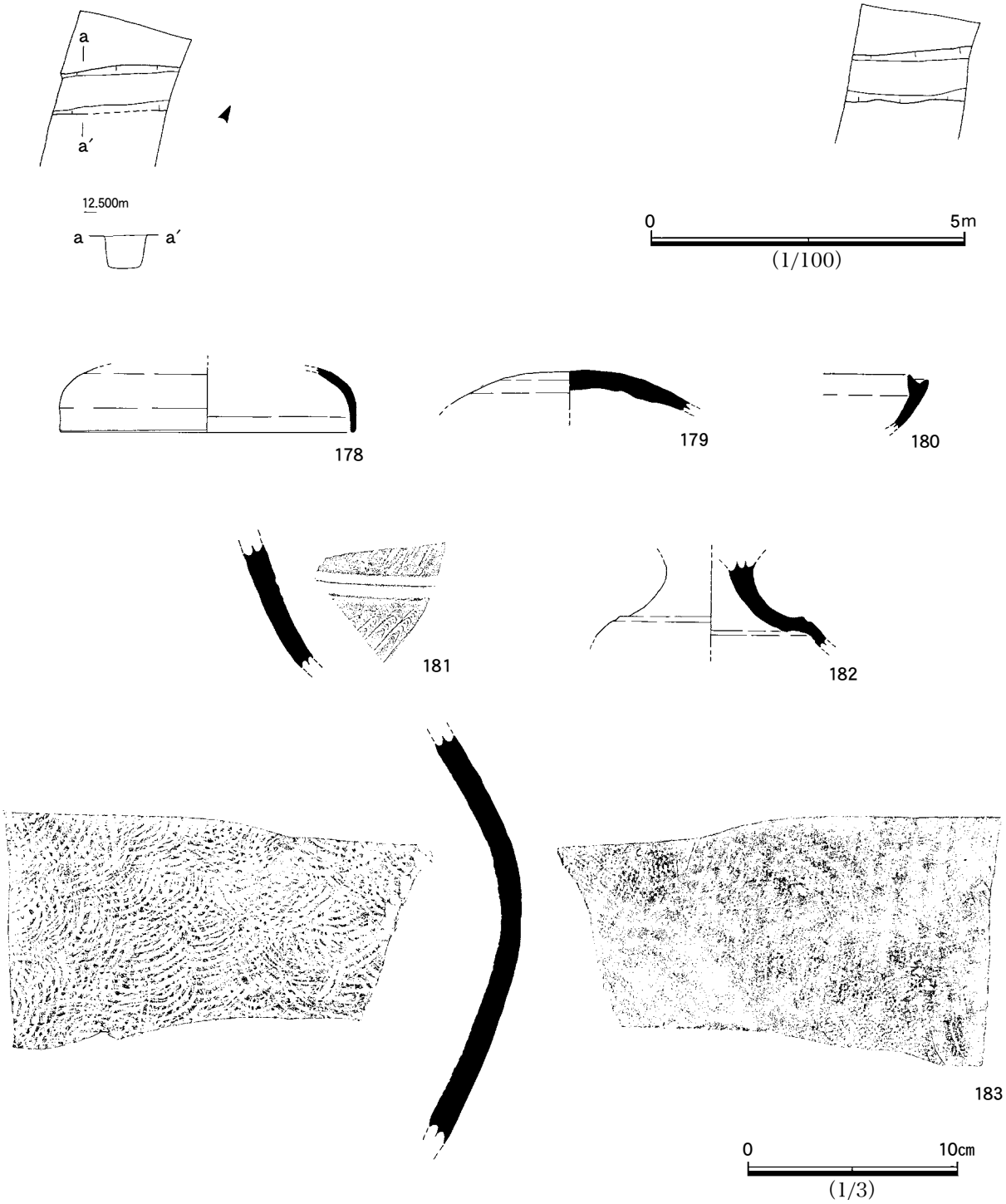
SD- 1 （第34図）

１・２トレンチ北端部において検出した。同一の遺構と考えられ、１・２トレンチ間も含めると長さ14.5ｍに及ぶ。幅75㎝、深さ50㎝を測る。底の形状は箱型である。

178～183は須恵器。178・179は坏蓋。180は杯身である。田辺編年TK217、７世紀前半頃の資料。181は甕の肩部。圏線を境に沈線文が巡る。182は高坏の脚部。183は瓶類の胴部。遺構の時期は7世紀前半頃と推測する。

SD- 3 （第35図）

１トレンチ南西において検出した。落ち込みの可能性も考えられたが溝として報告する。長さ1.7ｍ、幅3.75ｍ、深さ18㎝を測る。底の形状は歪で所々段を有する。



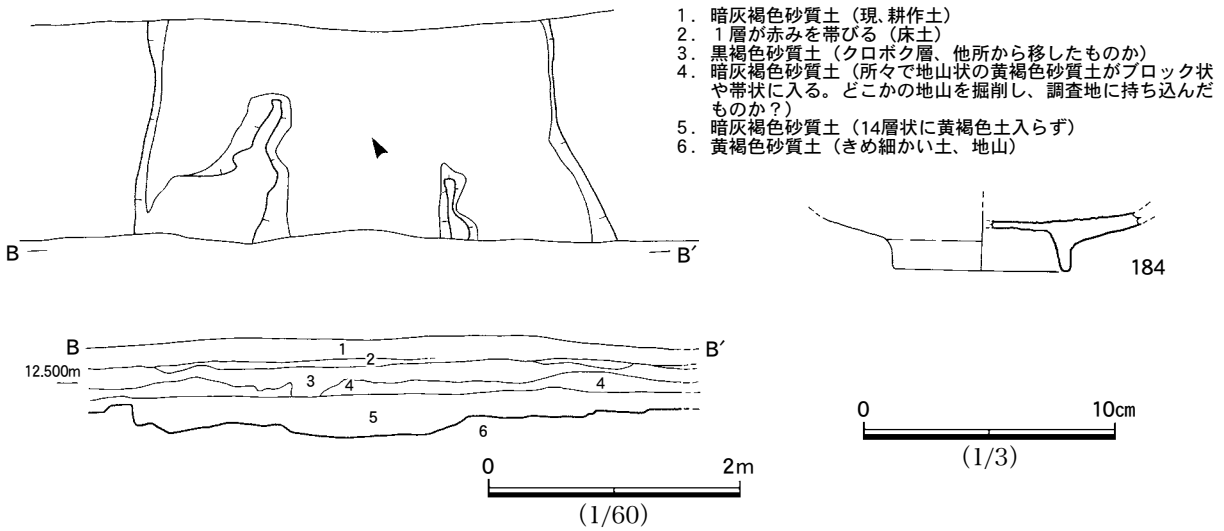
第34図　1・2トレンチ SD-1 平・断面図（S＝1/100）**・出土遺物**（S＝1/3）

184は唐津系陶器皿。18世紀代後半代の資料か。遺構の時期は近世後半頃と推測する。

SX-1（第36図）

1トレンチ南端角部で検出した。遺構北側の立ち上がりが途中北に折れる。調査区東壁から屈曲部までの長さ4.5m、幅1.7＋αm、深さ10cmを測る。底面に小円孔が存在したことから、水田の遺構の可能性がある。

185・186は須恵器。185は坏蓋。186はやや内傾する立ち上がり部をもつ杯身。田辺編年TK209併行、7世紀初頭前後の所産。187・188は瓦質土器。187は鉢。188は擂鉢。瓦質土器の形態から遺構の時期は中世後半頃と考える。



第35図　1トレンチ　SD-3 平面・土層断面図（S＝1/60）**・出土遺物**（S＝1/3）

SX- 2（第37図）

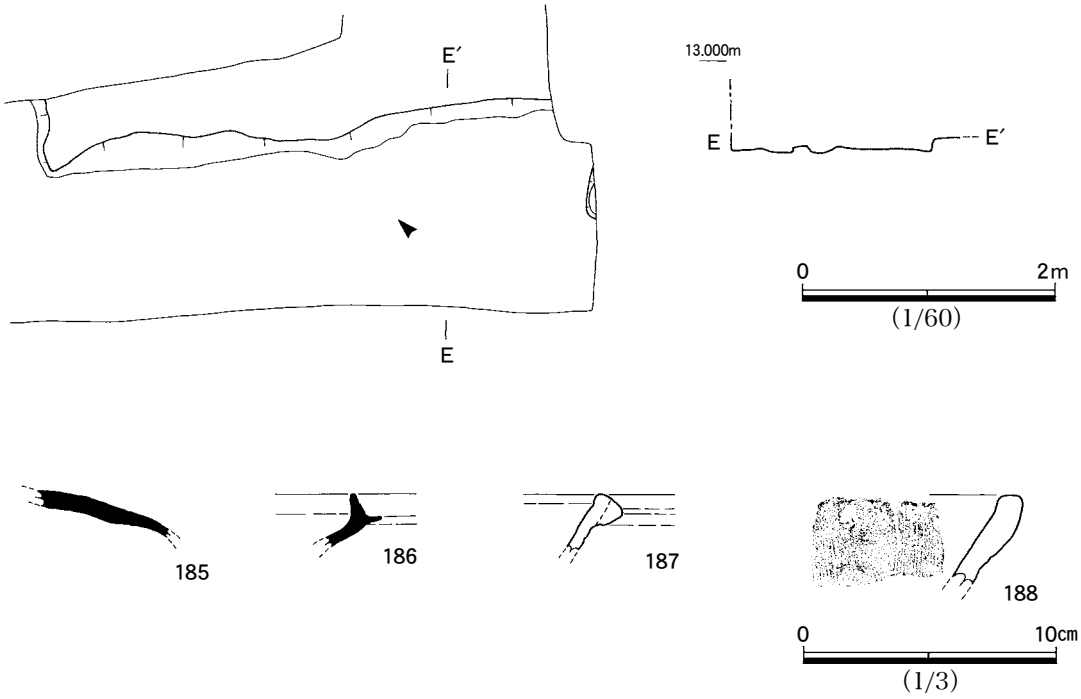
１トレンチ西端部で検出した。遺構東側の立ち上がりを確認している。立ち上がりから調査区西壁までの長さ4.8ｍ、幅1.3＋αｍ、深さ24㎝を測る。

189・190は須恵器。**189**は杯身。立ち上がりはやや長く田辺編年TK43 ～ 209併行、６世紀末～７世紀初頭前後の所産。**190**は甕の胴部か。**191** ～ **193**は瓦質土器。**191・192**は鍋。**194**は土師器で土錘。遺構の時期は中世後半頃と考える。

SD-2

２トレンチ中央付近で検出した。長さ186㎝、幅84㎝、深さ５㎝を測る。

195は須恵器で坏身。田辺編年TK209併行、７世紀初頭前後の資料。**196**は肥前系陶器碗。18世紀後半代か。遺構の時期は近世後半頃と考える。

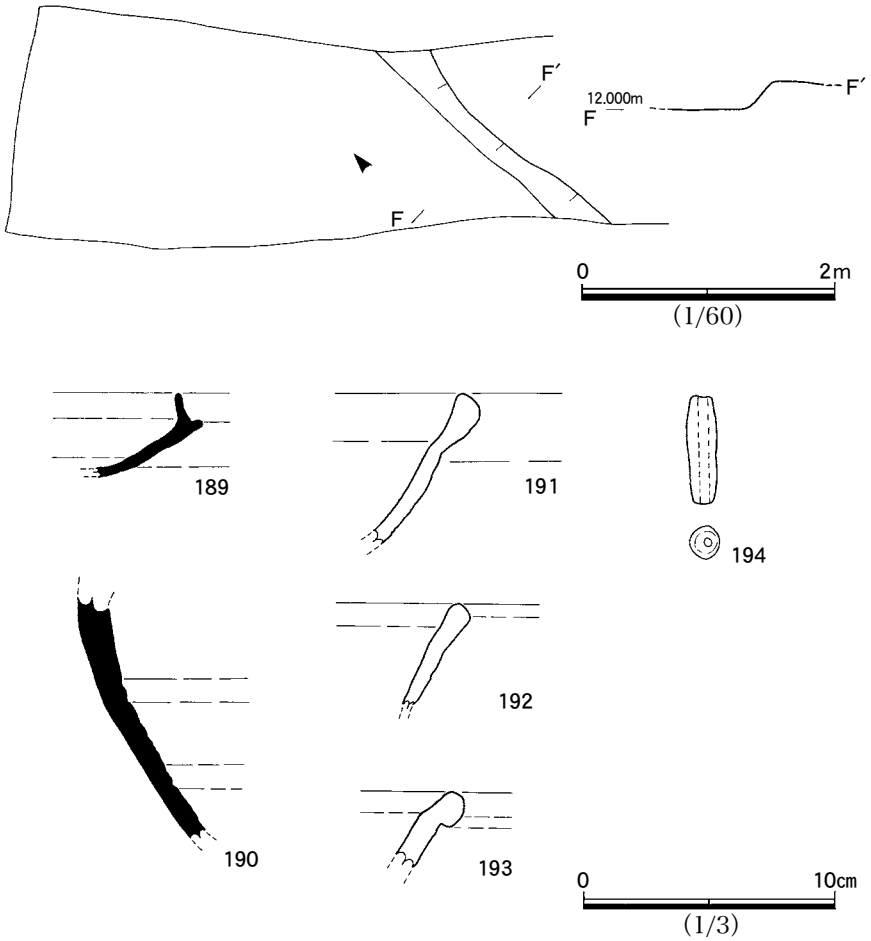


第36図　1トレンチ　SX-1 平・断面図（S＝1/60）**・出土遺物**（S＝1/3）

第４章　総　括

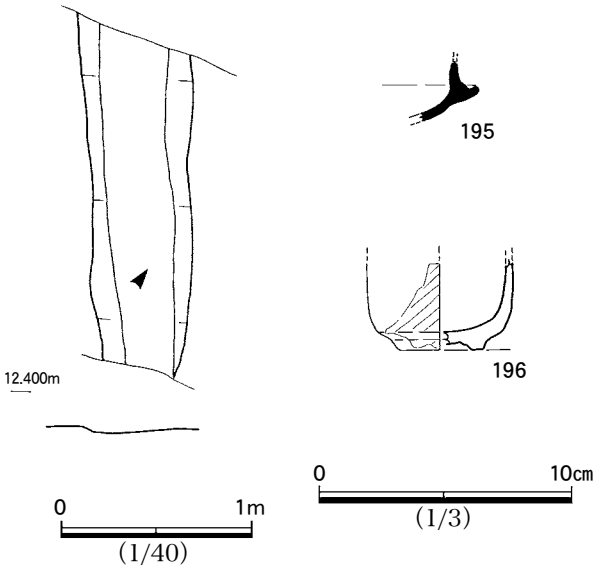
第１節　遺構について

本報告において注目すべき遺構の一つは、１次調査において検出されたSX- 1に存在した焼土遺構が挙げられる。この遺構は炉穴と考えられており、それを傍証するように鉄滓や椀型滓、鞴の羽口などが魚函2箱分廃棄土坑から見つかっている。鉄塊系遺物の中には鋼が存在することが報告されており[(4)]、鋼の原材料としての流通も指摘されている[(5)]。ここで鍛冶や精錬が行われたことは確実であろうが、その時期を明確にすることができなかった。仮に７世紀初頭前後とすれば、７世紀第３四半期前後の製鉄遺構を検出した伊藤田田中遺跡[(6)]のものより古くなり注目される。



第37図　１トレンチ　SX-2 平・断面図（S＝1/60）**・出土遺物**（S＝1/3）

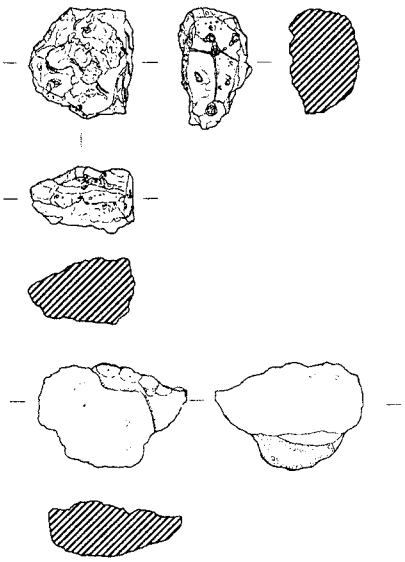
３次調査では7世紀初頭頃のオンドル竪穴住居を検出した。このオンドル住居は渡来人に関わる遺構の可能性が指摘されており[(7)]、近年市内の諸田南遺跡でも確認されている。１次調査検出の鍛冶遺構と関係する遺構であろうか。また、３次調査では１トレンチにおいて大規模な溝状遺構（SD-４）を検出した。出土する遺物の大半は中世後半代のものであるため、その頃機能していた遺構と考えられる。用途はその規模や勅使街道を挟んで北側にある小字「居屋敷」地区の存在、さらには調査区南西に周知されている福永城跡の存在から何らかの施設を囲んでいた堀跡と考えたい。同規模の堀跡は大畑城跡に隣接する加来居屋敷遺跡[(8)]でも検出されている。平地城館の堀の形態を考える資料になりうる。さらに、堀底に掘削されていた



第38図　2トレンチ　SD-2 平・断面図
（S＝1/40）**・出土遺物**（S＝1/3）

13世紀代の土坑の存在から、堀構築時に何らかの祭祀行為が行われた可能性も指摘しうる。

２次調査・４次調査では、７世紀初頭前後の溝状遺構が存在した。溝は北から45度程東に振れており、遅くとも８世紀初頭頃に施行された沖代条里の里界線の方向と大きく異なっている。調査地点は条里外であるが、隣接地の条里施行以前の土地利用を考察する資料になる。



第39図　１次調査区SX-1 出土椀型滓（S＝1/4）
（村上2009より転載）

第２節　遺物について

１次調査においてSX-１より都城系土師器が出土している。時期は７世紀中葉～８世紀前葉のものであり、中津地区は当該期の遺物があまり出土していないことから注目される遺物である。相原廃寺の存在などからこの地域が重要地区として認識されていたことは異論のないところであろうが、都城系遺物の存在から寺院遺構以外に当該期の集落も周辺に展開することを示唆するものではなかろうか。

２次調査では木製品の柄振りが出土した。７世紀初頭前後の農具の出土は中津市域において他に例がなく当時の水田耕作の仕方を考える上で重要な遺物である。取り上げミスで写真・図面でしかその姿をみることができないことが悔やまれる。

３次調査においては11世紀代と考えられる遺物が出土している。当該期の遺構・遺物は県内でもあまり出土していないため貴重な資料である。近年、法垣遺跡では当該期の溝状遺構から大量の遺物が出土している。資料の比較検討を今後行っていきたい。

以上、市場遺跡１～４次調査の発掘調査成果とその意義を述べ、総括とする。

註(4)　山田拓伸・村上久和「豊前地方の鉄生産−古墳時代後期遺跡出土の鉄滓の分析を通して」『日本文化財科学会第25回大会研究発表要旨集』2008
註(5)　村上久和「豊前地方の鉄生産の成立と展開」『地域の考古学　佐田茂先生佐賀大学退任記念論文集』2009
註(6)　大分県教育委員会『伊藤田田中遺跡・屋敷田遺跡』大分県教育庁埋蔵文化財センター調査報告第49集2010
註(7)　亀田修一「地域における渡来人の認定方法」『九州における渡来人の受容と展開』第8回九州前方後円墳研究会資料集2005
註(8)　中津市教育委員会『加来居屋敷遺跡』中津市文化財調査報告第50集2010

第１表　遺物観察表１

遺物No.	種別・器種	遺構名	法量		調整・釉薬	焼成	胎土	色調	挿図No.	図版No.	備考
			口径・底径	器高							
1	須恵器・坏蓋	SH1	13.4/	4.4	内面・回転ヨコナデ、〈頂部〉不定方向ナデ 外面・回転ヘラケズリ	良好	白色粒子少量(0.5～1ミリ大) 角閃石微量(1ミリ大)雲母少量	青灰色	4	5	外面に黒色焼痕アリ
2	須恵器・坏蓋	SH1	(13.8)/	3.8	内面・回転ヨコナデ 外面・回転ヘラケズリ	良好	白色粒子多量(0.5～1ミリ大) 角閃石少量(1～3ミリ大)堅緻	内面・青灰色 外面・青灰色～黒色	4	–	天上部にヘラ記号アリ
3	須恵器・坏身	SH1	(13)/	3.5	内面・回転ヨコナデ 外面・回転ヘラケズリ	良好	粒子多量(0.5～1ミリ大) 白色粒子多量(0.5ミリ大)	内、外面・青灰色	4	–	
4	須恵器・坏身	SH1	(12.2)/最大胴径(14.6)	3.3	内面・回転ヨコナデ、〈底部〉ヨコナデ 外面・回転ヘラケズリ	良好	赤色粒子少量(1ミリ)角閃石少量 (0.5ミリ大)黒色粒子少量(1ミリ大)	内面・淡黄褐色 外面・青灰色	4	–	
5	須恵器・坏蓋	SD3			内面・回転ヨコナデ 外面・回転ヘラケズリ	良好・硬質	白色粒子微量(1ミリ大) 黒色粒少量	青灰色	5	–	
6	須恵器・甕？	SD3			内面・回転ヨコナデ 外面・回転ヨコナデ	良好	白色粒子少量(1ミリ大)赤色粒子多量(1ミリ大) 長石少量(1ミリ大)角閃石微量(2ミリ大)	茶褐色	5	–	
7	須恵器・長頸壺	SD3			内外面・回転ヨコナデ	良好	白色粒子少量(1ミリ大)	淡青白色	5	–	
8	須恵器・壺(頸部)	SD3			内面・同心円タタキ後、回転ヨコナデ 外面・木目平行タタキ後、回転ヨコナデ	良好・硬質	長石微量(0.5ミリ) 白色粒子多量	灰茶色	5	–	
9	須恵器・高坏(脚部)	SD3	/11.4		外面・クシ状のモノによるカキ目 内面・回転ヨコナデ、シボリ痕アリ	良好・硬質	白色粒子少量(0.5ミリ) 角閃石(2ミリ大)	外面・黒色～青灰色 内面・暗褐色	5	–	外面自然釉付着
10	須恵器・高坏(脚部)	SD3			内外面・回転ヨコナデ	良好・硬質	赤色粒子多量(0.5ミリ大)黒色粒子多量 (1ミリ大)白色粒子多量(0.5～2ミリ大)	茶褐色	5	–	
11	須恵器・高坏(脚部)	SD3	/(26.6)		内外面・回転ヨコナデ	良好・硬質	赤色粒子多量(1ミリ大)長石少量角閃石少量 (0.5ミリ大)黒色粒多量(1～2ミリ大)	茶褐色	5	–	
12	須恵器・壺(胴部)	SD3			内面・指ヅサエ同心円タタキ後不定方向ナデ 外面・正格子タタキ後ナデ	良好・硬質	赤色粒子多量(0.5～1ミリ大)黒色粒子多量(1～2ミリ大)白色粒子少量(0.5～1ミリ大)角閃石微量(0.5ミリ)	内面・橙色 外面・赤褐色	5	–	
13	土師器・鞴の羽口	SD3			ナデ	2次焼成を受けているため、風化がすすんでいる。	白色砂粒を含む	(内)淡橙色→淡灰色 (外)淡灰色	5	–	鉄滓付着
14	土師器・坏	SD3	(10.1)/(4.6)	4	外面・ヨコ方向のミガキ 内面・ナデ後放射状の暗文	良好	金雲母微粒子多量 長石少量・赤色粒子多量	橙色	5	–	
15	白磁・碗	SD3			白磁釉	良好	赤色粒子(0．5ミリ)	淡灰白色	5	–	
16	須恵器・杯身	SD4	(10.1)/(6.3)		内面・回転ヨコナデ 外面・回転ヘラケズリ後回転ヨコナデ	良好	角閃石少量(0.5～1ミリ大) 黒色粒子少量(0.5ミリ大)	白灰色	6	–	
17	須恵器・蓋	SD4			内外面・回転ヨコナデ	良好	黒色粒子少量(0.5～1ミリ) 白色粒子微量精微	青灰色	6	–	
18	須恵器・壺(胴部)	SD4			回転ヨコナデ・ナデ	良好	外面・暗灰色 内面・灰白色	灰白色	6	–	
19	須恵器・甕	SD4			内面・丸タタキ　外面・タタキ	良好	白色粒子少量	赤褐色(外面黄色)	6	–	
20	瓦・平瓦	SD4			ナデ　破面凸面側ナデ消す	良好	角閃石を若干含む。堅緻	灰色	6	–	
21	土師器・鍋	SD4			ナデ	良好	長石少量	内面・茶褐色 外面・黒褐色	6	–	
22	須恵器・坏蓋	SD5	13/	4.5	内面・回転ヨコナデ 外面・上部回転ヘラケズリ後ナデ、他は回転ヨコナデ		黒色粒子少量(0.5～1ミリ) 白色粒子微量堅緻	青灰色 一部暗灰色	7	–	
23	須恵器・坏身	SD5	(13.3)/(8.6)	8.6	回転ヨコナデ	良好	黒色粒子少量(0.5～1ミリ) 白色粒子微量堅緻	青灰色(内・外)	7	–	
24	須恵器・埦	SD5			回転ヨコナデ	良好	白色粒子多量(1ミリ大)・堅緻	青灰色	7	–	
25	須恵器・埦	SD5	13.4/		回転ヨコナデ・回転ヘラケズリ	良好	白色粒子多量・長石多量・堅緻	青灰色	7	5	
26	須恵器・埦	SD5			回転ヨコナデ	良好	白色粒子多量	青灰色	7	–	
27	須恵器・高坏	SD5			回転ヘラケズリ	良好	白色石粒	灰色	7	–	
28	須恵器・壺？	SD5	22.4/		回転ヨコナデ	良好	黒色粒子少量(0.5～1ミリ) 白色粒子微量堅緻	青灰色(内外) 一部暗灰色	7	–	
29	須恵器・脚付壺	SD5	底径・8.6		回転ヘラケズリ(胴部外、底部) 指ナデ(胴部内側)	良好	黒色石粒多量 白色粒子少量	灰色	7	–	
30	須恵器・甕	SD5			内面・回転ヨコナデ、同心円当て具痕 外面・回転ヨコナデ、カキ目	良好	白色粒子	青灰色	7	5	頸部内面に「Ⅱ」のヘラ記号
31	土師器・皿	SD5			回転ヘラケズリ・ナデ	良好	金雲母・角閃石・白色粒子	赤褐色	7	–	
32	土師器・埦	SD5			ナデ	良好	白色粒子多量・長石多量 角閃石少量	茶褐色	7	–	
33	土師器・壺	SD5	/9.5		回転ナデ	良好	白色石粒少量 角閃石少量・白色粒子少量	灰色	7	–	
34	土師器・甕	SD5			ナデ	良好	黒色粒子多量・白色粒子多量 白色石粒少量	赤褐色	7	–	
35	須恵器・杯身	SD6			回転後ナデ	良好・硬質	黒色粒子少量(3ミリ) 角閃石微量	青灰色	8	–	
36	須恵器・甕	SD6			内面・同心円タタキ 外面・正格子タタキ	良好・硬質	角閃石多量(0.5～1ミリ) 白色粒子少量(0.5ミリ)	青灰色	8	–	
37	土師器・甕(口縁部)	SD6			ナデ	不良・風化すすむ・軟質	白色粒子多量(0.5ミリ)	内面・淡橙色 外面・淡橙色	8	–	
38	須恵器・蓋	SX1-Ⅲ区			ナデ、ヘラケズリ	良好	白色粒子少量(0.5～1ミリ) 黒色粒子少量	青灰色	10	–	
39	須恵器・坏蓋	SX1-Ⅵ区			内面・回転ヨコナデ 外面・回転ヨコナデ		白色粒子少量(0.5～1ミリ) 角閃石微量(0.5ミリ)	青灰色	10	–	
40	須恵器・坏蓋	SX1-Ⅵ区			内面・回転ヨコナデ 外面・回転ヨコナデ	良好・硬質	堅緻	青灰色	10	–	
41	須恵器・坏蓋	SX1-Ⅲ区焼遺			内面・回転ヨコナデ 外面・回転ヨコナデ	良好・硬質	白色粒子多量(0.5～1.5ミリ)	内面・青灰色 外面・青灰色	10	–	
42	須恵器・坏蓋	SX1-Ⅲ区			内面・回転ヨコナデ 外面・回転ヘラケズリ	良好	白色粒子(1ミリ大) 赤色粒子	灰褐色	10	–	
43	須恵器・坏蓋	SX1-Ⅰ区			回転ヘラケズリ後雑なナデ、回転ヨコナデ	良好	白色粒子少量 長石少量	青灰色	10	–	
44	須恵器・坏身	SX1-Ⅲ区焼遺	13.8/		内面・回転ヨコナデ 外面・〈上部〉回転ヨコナデ〈下部〉回転ヘラケズリ	良好	黒色粒子多量(1ミリ大) 白色粒子少量(0.5ミリ大)	青灰色	10	–	
45	須恵器・坏身	SX1-Ⅲ区	12.4/		上部・回転ヨコナデ 下部・回転ヘラケズリ	良好	黒色粒子多量 白色粒子少量	青灰色	10	–	
46	須恵器・坏身	SX1-Ⅲ区	14.8/		回転ヨコナデ	良好	白色粒子少量 長石多量	青灰色	10	–	
47	須恵器・埦	SX1-Ⅲ区	14.6/		回転ヨコナデ	良好	黒色粒　長石少量(0.5ミリ大) 白色粒子少量	白灰色	10	–	
48	須恵器・埦	SX1-Ⅱ区			内面・回転ヨコナデ 外面・回転ヨコナデ	良好・硬質	赤色粒子少量(0.5ミリ)含む 黒色粒子少量(0.5ミリ)含む	青灰色	10	–	
49	須恵器・埦	SX1-Ⅳ区	(11.4)/(8.8)		内面・回転ヨコナデ 外面・回転ヨコナデ	良好・硬質	赤色粒子多量(0.5～1ミリ) 白色粒子多量(0.5～1ミリ)	青灰色	10	–	
50	須恵器・埦	SX1-Ⅲ区	/9.4		内面・回転ヨコナデ 外面・回転ヘラケズリ	良好	白色粒子少量(1ミリ大) 黒色粒子多量 長石少量	灰色	10	–	

第２表　遺物観察表２

遺物No.	種別・器種	遺構名	法量		調整・釉薬	焼成	胎土	色調	挿図No.	図版No.	備考
			口径・底径	器高							
51	須恵器・高坏	SX1-Ⅲ区	/9.4		回転ヘラケズリ、ヨコナデ	良好	白色粒子少量	灰色	10	–	
52	須恵器・高坏	SX1-Ⅵ区	3.4/		回転ヨコナデ、ナデ	良好	白色粒子少量 長石少量	茶褐色	10	–	
53	須恵器・高坏(脚部)	SX1-上層	/10		内外面・回転ヨコナデ	良好	赤色粒子多量(0.5ミリ大) 黒色粒子微量(0.5ミリ)	淡橙色	10	–	
54	須恵器・高坏	SX1-上層			回転ヨコナデ	良好	白色粒子微量	茶褐色	10	5	
55	須恵器・甕	SX1-上層	22.4/		内面・回転ヨコナデ、ナデ、同心円タタキ 外面・カキ目、指頭圧痕	良好	白色粒子少量(1ミリ大) 長石少量(1～2ミリ大)	青灰色	10	–	
56	須恵器・甕	SX1			回転ヨコナデ	良好	白色粒子多量(1ミリ大) 長石少量赤色粒子	灰褐色	10	–	
57	須恵器・甕	SX1-上層	24.4/		口縁部・回転ヨコナデ 胴内部・タタキ胴外部・カキ目	良好	白色粒子少量(1ミリ大)	灰褐色	10	–	
58	須恵器・甕	SX1-上層			内面・回転ヨコナデ、同心円タタキ 外面・回転ヨコナデ	良好	白色粒子多量(0.5ミリ)	内、外面・淡灰色	10	–	
59	須恵器・甕	SX1-Ⅲ区			内面・回転ヨコナデ 外面・回転ヨコナデ	良好	白色粒子多量(0.5ミリ) 角閃石少量(2ミリ大)赤色粒少量(0.5ミリ)	黒褐色	10	–	自然釉かかる
60	須恵器・甕	SX1			回転ヨコナデ 胴部内面・タタキ	良好	白色粒子(1～5ミリ大)多量 角閃石多量黒色粒微量(1センチ大)	灰褐色	11	5	
61	須恵器・甕？	SX1-Ⅲ区			内面・同心円タタキ後ヨコナデ 外面・木目平行タタキ後ヨコナデ	良好	白色粒子多量(0.5ミリ大) 赤色粒子多量(0.5～1ミリ大)	黒褐色	11	–	
62	須恵器・甕？	SX1-Ⅰ区			内面・ヨコナデ 外面・正格子タタキ、ヨコナデ	良好・硬質	黒色粒子多量(0.5～1ミリ)赤色粒子少量(0.5ミリ)白色粒子少量(0.5ミリ)	赤褐色	11	–	
63	須恵器・甕？	SX1-Ⅲ区			回転ヨコナデ	良好	黒色粒子多量 白色粒子少量(1ミリ大)	灰褐色	11	–	
64	須恵器・瓶	SX1-上層	10.8/		回転ヨコナデ	良好	白色粒子少量(1ミリ大)	青灰色	11	–	
65	須恵器・鉢	SX1-上層			外面ヘラ記号		白色粒少量(1ミリ大)	青灰色	11	5	
66	須恵器・壺	SX1-Ⅲ区	/4		回転ヨコナデ、カキ目	良好	長石多量(0.5～1ミリ大)白色粒子(大)少量白色粒子少量(2ミリ大)	青灰色、暗灰色	11	–	
67	須恵器・長頸壺	SX1-上層	最大胴径・16.8		回転ヨコナデ	良好	白色粒子少量 角閃石微量白色石粒	青灰色	11	–	
68	須恵器・甕？	SX1-Ⅲ区			内面・同心円タタキ 外面・木目平行タタキ	良好・硬質	白色粒子少量(0.5ミリ) 黒色粒子少量(0.5ミリ)	外面・黒色 内面・暗灰色	11	–	自然釉
69	瓦・平瓦	SX1-Ⅰ区			内面・布目痕 外面・米印状タタキ	良好	角閃石微量	淡茶白色	11	–	
70	土師器・皿	SX1-Ⅲ区	13.3/		内面・放射状ミガキ 外面・ヨコ方向ヘラミガキ	良好	白色粒子少量 黒色粒子多量	赤褐色	12	5	
71	土師器・皿	SX1-Ⅲ区	13.6/		内面・放射状ミガキ 外面・ヨコ方向ヘラミガキ	良好	白色粒子少量 黒色粒子少量赤色粒子微量	赤褐色	12	5	
72	土師器・埦	SX1-Ⅵ区			回転ヨコナデ 底部ヘラ切り雑ナデ	良好	白色粒子・長石・角閃石	茶褐色	12	–	
73	土師器・壺	SX1-Ⅲ区		40	内面・不定方向ナデ 外面・ヨコナデ	良好	白色粒子多量(0.5～1ミリ)長石多量(0.5ミリ)角閃石多量(0.5～1.5ミリ)	暗橙色	12	–	
74	土師器・甕	SX1-Ⅰ区			内面・ヨコナデ 外面・ヨコナデ	良好	白色粒子多量(0.5～1ミリ) 黒色粒子多量(0.5～1ミリ)	赤褐色	12	–	
75	土師器・甕	SX1-Ⅲ区			ナデ	良好	白色粒子少量 角閃石微量長石微量	茶褐色	12	–	
76	土師器・甕	SX1-Ⅰ区			内面・指ヲサエ後ヨコナデ 外面・〈上部〉タテ方向ハケ目〈下部〉ハケ目	良好	白色粒子(0.5～1ミリ)多量 含有雲母(1ミリ大)少量雲母微粒子少量	淡茶白色	12	–	
77	土師器・壺	SX1-Ⅲ区			ナデ	良好	角閃石多量(1ミリ大)長石多量白色粒子少量(2ミリ大)	赤褐色	12	–	内底部１ヵ所指跡
78	土師器・壺	SX1-Ⅴ区	(14.8)/		内面・不定方向ナデ 外面・指ヲサエ後不定方向ナデ	良好	金雲母微粒子多量長石多量(1ミリ)角閃石少量(1ミリ大)	外面・橙色 内面・茶褐色	12	–	口縁部スス付着
79	土師器・壺	SX1-Ⅲ区	19/		ナデ	不良	角閃石多量 長石多量	淡黄色	12	–	
80	土師器・甕	SX1-Ⅳ区	(20)/		内面・ヘラケズリ 外面・ヨコナデ	良好	角閃石多量(1ミリ大)黒色粒子多量(1ミリ大)白色粒子多量(1ミリ大)	内面・橙色 外面・淡橙色	12	–	
81	土師器・甕(口縁部)	SX1-上層	(23)/		内面・口縁部ヨコナデ〈胴部〉タテ方向ヘラケズリ 外面・口縁部ヨコナデ〈胴部〉ミガキか？	良好	角閃石多量(1～1.5ミリ)白色粒子多量(0.5～1ミリ)白色粒子少量(0.5～1ミリ)黒色粒子多量(0.5～1ミリ)赤色粒子微量(2ミリ大)	外面・淡黄白色　口縁部・淡茶白色 胴部・淡橙色	12	–	
82	土師器・甕(口縁部)	SX1-上層	(22.2)/		内面・ヨコナデ 外面・ヨコナデ	良好	角閃石多量(0.5～1ミリ大)長石多量(0.5ミリ大)白色粒子多量(0.5ミリ)赤色粒子微量	淡橙色	12	–	
83	土師器・甕	SX1-Ⅲ区	(22) 最大胴22.8		内面・タテヘラケズリ後ナデ 外面・タテハケ目後不定方向ナデ	良好	角閃石多量(0.5～2ミリ)長石多量(0.5～1ミリ大)赤色粒子多量(0.5～2ミリ大)白色粒子多量(0.5～1ミリ大)雲母粒子多量	淡橙色	12	6	胴中央部に穿孔アリ
84	土師器・甑	SX1-Ⅲ区			ナデ	良好	長石多量 角閃石少量(1ミリ大)	茶褐色	13	–	
85	土師器・甕	SX1-Ⅲ区			内面・指押サエ後上方向ヘラケズリ、口縁部貼付け後ヨコナデ　外面・ハケ目後ナデ、部分的ミガキ	良好	長石多量(0.5ミリ大)白色粒子多量(0.5ミリ大)角閃石多量(0.5ミリ大)赤色粒子微量	白橙色	13	–	
86	土師器・甑	SX1-上層	(16.4)/		内面・口縁部ヨコナデ〈下部〉不定方向ナデ 外面・口縁部ヨコナデ〈下部〉ナデ	良好	角閃石多量(0.5～1ミリ)白色粒子多量(0.5ミリ大)黒色粒子多量(0.5～1ミリ)白色粒子少量(0.5～1ミリ)	内面・淡橙色断面・暗橙色 外面・一部白橙色、淡橙色	13	–	
87	土師器・土錘	SX1-Ⅵ区			ナデ	良好	黒色粒子少量(0.5ミリ)	淡橙色	13	–	
88	土師器・鞴の羽口	SX1-Ⅲ区			ナデ	良好だが、2次焼成による風化がみられる。	長石多量(1ミリ大)角閃石多量(1ミリ大)白色粒子多量(1ミリ大)	内面・淡灰色外面・淡橙色・淡灰色	13	6	口縁部に鉄付着
89	土師器・鞴の羽口	SX1	外径・7.4 内径・3.0		ナデ	良好	長石多量(1ミリ大)黒色粒子多量白色粒子少量	上部・灰色 下部・黄褐色	13	–	
90	土師器・鞴の羽口	SX1-Ⅲ区	外径・8.2内径・3.4		ナデ	良好	白色粒子少量 長石多量角閃石多量	淡茶色	13	–	
91	土師器・鞴の羽口	SX1-Ⅴ区			ナデ	良好だが、2次焼成による風化がみられる。	長石 角閃石多量(0.5～1ミリ)	外面・淡灰色 内面・淡橙色	13	–	
92	(石種)天草石・砥石	SX1-Ⅲ区			擦り目あり	–	砂岩か	灰白色	13	–	
93	瓦・平瓦	表採			内面・布目、布綴じ痕あり。取り外し後ハケ目 外面・格子目痕	良好	赤色粒子多量(1～2ミリ) 黒色粒子多量(0.5～2ミリ大)	白橙色	15	6	
94	木製品・柄振り	SD1			–	–	–	茶褐色	18	–	2ヶ所穿孔あり
95	須恵器・蓋	SD1	14.4/	4.2	内面・回転ヨコナデ 外面・回転ヘラケズリ	良好	白色粒子(1ミリ大)多量赤色粒子多量角閃石多量	橙色	18	6	ワラか何かの火だすき痕2本
96	須恵器・坏蓋	SD1	(13.5)/	(3.9)	内外面・ヨコナデ天井部・ヘラ切り後ナデ	良好	白色粒子(1ミリ大)多量角閃石(1ミリ大)少量長石(1ミリ大)少量	暗青灰色	18	–	
97	須恵器・坏蓋	SD1	(14)/	(3.1)	内面胴部上半・ヨコナデ見込み・不定ナデ後横方向のミガキ(指頭圧痕の痕跡あり)外面・胴部上半ヨコナデ下半(底部)回転ヘラケズリ	良好	長石(1ミリ大)中量 角閃石(1ミリ大)少量	茶灰色	18	–	底部の切り離し方法不明(ヘラ切りか？)
98	須恵器・坏蓋	SD1	(14)/	(3.8)	内面・ヨコナデ 外面・天井部回転ヘラケズリ、胴部下半ヨコナデ	良好	角閃石(1ミリ大)少量 長石(1ミリ大)中量	茶灰色	18	–	天井部の切り離し方法不明
99	須恵器・坏身	SD1	(10.3)/(3.5)	(3.8)	内面・ヨコナデ 外面・胴部上半ヨコナデ、下半回転ヘラケズリ	良好	白色粒子少量(1ミリ大) 長石少量	灰黄色	18	–	ヘラ記号あり
100	須恵器・坏身	SD1			内、外面ヨコナデ	良好	白色粒子中量(1ミリ大) 角閃石少量	暗灰色	18	–	

第３表　遺物観察表３

遺物No.	種別・器種	遺構名	法量		調整・釉薬	焼成	胎土	色調	挿図No.	図版No.	備考
			口径・底径	器高							
101	須恵器・甕	SD1			内外面回転ヨコナデ	良好	白色粒子少量(1ミリ大) 角閃石少量	外面・暗灰色 内面・黄、白斑	18	–	
102	須恵器・甕	SD1	(23)/		内外面回転ヨコナデ	良好	白色粒子多量(1ミリ大)	黄灰色	18	6	内・外面ともに自然釉付着
103	須恵器・胴部	SD1			内面・同心円文当て具痕 外面・ヘラケズリ後ナデか?	良好	堅緻	外面・黒灰色 内面・茶灰色	19	–	内面自然釉付着
104	須恵器・胴部	SD1			内面・同心円文当て具痕 外面・格子状タタキ後ナデ	良好	角閃石少量(1ミリ大) 長石中量(1ミリ大)	外面・黒灰色 内面・茶灰色	19	–	内面自然釉付着
105	土師器・甕	SD1	(0.9)/		内外面ナデ	良好	長石多量(1～2ミリ大)角閃石多量 赤色粒子中量(1ミリ大)	赤茶色	19	–	外胴部上から2/3黒斑、黒斑にすじ状の後あり、わら痕
106	土師器・胴部	SD1			内面・ナデ 外面・ハケ目後ナデ	良好	白色粒子中量(1ミリ大)長石中量 (1ミリ大)赤色粒子少量(1ミリ大)	外面・黒褐色 内面・赤茶色	19	–	
107	瓦質土器・鍋	SD1			内外面ヨコナデ	良好	白色粒子(1ミリ大)多量赤色粒子(1ミリ大)少量 角閃石(1ミリ大)少量長石(1ミリ大)多量	内面・赤褐色	19	–	口縁部内面に、工具痕あり外面胴部、指押さえ痕か?外面、煤付着
108	瓦質土器・胴部	SD1			内面・ヨコナデ 外面・ハケ目後ナデ	良好	白色粒子多量(1ミリ大)	茶灰色	19	–	
109	須恵器・坏蓋	3トレSX2 内SD3			外面・回転ヘラケズリ 内面・ヨコナデ	良好	長石多量(1ミリ大)	外面・暗灰色 内面・淡灰色	20	–	
110	須恵器・短頸壺	3トレSX2 内SD3			内外面・回転ヨコナデ 底部回転ヘラケズリ	良好	堅緻	青灰色	20	–	胴部内面にハケ目?痕アリ
111	土師器・甕	3トレSX2 内SD3	(19.2)/		口縁内外面・ヨコハケ	良好	白色粒子多量(1ミリ大) 金雲母中量(1ミリ大)	橙色	20	–	
112	磁器・碗	東壁5層			青磁釉	良好	堅緻	乳白色で透明釉がかかっている	20	–	鎬蓮弁
113	須恵器・甕	SK2			内面・同心円タタキ後ナデ 外面・回転ヨコナデ	良好	白色粒子多量(0.5ミリ大)	暗灰色	21	–	
114	瓦質土器・甕	SK3			内面・ハケ目後ナデ 外面・回転ヨコナデ	良好	金雲母多量(0.5ミリ大)角閃石微量(1ミリ大) 白色粒子少量(0.5ミリ大)	淡橙灰色	21	–	内、外面にキズあり
115	須恵器・坏蓋	SK4	(18)/		不定方向ナデ	良好	白色粒子多量(0.5ミリ大) 長石多量(0.5ミリ大)	青灰色	21	–	外面にヘラ状工具により線刻あり
116	須恵器・甑	SK4			内面・ヨコナデ 外面・回転ヘラケズリ	良好	長石少量(1ミリ大)	淡灰色	21	–	
117	瓦質土器・皿	3トレ SE1	(9.8)/(9.2)	(1.9)	回転ヨコナデ、糸きり後ナデ	良好	堅緻	淡白色	21	–	
118	瓦質土器・鍋	3トレ SE1			回転ヨコナデ	良好	金雲母多量(0.5ミリ大)長石多量(0.5～1ミリ大)角閃石多量(0.5ミリ～1ミリ大)白色粒子少量(0.5ミリ大)	内面・褐色 外面・暗褐色	21	–	
119	瓦質土器・鍋	3トレ SE1			回転ヨコナデ	良好	金雲母多量(0.5ミリ大)長石多量(0.5～1ミリ大)角閃石少量(0.5ミリ～1ミリ大)白色粒子微量(0.5ミリ大)	内面・淡赤褐色外面・暗褐色	21	–	
120	須恵器・高坏脚部	6トレ SP1	/11		内外面・ヨコナデ	良好	白色粒子多量(1ミリ大) 長石少量	暗灰色	21	–	
121	須恵器・坏蓋	5トレ SD1	(15.8)/(つまみ)径3.2高0.9	5.2	外面上部・回転ヘラケズリ 外面下部内面・ヨコナデ	良好	白色粒子多量角(1ミリ大)閃石少量	灰色	22	6	擬宝珠つまみ
122	瓦質土器・鉢	SD2			ナデ	良好	金雲母多量(0.5ミリ大)角閃石多量(0.5～1ミリ大) 黒色粒子多量(0.5ミリ大)長石少量(0.5ミリ大)	赤褐色、茶褐色	23	–	内、外面にキズあり
123	磁器・青磁碗	1トレ SD2	/(5)	(1.3)	青磁釉	良好	堅緻	透明釉	25	–	底部円外面から胴部は施釉、底部タタミ付きから、底部の外面までは無釉
124	土師器・埦	1トレ SD3			内・外面ヨコナデ	良好	黒色粒子	淡黄橙色	27	–	
125	土師器・埦	1トレ SD3			ナデ	良好	堅緻	淡茶黄色	27	–	
126	瓦質土器・鍋	1トレ SD3			内面・ナデ、回転ヨコナデ 外面・回転ヨコナデ	良好	長石少量(0.5～1ミリ大)角閃石少量(0.5～1ミリ大)白色粒子微量(0.5ミリ大)	内面・淡黄褐色 外面・黒	27	–	外面一部スス付着
127	瓦質土器・浅鉢	1トレ SD3			内面・ナデ 外面・一部にヘラケズリのちナデ、ナデ	良好	長石少量(1ミリ大)角閃石少量(0.5～1.5ミリ大)白色粒子多量(0.5ミリ大)	淡橙色	27	–	内面にナデ残しの凹凸あり
128	陶器・碗	1トレ SD3			回転ヨコナデ	良好	堅緻	透明釉	27	–	
129	土師器・埦	1トレ SD4			ナデ	良好	長石微粒子少量	淡茶灰色	27	–	
130	瓦質土器・鍋	1トレ SD4			内面・ヨコナデ	良好	赤色粒子多量(0.5ミリ大) 長石多量(0.5ミリ大)	淡橙色	27	–	外面スス付着
131	瓦質土器・鉢	1トレ SD4			内外面ヨコナデ	良好	長石多量(1ミリ大)赤色粒子少量(1～2ミリ大)白色粒子少量(1ミリ大)	青灰色	27	–	
132	瓦質土器・鉢	1トレ SD4			内外面ヨコナデ	良好	長石多量(1ミリ大)黒色粒子微量(0.5ミリ大)白色粒子多量(1ミリ大)	青灰色	27	–	口縁部に2㎜の赤い付着物あり
133	瓦質土器・鉢	1トレ SD4			内面・不定方向ナデ 外面・不定方向ナデ	良好	角閃石少量(0.5ミリ大)長石少量(0.5ミリ大)黒色粒子少量(0.5ミリ大)	淡茶白色	27	–	
134	瓦質土器・鉢	1トレ SD4			回転ヨコナデ	良好	白色粒子中量(1ミリ大)角閃石少量(1ミリ大)黒色粒子少量	褐色	27	–	
135	瓦質土器・鉢	1トレ SD4			内面・不定方向なナデ 外面・ナデ	良好	長石微量(0.5ミリ大)角閃石多量(0.5～1ミリ大) 角閃石少量(3ミリ大)白色粒子多量(0.5ミリ大)	灰白色	27	–	外面に一部黒斑あり
136	瓦質土器・擂鉢	1トレ SD4			外面・回転ヨコナデ 内面・回転ヨコ方向ヘラケズリ	良好	長石微量	灰色	27	–	
137	瓦質土器・甕	1トレ SD4			内面・ナデ 外面・ナデ	良好	白色粒子少量(0.5ミリ大)黒色粒子少量(0.5ミリ大)赤色粒子微量(0.5ミリ大)	内面・黄白色 外面・灰色	27	–	
138	瓦質土器・底部	1トレ SD4			内外面ヨコナデ	良好	長石多量(0.5ミリ大) 白色粒子少量(0.5ミリ大)	淡橙色	27	–	
139	瓦質土器・底部	1トレ SD4			内外面ヨコナデ	良好	長石多量(0.5ミリ大) 赤色粒子微量(0.5ミリ大)	淡黄色	27	–	
140	瓦質土器・火鉢	1トレ SD4			内面・回転ヨコナデ 外面・ナデ	良好	長石微量(0.5ミリ大) 黒色粒子多量(0.5ミリ大)	内面・青灰色 外面・灰白色	27	–	
141	瓦質土器・擂鉢	1トレ SD4			内面・器具による粗い櫛目痕 外面・ナデ、底部に削り痕あり	良好	堅緻	内面・暗茶灰色 外面・淡茶灰色	27	–	
142	瓦・平瓦	1トレ SD4			内面・布目痕 外面・格子状叩目痕	良好	赤色粒子多量(0.5～1ミリ大)	淡茶橙色	27	–	
143	陶器・天目茶碗	1トレ SD4			褐釉	良好	堅緻	褐色	27	6	
144	磁器・青花	1トレ SD4			透明釉	良好	堅緻	白地に植物絵の透明釉	27	6	景徳鎮窯
145	磁器・青磁碗	1トレ SD4			青磁釉	良好	堅緻	緑釉 縞連弁文様	27	–	
146	陶器・皿	1トレ SD4			藁灰釉	良好	堅緻	白濁色	27	–	17世紀初頭～前葉
147	瓦器・埦	1トレ SK1	(16)/(6.8)	5.5	内面・胴部下半ヘラミガキ 外面胴部下半・指押え	良好	白色粒子少量(1ミリ大) 角閃石多量(1ミリ大)	淡灰色	27	–	底部・ヘラ切り後ナデ
148	瓦器・埦	1トレ SK1	(16)/6.2		内面・ミガキ 外面・指押さえ	少し甘い	長石中量	真黒	27	–	重ね焼き痕跡あり
149	瓦器・埦	1トレ SK1	(15)/(5.2)	6	内面・ミガキ 外面胴部下半・指押え・ミガキ	良好	角閃石多量(1ミリ大)	淡灰色	27	–	底部・ヘラ切り後ナデ内・外面・黒斑あり
150	須恵器・瓦	1トレ SK1			内面・布目痕 外面・ナデ	良好	長石少量 白色粒子少量	内面・暗灰色外面・灰茶色	27	–	

第４表　遺物観察表４

遺物No.	種別・器種	遺構名	法量		調整・釉薬	焼成	胎土	色調	挿図No.	図版No.	備考
			口径・底径	器高							
151	須恵器・蓋	1トレ SH1			ナデ	良好	黒色粒子少量(0.5ミリ大)白色粒子少量(1ミリ大)赤色粒子微量(0.5ミリ大)	青灰色	28	–	
152	須恵器・蓋	1トレ SH1			内面・不定方向なナデ 外面・回転ヘラケズリ、ヨコナデ	良好	角閃石微量(0.5ミリ大)白色粒子微量(0.5ミリ大)	青灰色	28	–	
153	土師器・口縁部	1トレ SH1			内・外面ヨコナデ	良好	長石少量(1ミリ大)黒色粒子少量(1ミリ大)白色粒子少量(1ミリ大)	橙色	28	–	
154	土師器・甕	1トレ SH1			内面・ハケ目 外面・ハケ目後ナデ、横方向に帯状の圧痕	良好	黒色粒子少量(0.5ミリ大)長石少量(0.5～1ミリ大)黒色粒子多量	内面・淡茶黄色 外面・黄橙色	28	–	
155	鉄器・刀子	1トレ SH1	刃部長7.7厚1～3中茎長4+α		–	–	–	–	28	–	中茎部分に木質付着
156	土師器・埦	3トレ SK1	/(12.8)		内面・回転ヨコナデ、黒斑 底・板状圧痕	良好	長石多量(1ミリ大) 角閃石少量(1ミリ大)	赤褐色	29	–	
157	土師器・埦	3トレ SK1			外・ヘラミガキ	良好	角閃石少量(0.5ミリ大) 長石多量(0.5ミリ大)	黄褐色	29	–	
158	土師器・埦	3トレ SK1			外・ヘラミガキ	良好	堅緻	淡黄灰色	29	–	
159	土師器・埦	3トレ SK1			回転ヨコナデ	良好	黒色粒子少量 白色粒子少量	淡灰茶色	29	–	高台貼付痕
160	黒色土器A類・埦	3トレ SK1	/(6.2)		内面・不定方向ミガキ 外面・回転ヘラ削り	良好	長石多量	黄褐色	29	–	
161	黒色土器A類・埦	3トレ SK1	/(6.2)		回転ヨコナデ	良好	長石多量	黄褐色	29	–	内黒
162	瓦質土器・鍋	3トレ SK1			横方向のハケ目	良好	長石多量(0.5ミリ大) 角閃石多量(0.5～1ミリ大)	内面・暗茶色 外面・黒茶色	29	–	外面スス付着
163	瓦質土器・鍋	3トレ SK1			横方向のハケ目	良好	長石多量(0.5～1ミリ大) 角閃石多量(0.5～1ミリ大)	暗茶色	29	–	外面スス付着
164	瓦質土器・埦	3トレ SK1	/(8.0)		内面・ヘラミガキ 外面・回転ヨコナデ、回転ヘラケズリ	良好	長石多量(0.5ミリ大)	淡黄色	29	–	外面は全体的にススけた色で黒斑も見られる
165	瓦質土器・鍋	3トレ SK1			回転ヨコナデ	良好	角閃石多量(1ミリ大) 長石多量	黄褐色	29	–	
166	瓦・丸瓦	3トレ SK1			内面・布目痕 外面・縄目タタキ後ナデ、横方向ヘラナデ	良好	長石多量(1ミリ大) 角閃石少量(0.5～1ミリ大)	淡白色	29	–	
167	須恵器・壺？	3トレ SK2			内面・同心円タタキ 外面・横方向の平行タタキ後、縦方向のハケ目	良好	白色粒子少量	青灰色	29	–	
168	土師器・埦	3トレ SK3			内面・ヘラミガキ 外面・ヘラケズリ後ナデ	良好	長石（微粒子）少量	淡茶白色	30	–	
169	土師器・埦	3トレ SK3			ナデ	良好	長石多量(1ミリ大)	淡黄色	30	–	内面に薄赤い付着物
170	瓦質土器・底部	3トレ SK3			糸きり痕、ナデ	良好	長石多量(0.5ミリ大) 角閃石少量(0.5ミリ大)	灰褐色	30	–	
171	土師器・皿	3トレ SK1	9.6/7.4	1.3	内外面ナデ 底部・糸きり	良好	白色粒子少量(1ミリ大) 長石少量角閃石中量	橙色	30	–	口縁部から外面にかけ黒斑
172	土師器・埦	3トレ SK3	/7		内面・ミガキ 外面・ミガキ	良好	赤色粒子少量(1ミリ大) 長石多量	黄灰色	30	–	
173	土師器・埦	3トレ SK3	/(6.6)		内外面・回転ヨコナデ 底部・ヘラ切り	良好	灰色粒子少量(1ミリ大)	黄褐色	30	–	
174	土師器・埦	3トレ SK3	/(6.8)		内面・ナデ 底部・ヘラ切り	良好	角閃石少量(1ミリ大) 赤色粒子1つ	淡黄色	30	–	
175	瓦器・埦	3トレ SK3			丁寧なナデ	良好	堅緻	内面・淡茶白色 外面・暗灰色	30	–	外面炭素吸着させ黒色変化
176	須恵器・口縁部	3トレ SD1			回転ヨコナデ	良好	長石多量(1ミリ大) 角閃石少量(1ミリ大)	淡黄色	31	–	生焼け
177	土師器・甑取手	4トレ SD1			ナデ	良好	長石少量(0.5～1ミリ大)黒色粒子多量(1ミリ大)赤色粒子少量(1～2ミリ大)白色粒子少量(1ミリ大)	茶褐色	32	–	
178	須恵器・杯蓋	1トレ SD1	(14)/		内外面・ヨコナデ	少し甘い	角閃石少量（1ミリ大） 白色粒子少量(1ミリ大)	淡灰色	34	–	
179	須恵器・杯蓋	2トレ SD1			内面・回転ヨコナデ 外面・回転ヘラケズリ	良好	堅緻	青灰色	34	–	
180	須恵器・杯身	SD1			内外面・ヨコナデ	良好	白色粒子中量(1ミリ大) 長石少量(1ミリ大)	暗灰色	34	–	
181	須恵器・甕	SD1			内面・ナデ 外面・沈線文	良好	堅緻	青灰色	34	–	
182	須恵器・高杯	1トレ SD1			内面・回転ヨコナデ 外面・回転ヘラケズリ	良好	堅緻	暗灰色	34	6	
183	須恵器・瓶類	2トレ SD1			内面・ナデ後同心円文タタキ 外面・胴部格子状タタキ後ナデ	良好	堅緻	暗灰色	34	–	
184	唐津系陶器・皿				ヨコナデ	良好	長石中量（1ミリ以下）	橙灰色	35	–	蛇の目高台
185	須恵器・杯蓋	1トレ SX1			内面・不定ナデ 外面・回転ヘラケズリ	良好	白色粒子多量(1ミリ大) 黒色粒子(1ミリ大)	内面・茶灰色 外面・黒褐色	36	–	底部糸切り痕あり
186	須恵器・杯身	1トレ SX1			内外面・ヨコナデ	良好	堅緻	淡灰色	36	–	内面に1ミリの自然釉付着
187	瓦質土器・鉢	1トレ SX1			ヨコナデ	良好	赤色粒子中量(1ミリ大)長石多量(1ミリ大)角閃石中量(1ミリ大)	赤茶色	36	–	
188	瓦質土器・擂鉢	1トレ SX1			内面・ナデ後ハケ目 外面・ナデ後指押さえ	良好	長石多量(1～6ミリ大)	茶灰色	36	–	内面・縦線のヘラ状工具の痕あり外面・指押さえ痕あり
189	須恵器・杯身	1トレ SX2			外面天井部・ヘラケズリ 他はヨコナデ	良好	長石少量(1ミリ大) 白色粒子中量（1ミリ大）	淡灰色	37	–	内面かえりに3ミリの自然釉付着
190	須恵器・甕？	1トレ SX2			内面・ヨコナデ 外面・胴部上半下半ともにヘラ状工具による沈線文（4条）あり、ヨコナデ後ハケ目	良好	白色粒子多量(1ミリ大)	外面・暗灰色 内面・緑灰色	37	–	内面全体的に自然釉付着
191	瓦質土器・鍋	1トレ SX2			内面・外面ヨコナデ	良好	角閃石多量(1ミリ大)長石中量(1ミリ大)白色粒子中量(1ミリ大)赤色粒子少量(1ミリ)	暗赤褐色	37	–	外面胴部下半に2条の沈線文を施す
192	瓦質土器・鍋	1トレ SX2			内面・外面ヨコナデ	良好	長石多量(1ミリ大)白色粒子中量(1ミリ大)角閃石多量(1ミリ大)赤色粒子少量(1ミリ大)	外面・黒褐色 内面・淡黄色	37	–	外面胴部上半に煤付着
193	瓦質土器・鍋	1トレ SX2			ヨコナデ	良好	長石少量(1ミリ大) 白色粒子中量（2ミリ大）	赤灰色	37	–	外面口縁部に1条の沈線文を施す
194	土師器・土錘	1トレ SX2	8.5/最大胴径1.3	4.2	ナデ	良好	角閃石中量（1ミリ大）	乳白色	37	–	
195	須恵器・杯身				回転ヨコナデ	良好	堅緻	青灰色	38	–	
196	陶器・碗				回転ヨコナデ	良好	堅緻	茶褐色に緑色釉	38	–	

写　真　図　版

調査区遠景（南から）

SH-1 全景（東から）

SD-3･4･5 全景（南から）

SX-1 内焼土遺構（東から）

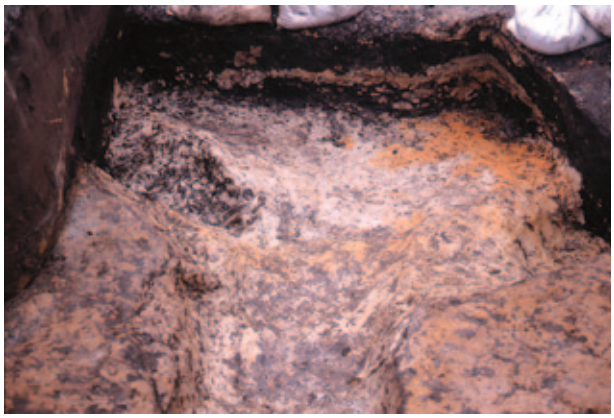
SX-1 内遺物出土状況

写真図版２　２次調査区

調査区南全景（東から）

SD-1 木製品（柄振り）出土状況（東から）

SD-1 内遺物（95）出土状況



1 トレンチSX-1 全景（東から）

2 トレンチSD-1 全景（南から）

調査区遠景（南から）

１トレンチSD-4 全景（南から）

１トレンチSH-1カマド検出状況（東から）

１トレンチSD-4 馬歯出土状況

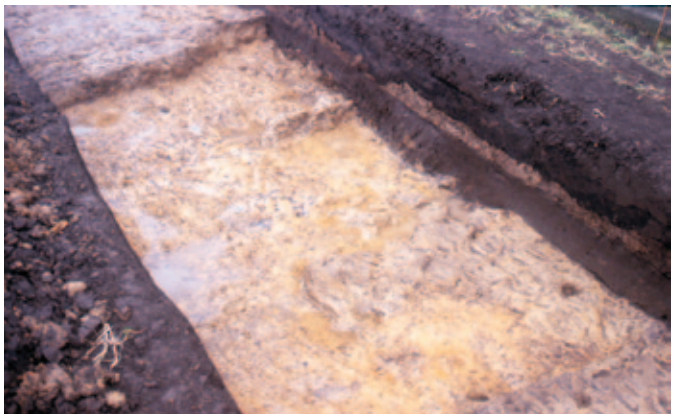
亀田先生視察状況

写真図版４　４次調査区

調査区遠景（北から）

２トレンチSD-1 全景（東から）

１トレンチSX-1 全景（北から）



１トレンチSD-3 全景（北から）

1

25

30

54

60

65

70

71

写真図版６　出土遺物

83

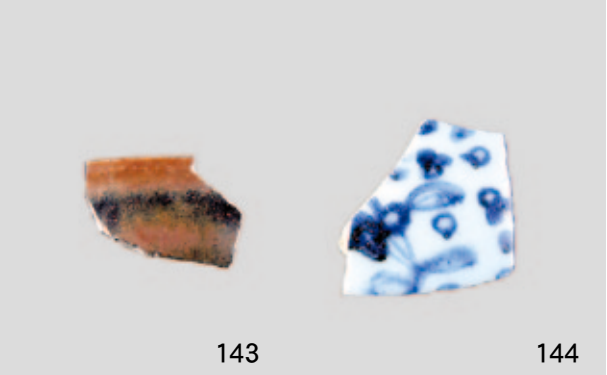
88

93

95

102

121


143　144

182

報　告　書　名　抄　録

ふりがな	いちばいせき　じちょうさ
書名	市場遺跡1～４次調査
副書名	市立鶴居小学校グラウンド拡張・体育館改築、鶴居コミュニティセンター改築・駐車場造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	中津市文化財調査報告
シリーズ番号	第71集
編集者名	浦井　直幸
編集機関	中津市教育委員会
所在地	〒871-8501　大分県中津市豊田町14番地3　TEL 0979-22-1111
発行年月日	2015年３月31日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	市町村コード	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
市場遺跡1次調査（いちばいせきじちょうさ）	大分県中津市（おおいたけんなかつし） 大字湯屋202-2他（おおあざゆや）	44203	203040	33° 34′ 28″	131° 11′ 26″	19920415 ～ 19920603	370㎡	市立鶴居小学校グラウンド拡張
市場遺跡2次調査（いちばいせきじちょうさ）	大分県中津市（おおいたけんなかつし） 大字相原3740-1他（おおあざあいはら）	44203	203040	33° 34′ 28″	131° 11′ 32″	20090119～20090209 20090518～20090603	140㎡	鶴居コミュニティセンター改築
市場遺跡3次調査（いちばいせきじちょうさ）	大分県中津市（おおいたけんなかつし） 大字湯屋225番地（おおあざゆや）	44203	203040	33° 34′ 31″	131° 11′ 26″	20090305 ～ 20090324	360㎡	市立鶴居小学校体育館改築
市場遺跡4次調査（いちばいせきじちょうさ）	大分県中津市（おおいたけんなかつし） 大字相原3738番地（おおあざあいはら）	44203	203040	33° 34′ 28″	131° 11′ 33″	20100514 ～ 20100528	110㎡	鶴居コミュニティセンター駐車場造成

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
市場遺跡1次調査	集落	古墳	住居・溝 鍛冶炉	須恵器・土師器 鉄滓・炉壁	古墳時代後期の可能性のある炉穴を検出。
市場遺跡2次調査	集落	古墳	土坑・溝	須恵器・土師器 木製品	古墳時代後期の溝から柄振りが出土。
市場遺跡3次調査	集落	古墳 古代 中世	住居 土坑・溝	須恵器・土師器 瓦質土器	古墳時代後期のオンドル住居を検出。16世紀頃に機能した堀跡検出。
市場遺跡4次調査	集落	古墳 近世	土坑・溝	須恵器・土師器	古墳後期の溝を検出。

要約

1次調査において炉穴を検出した。古墳時代後期の遺物が出土しているが、廃棄土坑から時期の下る都城系土師器、古代の遺物も出土しており遺構の時期は明確にできなかった。

2次調査では古墳時代後期の溝から木製品・柄振りが出土した。当該期の木製農工具の発見は市内で初例である。

3次調査では古墳時代後期のオンドル状遺構をもつ住居跡を検出した。また、中世城館に関係すると思われる堀跡を確認した。

4次調査では古墳時代後期の溝を検出した。

市場遺跡　１～４次調査

市立鶴居小学校グラウンド拡張・体育館改築、
鶴居コミュニティセンター改築・駐車場造成に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

中津市文化財調査報告 第71集

2015年３月31日

発行　中津市教育委員会
印刷　㈱川原田印刷社